

1 アンケート調査実施の目的

経済的な困窮をはじめ、養育・教育面での困難、親子間及び世間との関係の乏しさ、経験の不足、その他様々な要因により困難な状況を抱える子ども（「子どもの貧困」）について、広く関係機関等から客観的な意見を聞くことにより、現状を把握するとともに、関係各課と情報を共有し今後の政策展開に活かすことを目的とする。

2 アンケートの対象

学校・園、NPO団体、民生委員・児童委員、愛育委員など約650の団体及び関係者

3 アンケート期間

平成29年1月23日～平成29年3月3日

4 アンケート回収状況

配付数：651団体（人） 回収数：473団体（人） 回収率：72.7%

アンケートから見えてきた現状と課題

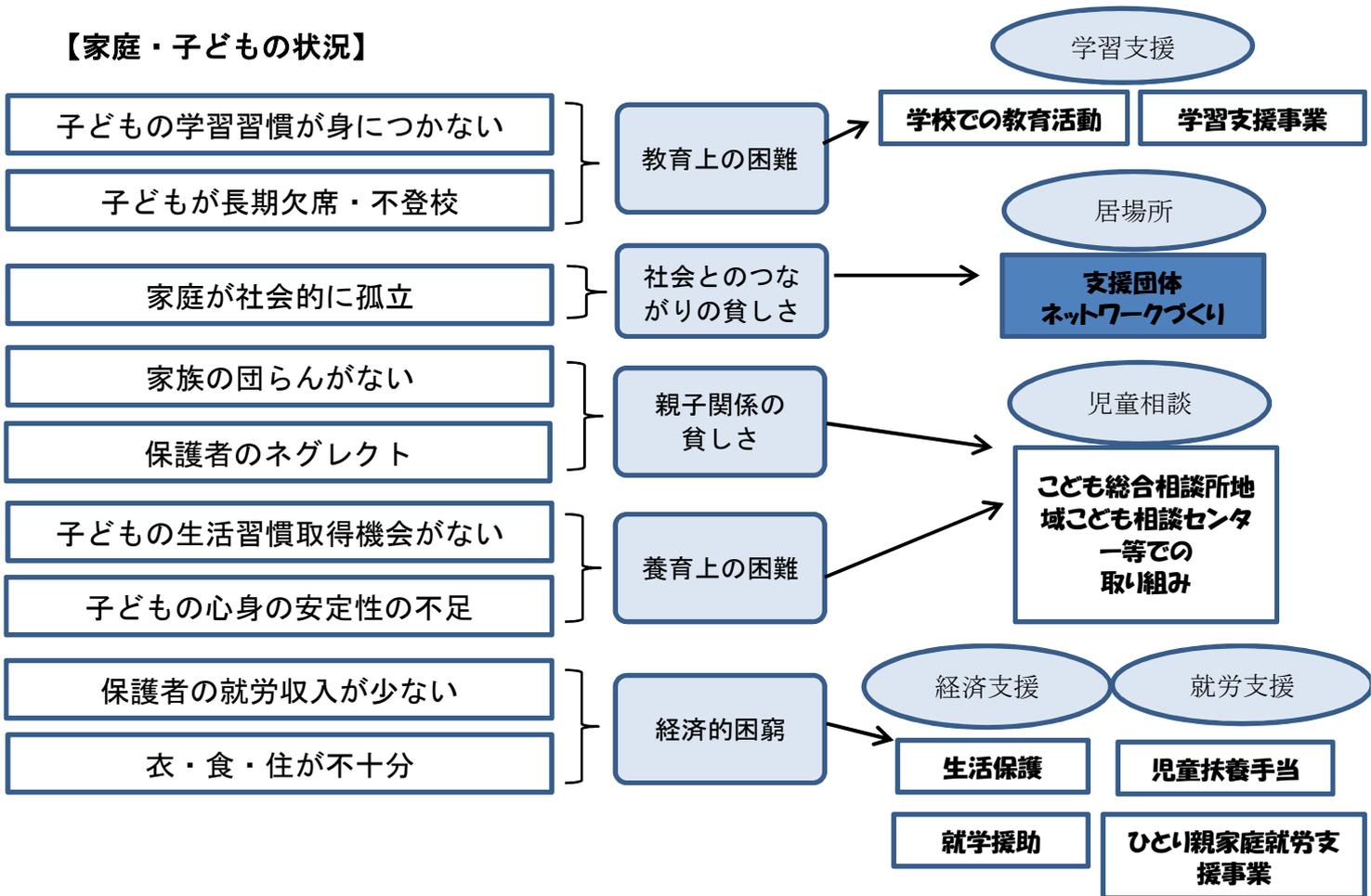
現状

課題

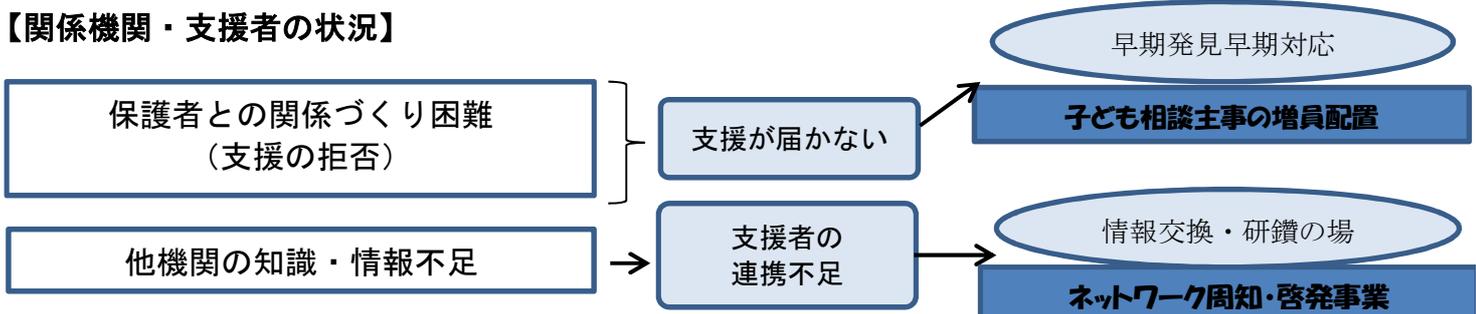
対策

事業

【家庭・子どもの状況】



【関係機関・支援者の状況】



(案)

岡山市子どもの生活に関する実態調査 (関係機関等へのアンケート調査)

【概要版】

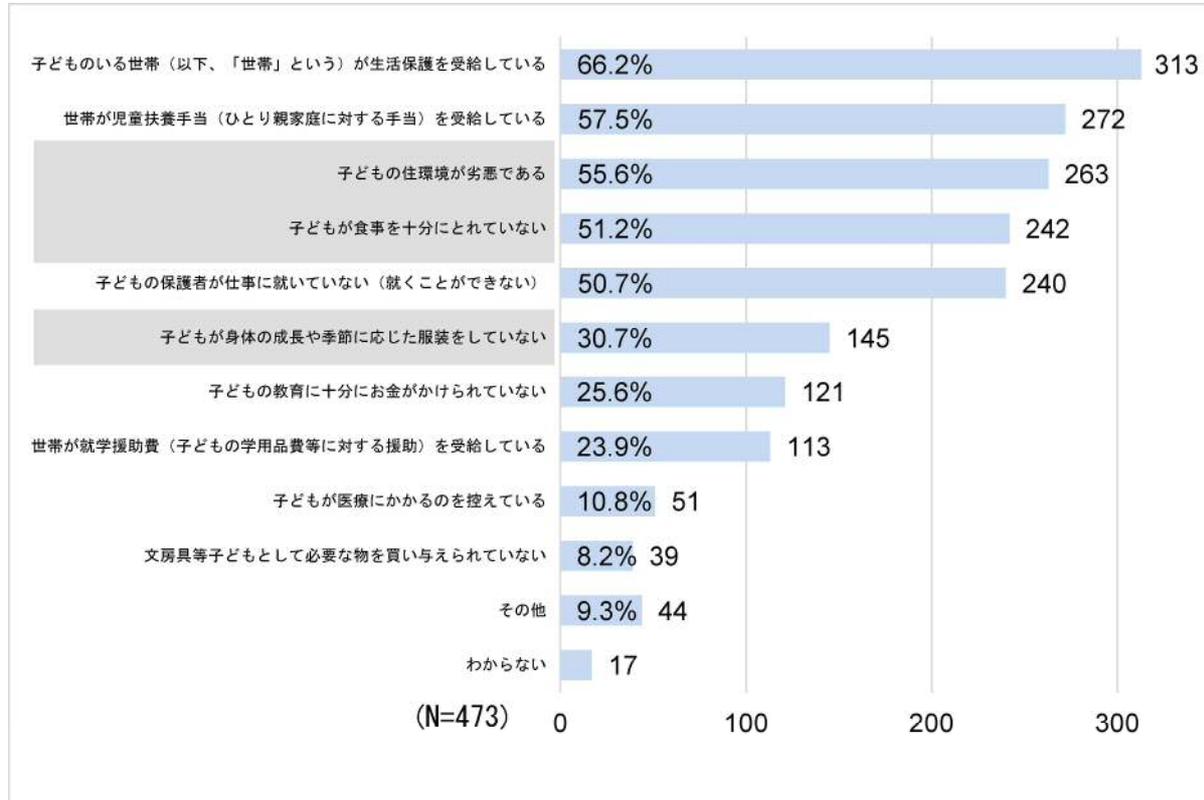
平成 29 年 3 月

岡山市子どもの貧困対策推進本部

■困難を抱える子ども(「子どもの貧困」)に関する、あなたご自身の経験についてうかがいます。

【問4】

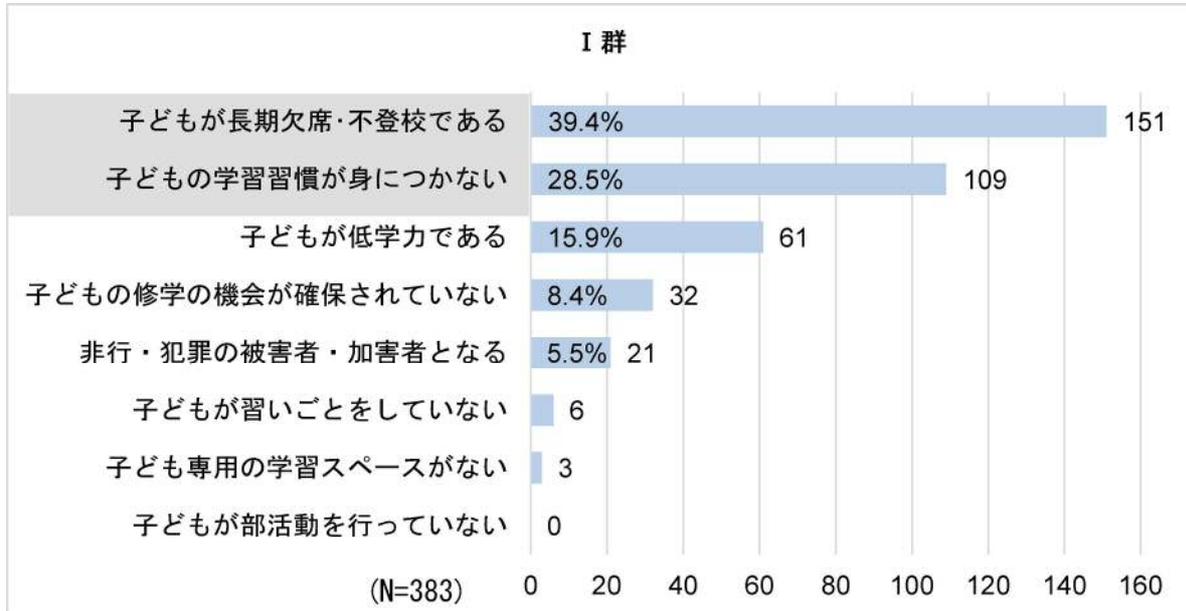
あなたがこれまで子どもや家庭に関わってこられた中で、どのような「困難を抱える状況」にある子どもがいましたか。主なものを選んでください。(5つ以内)



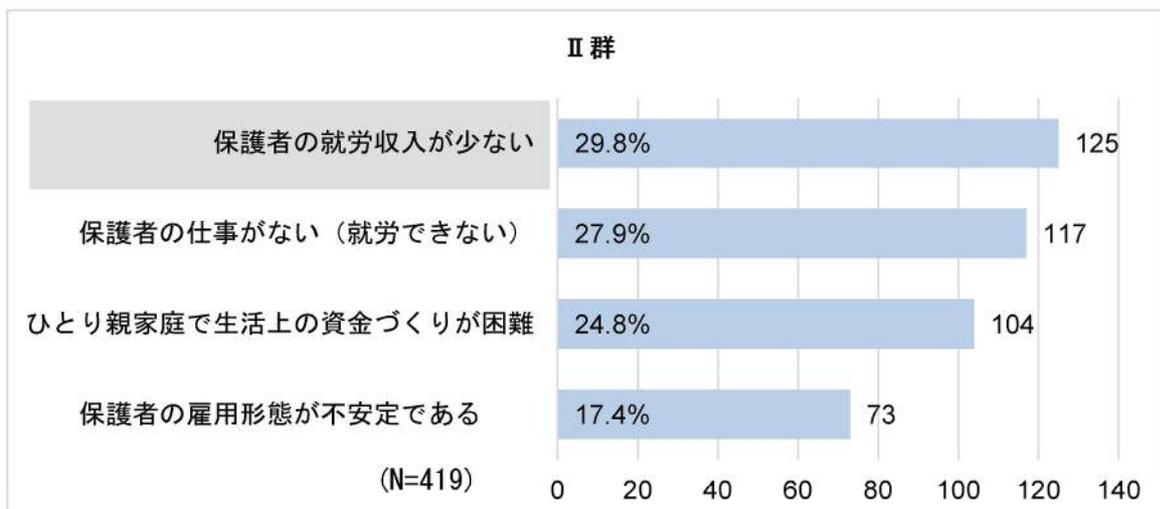
- ・「子どものいる世帯が生活保護を受給している」と回答した人が最も多く 313 人(66.2%)である。
- ・以下、「世帯が児童扶養手当を受給している」で 272 人(57.5%)、「子どもの住環境が劣悪である」が 263 人(55.6%)と続いている。

【問 5】

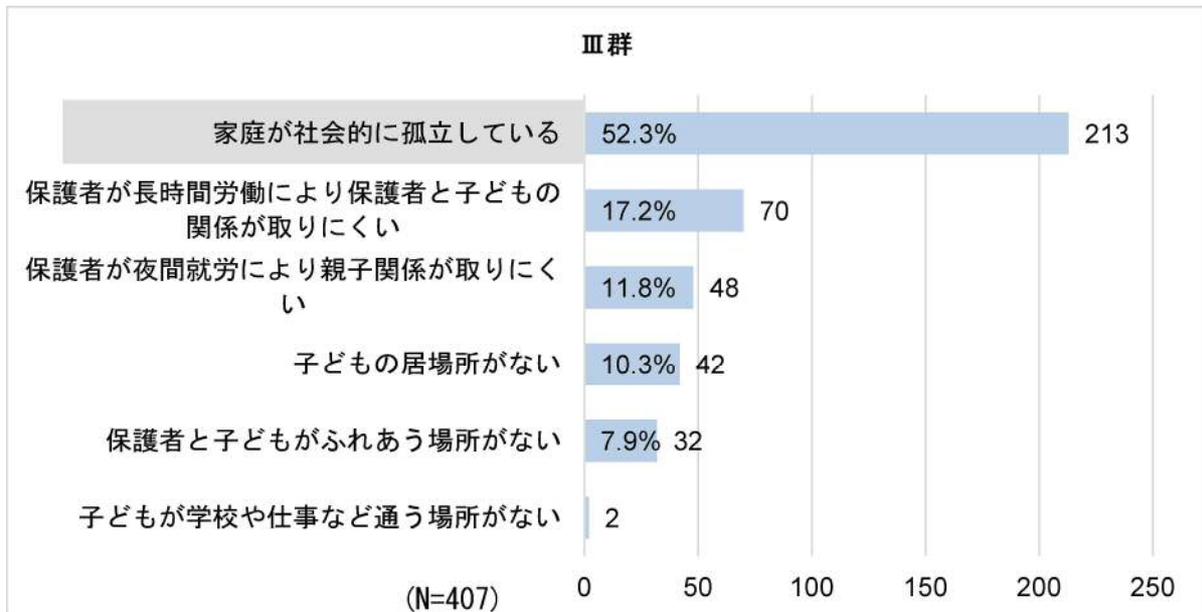
あなたがこれまで子どもや家庭に関わってこられた中で、**困難を抱える子ども**がそのような状況になる原因はどこにあると考えておられますか。I 群～IV 群からそれぞれ 1 つ選んでください。



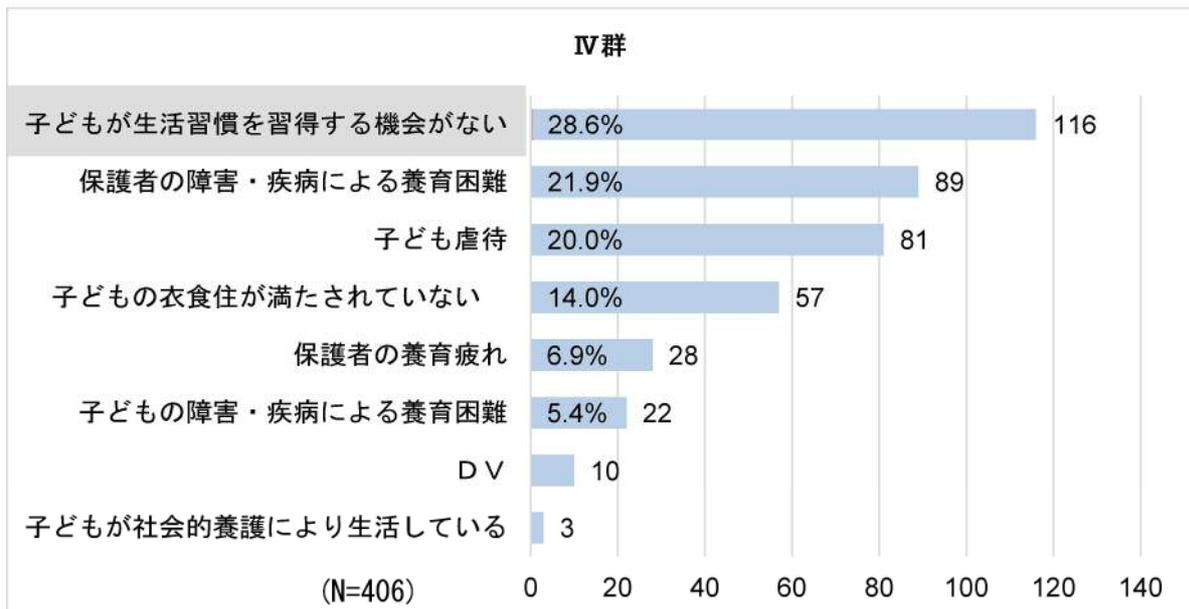
- ・「子どもが長期欠席・不登校である」と回答した人が最も多く 151 人 (39.4%) である。
- ・以下、「子どもの学習習慣が身につかない」で 109 人 (28.5%)、「子どもが低学力である」が 61 人 (15.9%) と続いている。



- ・「保護者の就労収入が少ない」と回答した人が最も多く 125 人 (29.8%) である。
- ・以下、「保護者の仕事がない（就労できない）」で 117 人 (27.9%)、「ひとり親家庭で生活上の資金づくりが困難」が 104 人 (24.8%) と続いている。



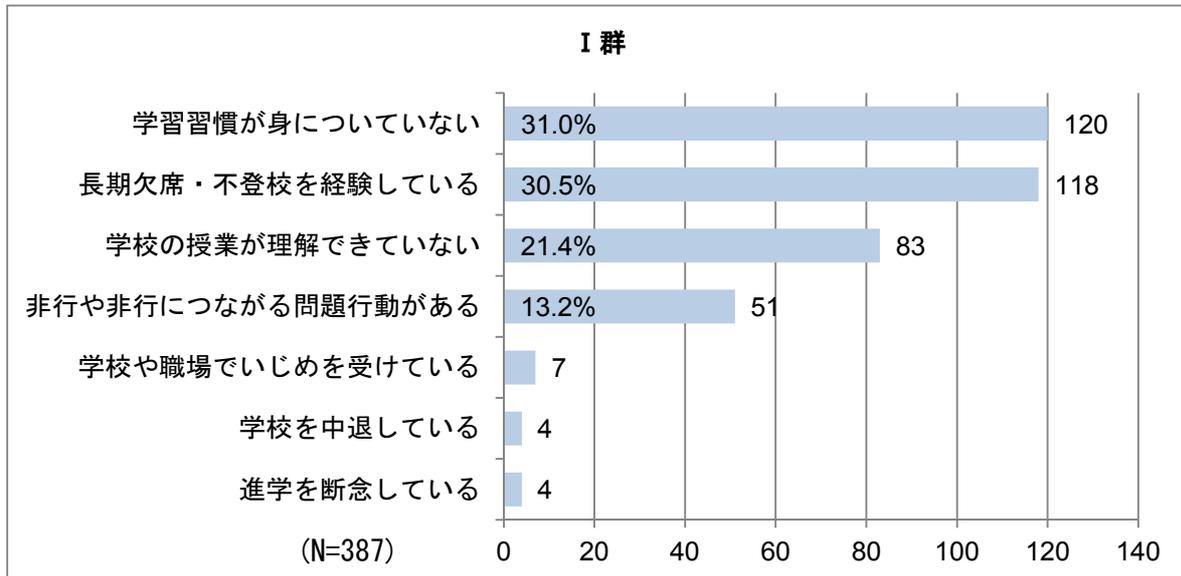
- ・「家庭が社会的に孤立している」と回答した人が最も多く 213 人(52.3%)である。
- ・以下、「保護者が長時間労働により保護者と子どもの関係が取りにくい」で 70 人(17.2%)、「保護者が夜間就労により親子関係が取りにくい」が 48 人(11.8%)と続いている。



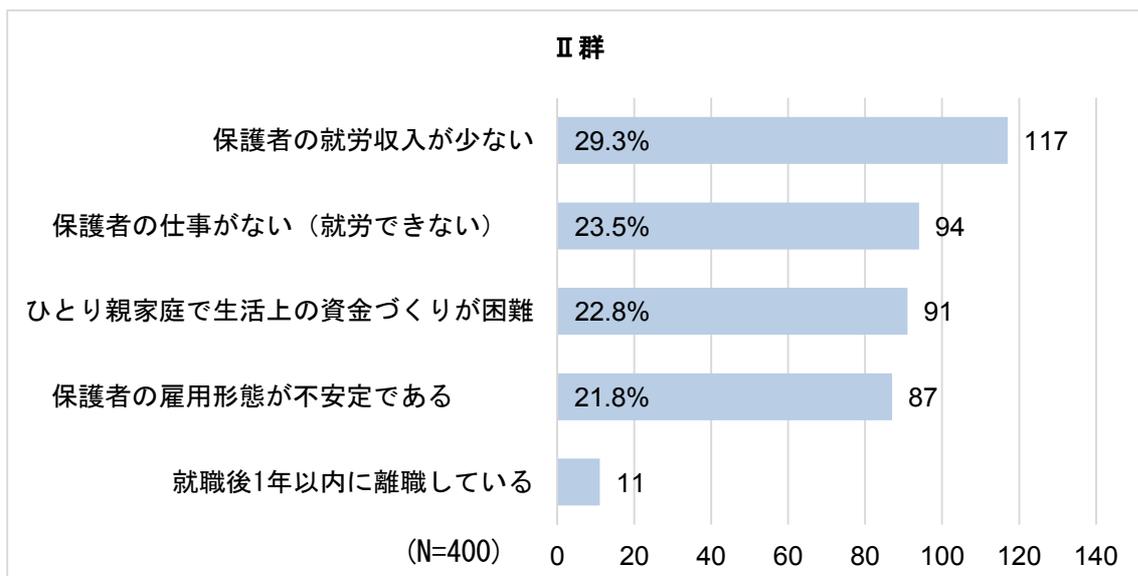
- ・「子どもが生活習慣を習得する機会がない」と回答した人が最も多く 116 人(28.6%)である。
- ・以下、「保護者の障害・疾病による養育困難」で 89 人(21.9%)、「子ども虐待」が 81 人(20.0%)と続いている。

【問6】

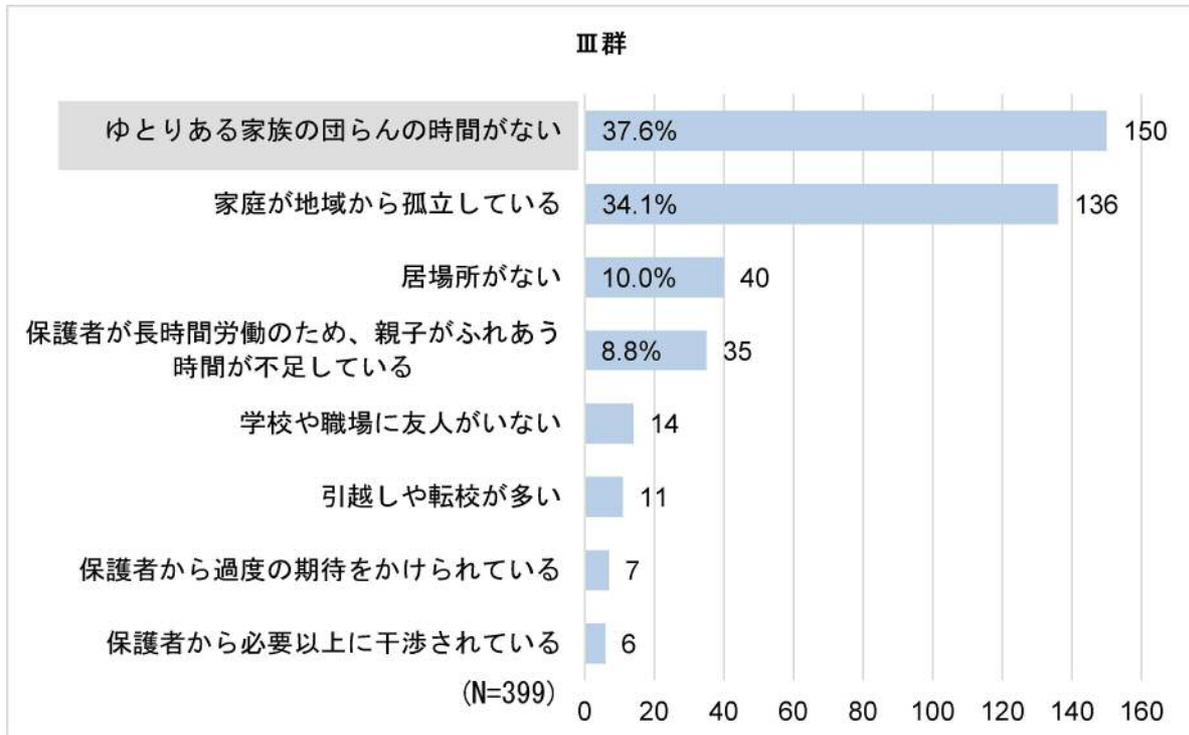
あなたがこれまで子どもや家庭に関わってこられた中で、困難を抱える子どもは併せてどのような状況にありましたか。I群～IV群からそれぞれ1つ選んでください。



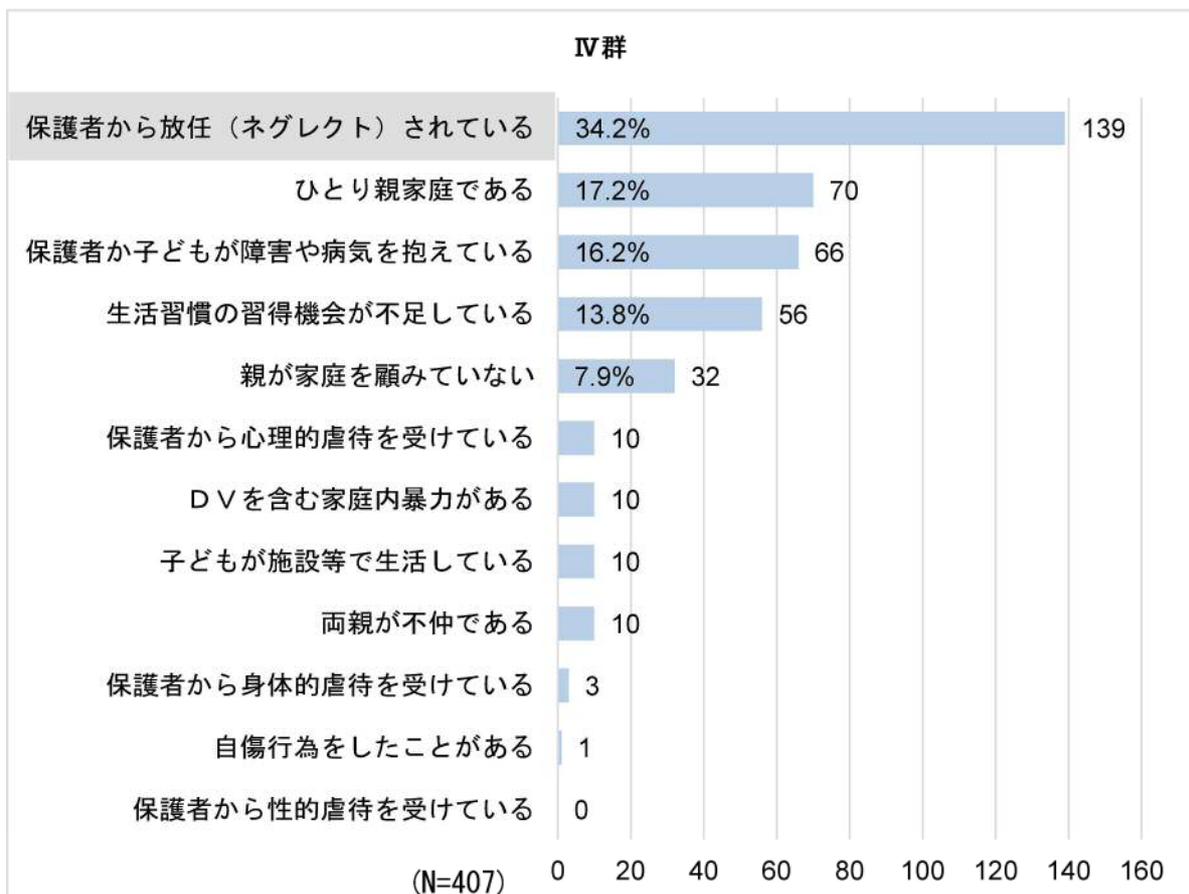
- ・「学習習慣が身につけていない」と回答した人が最も多く120人(31.0%)である。
- ・以下、「長期欠席・不登校を経験している」で118人(30.5%)、「学校の授業が理解できていない」が83人(21.4%)と続いている。



- ・「保護者の就労収入が少ない」と回答した人が最も多く117人(29.3%)である。
- ・以下、「保護者の仕事がない(就労できない)」で94人(23.5%)、「ひとり親家庭で生活上の資金づくりが困難」が91人(22.8%)と続いている。



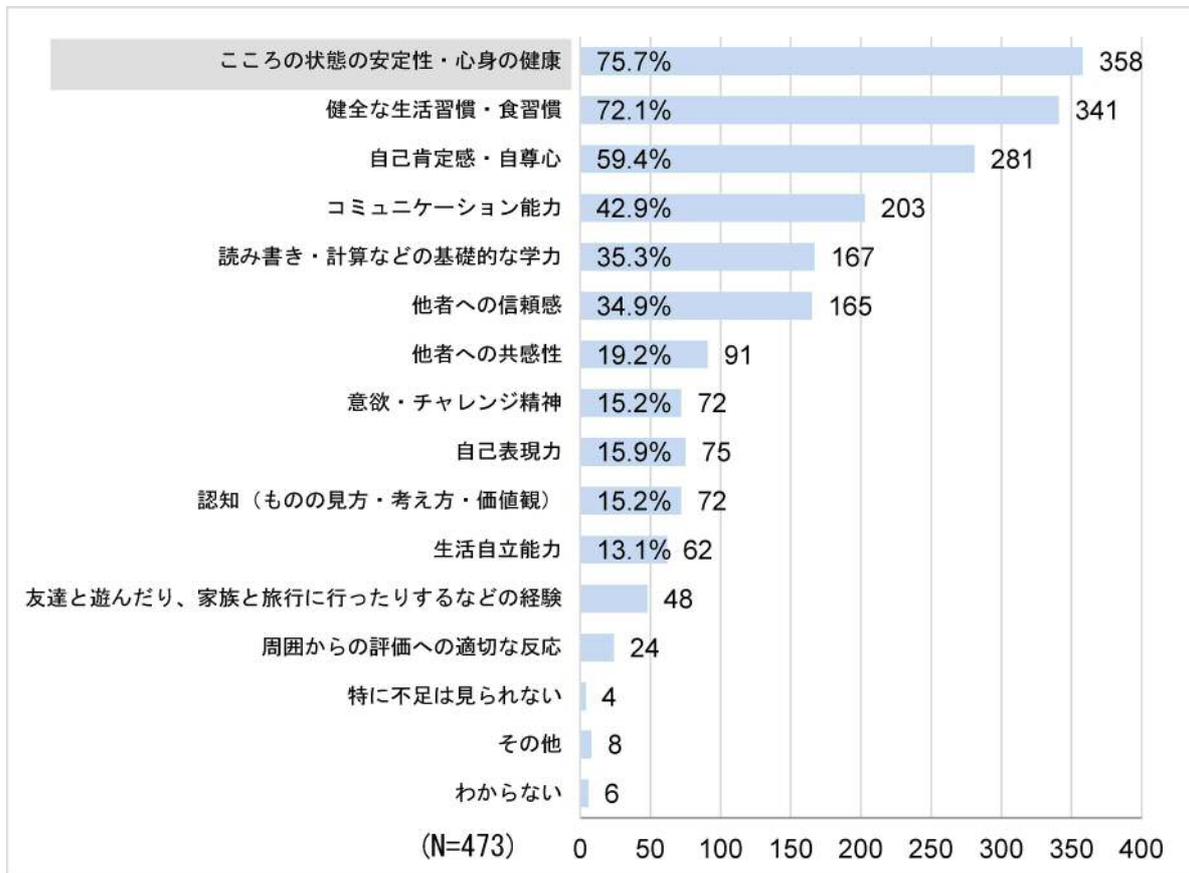
- ・「ゆとりある家族の団らんの時間がない」と回答した人が最も多く150人(37.6%)である。
- ・以下、「家庭が地域から孤立している」で136人(34.1%)、「居場所がない」が40人(10.0%)と続いている。



- ・「保護者から放任（ネグレクト）されている」と回答した人が最も多く139人(34.2%)である。
- ・以下、「ひとり親家庭である」で70人(17.2%)、「保護者か子どもが障害や病気を抱えている」が66人(16.2%)と続いている。

【問 7】

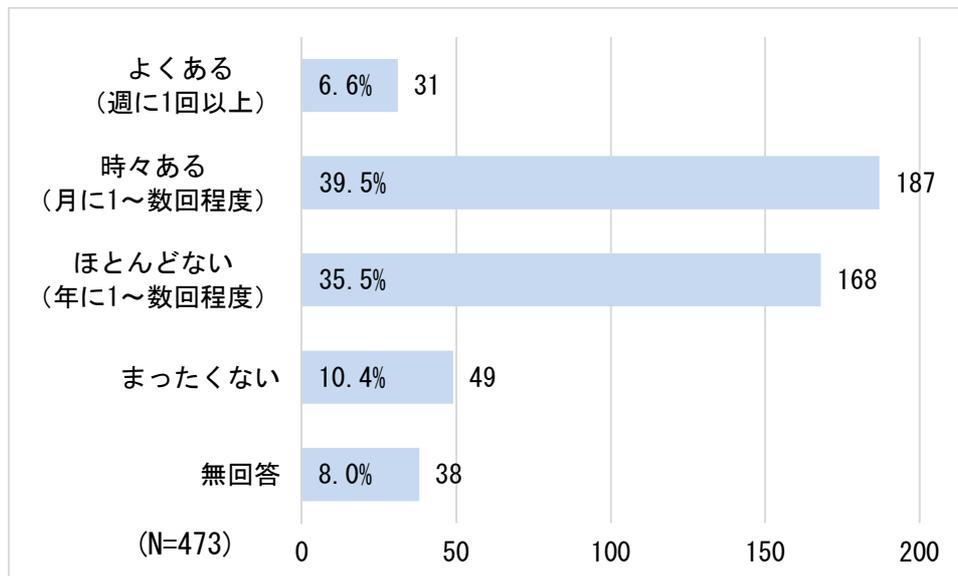
あなたのこれまでのご経験から見て、困難を抱える子どもはどのような項目において不足していると思われますか。主なものを選んでください。(5つ以内)



- ・「心の状態の安定性・心身の健康」と回答した人が最も多く 358 人(75.7%)である。
- ・以下、「健全な生活習慣・食習慣」で 341 人(72.1%)、「自己肯定感・自尊心」が 281 人(59.4%)と続いている。

【問 10】

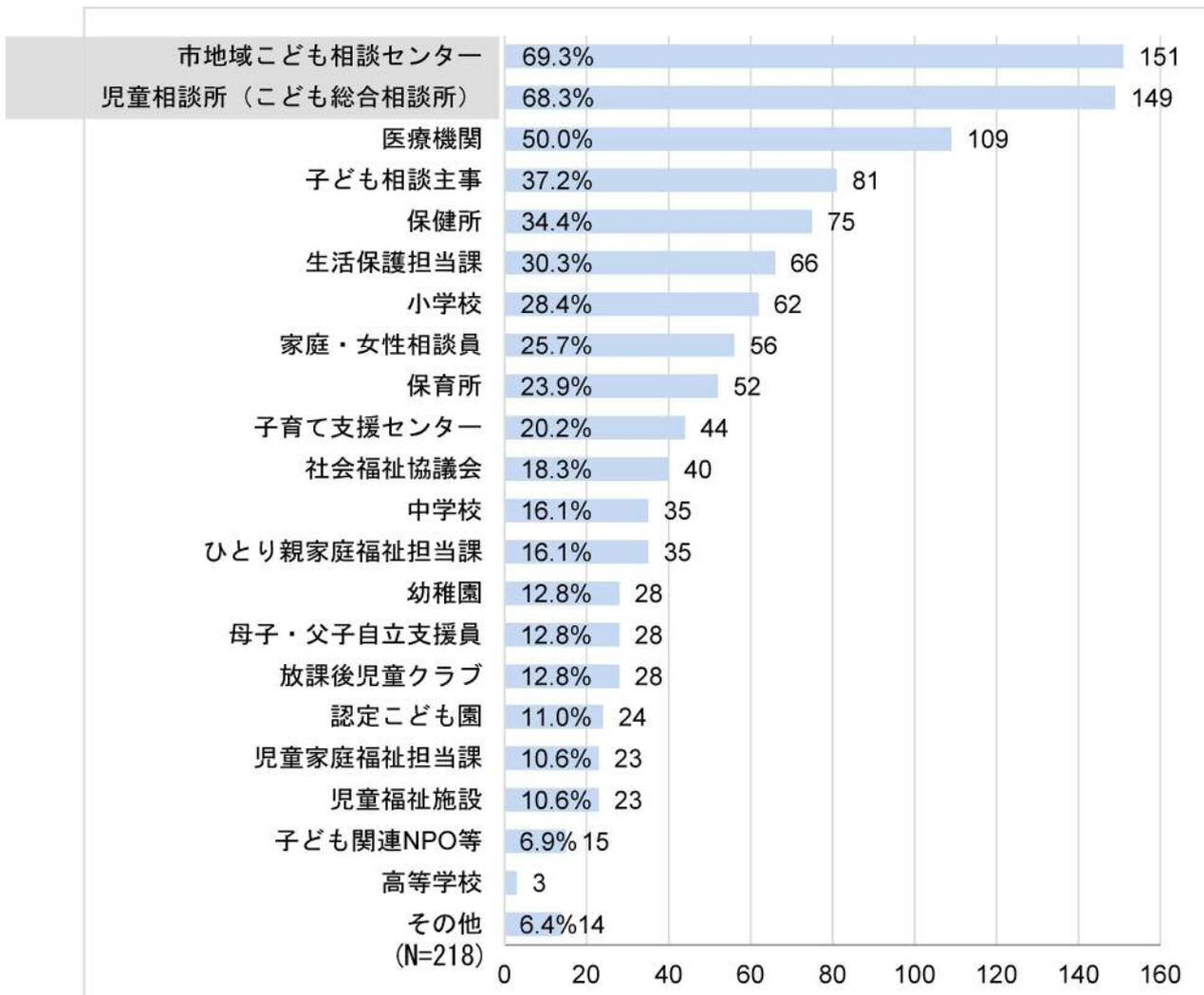
あなたは、困難を抱える子どもの家庭に対し、他の機関で受けられるサービスを紹介することがありますか。あてはまる番号を1つ選んでください。



- ・「時々ある（月に1～数回程度）」と回答した人が最も多く187人(39.5%)である。
- ・以下、「ほとんどない（年に1～数回程度）」で168人(35.5%)、「よくある(週に1回以上)」が31人(6.6%)、と続いている。
- ・「時々ある（月に1～数回程度）」と「よくある(週に1回以上)」を合わせると、全体の46.1%となる。

【問 10-1】

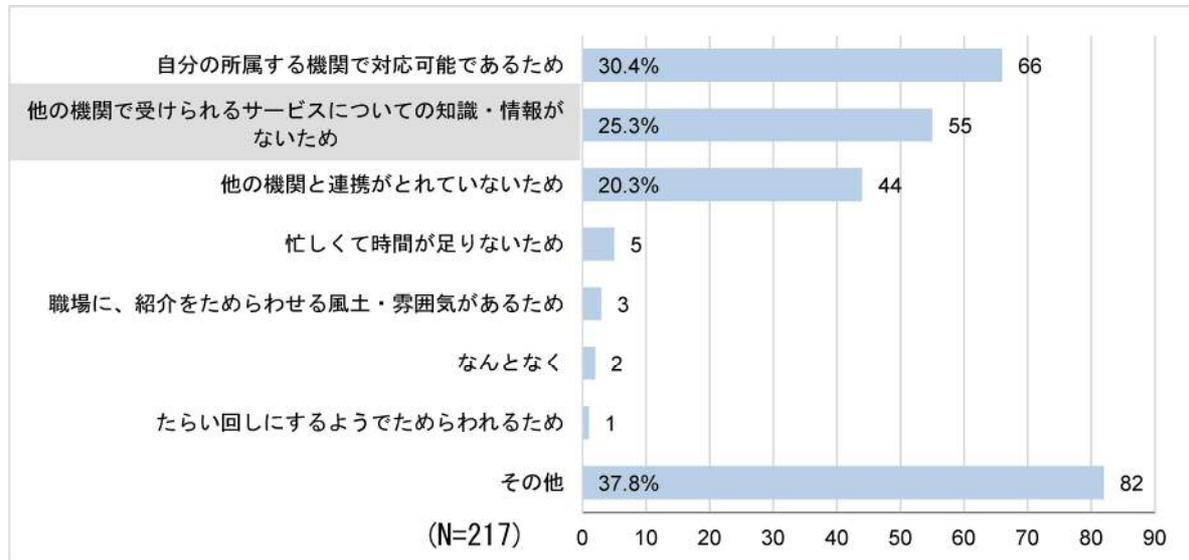
問 10 で「1 よくある」または「2 ときどきある」とお答えした方のみにおたずねします。どの機関で受けられるサービスを紹介することが多いですか。あてはまる番号すべてを選んでください。



- ・「市地域こども相談センター」と回答した人が最も多く 151 人(69.3%)である。
- ・以下、「児童相談所 (こども総合相談所)」で 149 人(68.3%)、「医療機関」が 109 人(50.0%)と続いている。

【問 10-2】

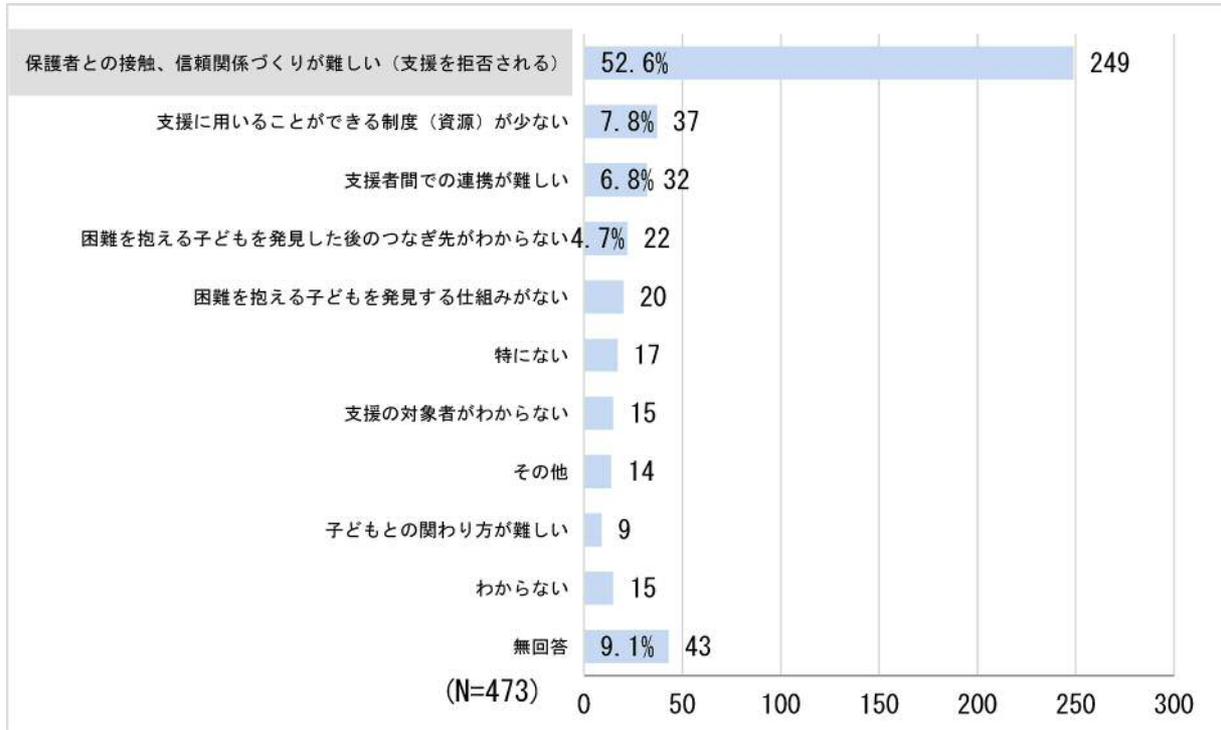
問 10 で「3 ほとんどない」または「4 まったくない」とお答えした方のみにおたずねします。他の機関で受けられるサービスを紹介しない理由について、あてはまる番号すべてを選んでください。



- ・「自分の所属する機関で対応可能であるため」と回答した人が最も多く 66 人(30.4%)である。
- ・以下、「他の機関で受けられるサービスについての知識・情報がないため」で 55 人(25.3%)、「他の機関と連携がとれていないため」が 44 人(20.3%)と続いている。

【問 11】

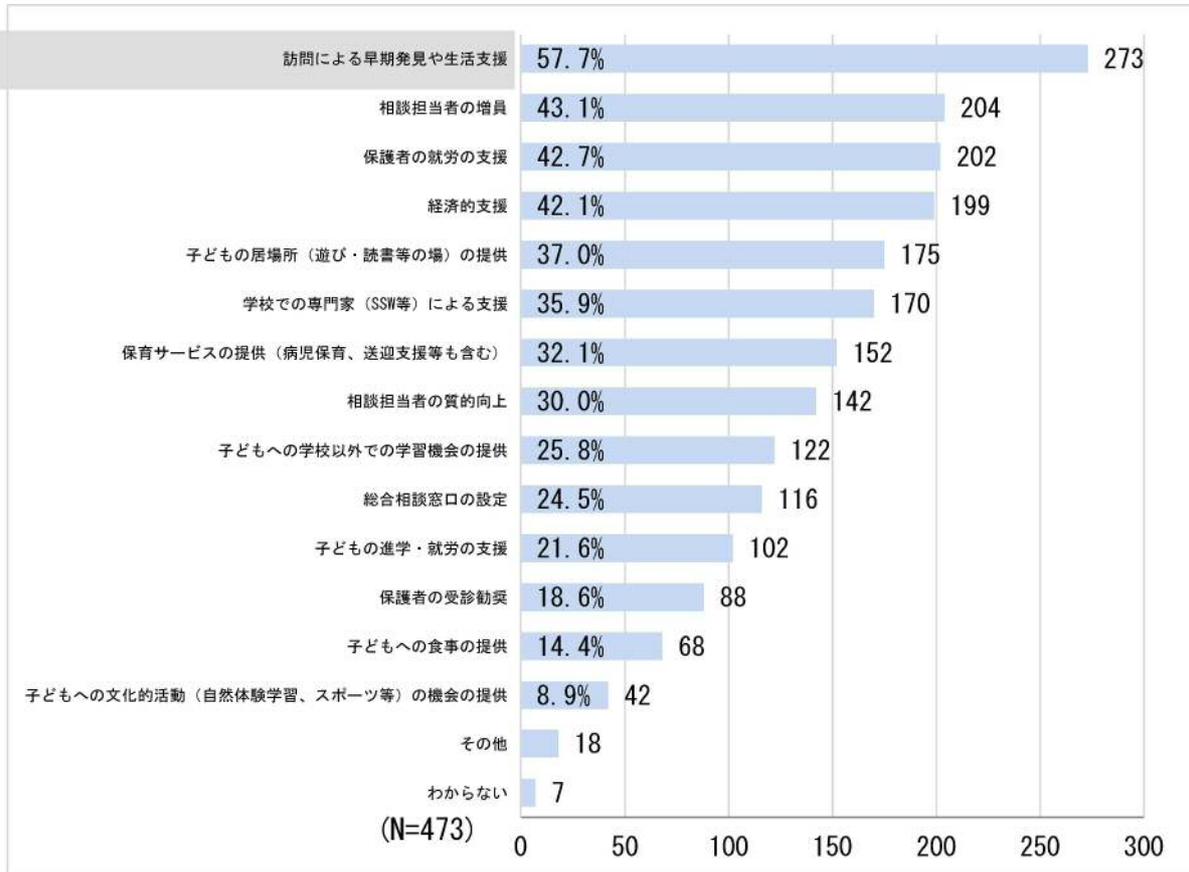
あなたは、困難を抱える子どもとその家庭への支援にあたって、どのような点が困難だと感じていますか。もっともあてはまる番号を1つだけ選んでください。



- ・「保護者との接触、信頼関係づくりが難しい（支援を拒否される）」と回答した人が最も多く 249 人 (52.6%) である。
- ・以下、「支援に用いることができる制度（資源）が少ない」で 37 人 (7.8%)、「支援者間での連携が難しい」が 32 人 (6.8%) と続いている。

【問 12】

あなたは、(自分が所属する機関で実際に取り組まれている支援いかにかわらず)一般的に、困難を抱える子どもや保護者に対し、どのような支援がもっと必要だと思いますか。特に必要だと思う番号を5つ選んでください。



- ・「訪問による早期発見や生活支援」と回答した人が最も多く 273 人(57.7%)である。
- ・以下、「相談担当者の増員」で 204 人(43.1%)、「保護者の就労の支援」が 202 人(42.7%)と続いている。

(案)

**岡山市子どもの生活に関する実態調査
(関係機関等へのアンケート調査)**

平成 29 年 3 月

岡山市子どもの貧困対策推進本部

目 次

I 調査概要

1	調査目的	1
2	調査方法	1
3	回収結果	1
4	報告書の見方	1

II 調査結果

1	回答者自身のことについて	2
2	困難を抱える子どもに関する回答者の経験について	4
3	所属機関等の支援の取り組みについて	12
4	回答者自身の働き方や職場環境について	20
5	関係機関種類別回答結果	25

I 調査概要

1 調査目的

経済的な困窮をはじめ、養育・教育面での困難、親子間及び世間との関係の乏しさ、経験の不足、その他様々な要因により困難な状況を抱える子ども（「子どもの貧困」）について、広く関係機関等から客観的な意見を聞くことにより現状を把握するとともに、関係各課と情報を共有し今後の政策展開に生かすことを目的にアンケート調査を実施する。

2 調査方法

- (1) 調査対象 岡山市全域の学校・園、市関係部署、関係機関、NPO等関係団体、民生委員・児童委員、愛育委員等地域の支援者など、約650の団体（者）
- (2) 調査方法 郵送、Eメール等でアンケート調査票を配付
- (3) 調査期間 平成29年1月23日～平成29年3月3日

3 回収結果

有効配付数：651団体（人） 回収数：473団体（人） 回収率：72.7%

4 報告書の見方

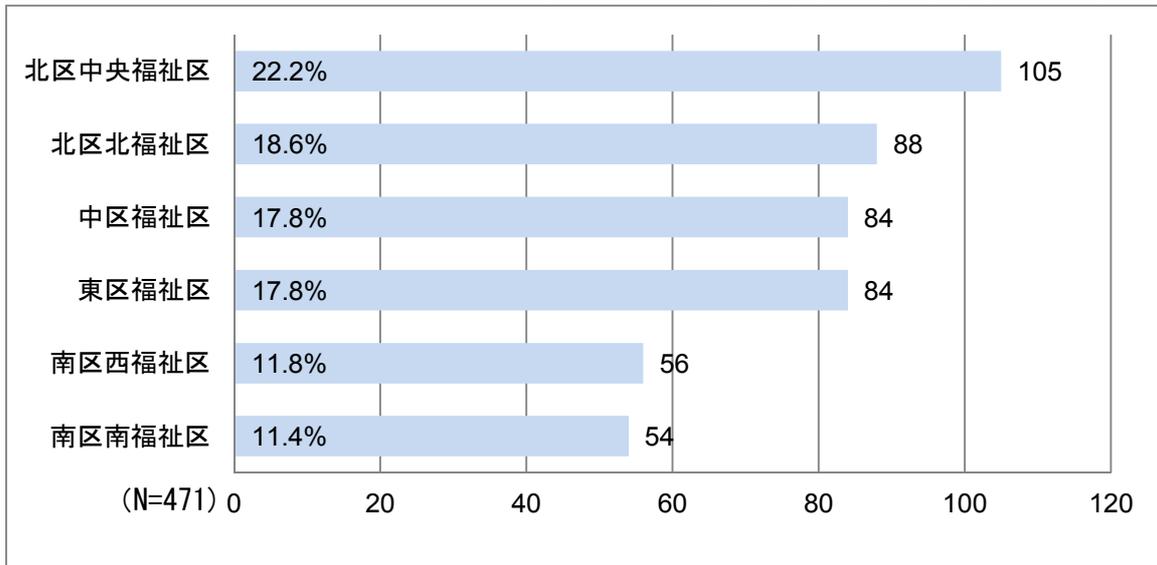
- (1) 本文及び図中に示した調査結果の数値は実数及び各質問の回答者数（N）を基礎とした百分比（%）で示してある。百分比の数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100.0%とならない場合がある。
- (2) 複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超える場合がある。
- (3) 図表において、回答選択肢を簡略化して表記している場合がある。

II 調査結果

■あなたご自身のことについてうかがいます。

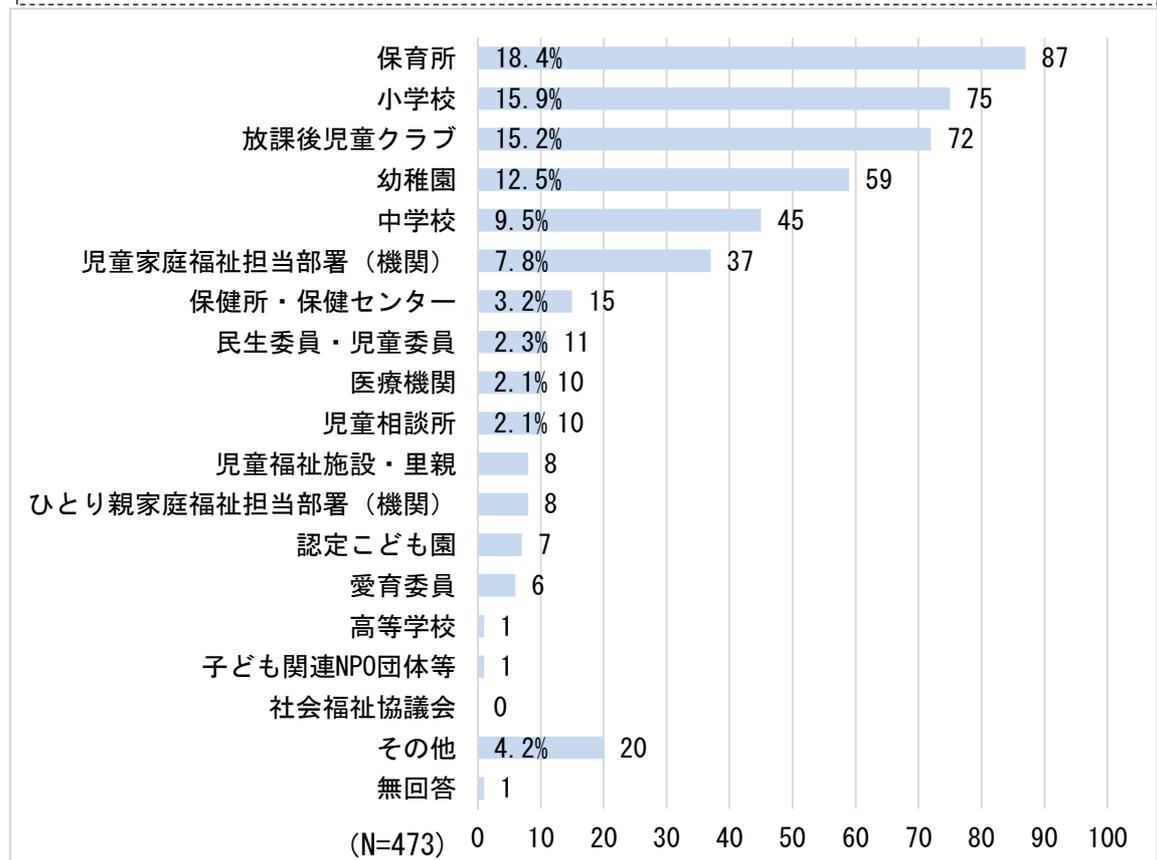
【問1】

あなたは岡山市内のどの地域で働いておられますか。あてはまる番号を1つ選んでください。なお、働く地域が複数にまたがる場合は、最も長い時間働いているものを1つだけ選んでください。



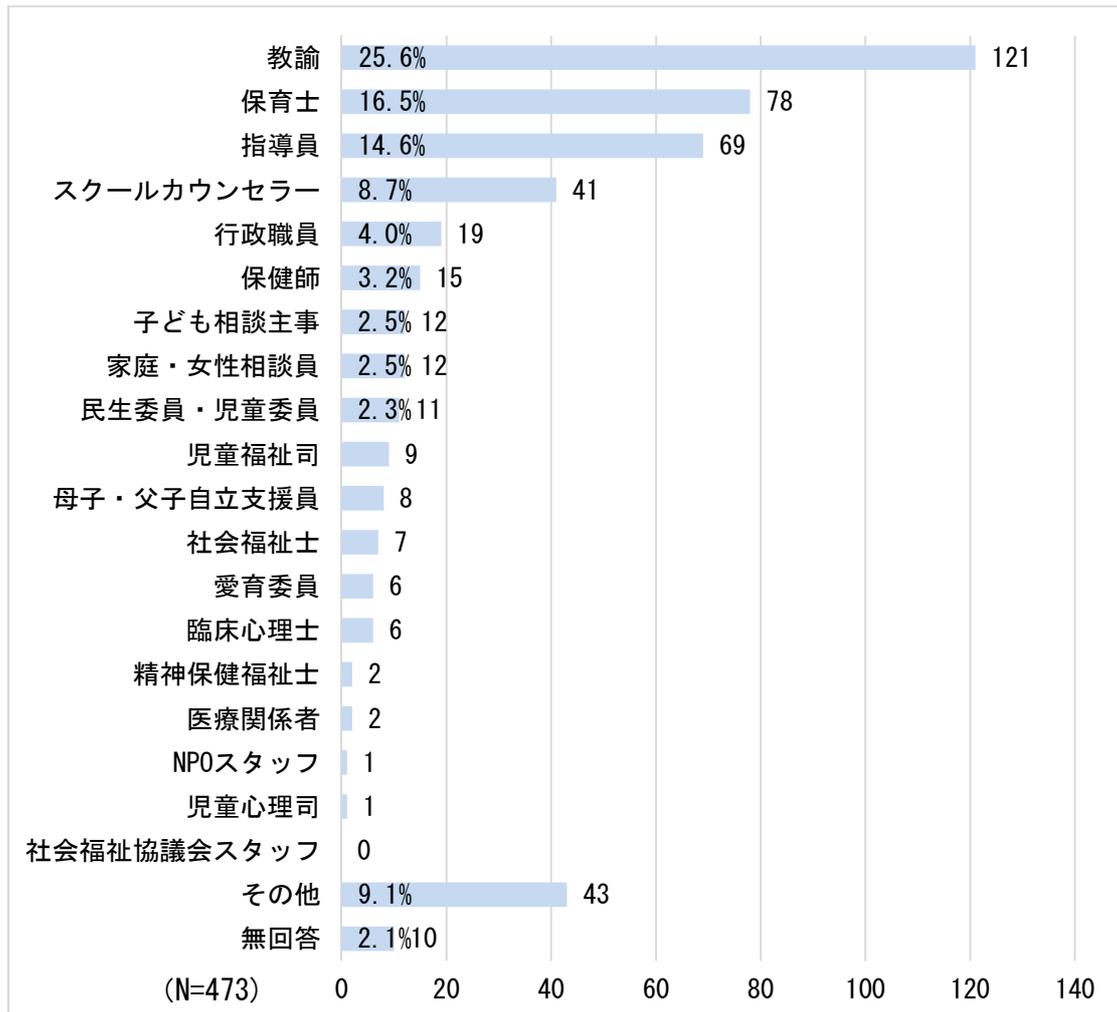
【問2】

あなたが働いておられる機関はどれですか。あてはまる番号を1つ選んでください。なお、複数ある場合は、主なものを1つだけ選んでください。



【問3】

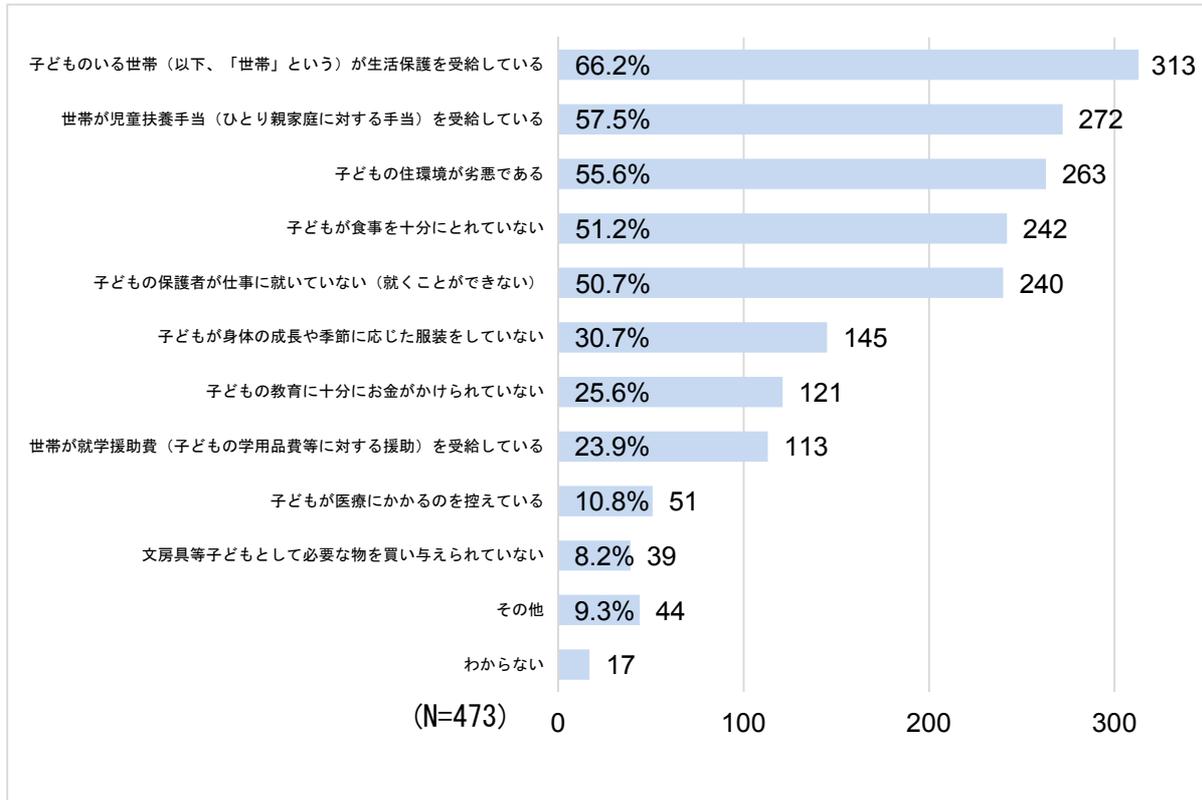
あなたはどのような立場でお仕事をなさっていますか。あてはまる番号を1つ選んでください。なお、複数ある場合は、主なものを1つだけ選んでください。



■困難を抱える子ども(「子どもの貧困」)に関する、あなたご自身の経験についてうかがいます。

【問4】

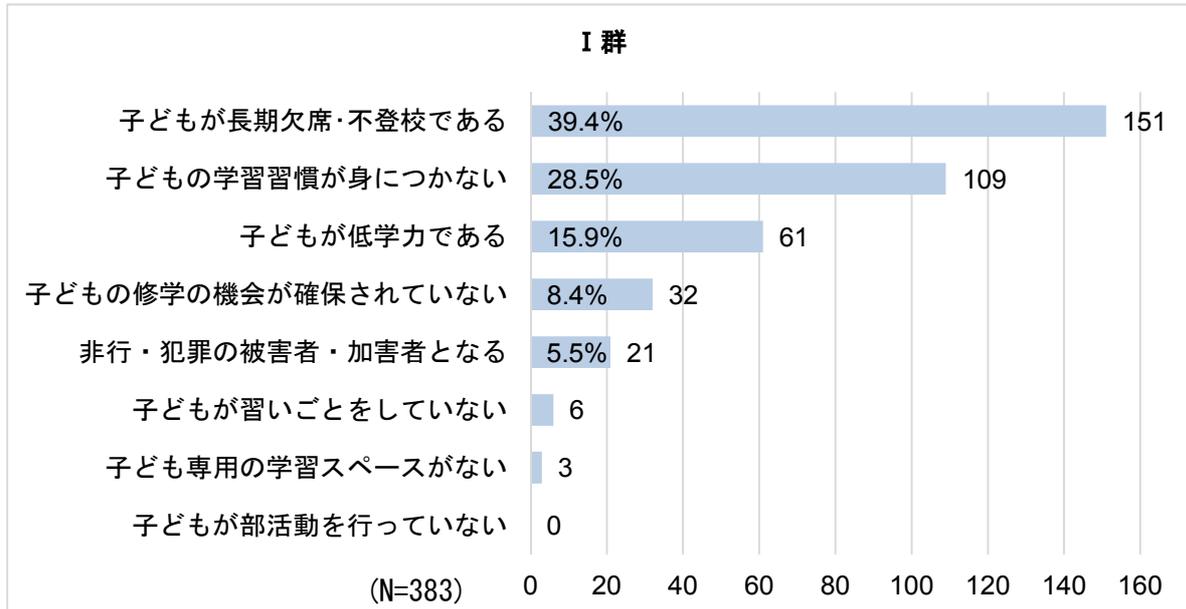
あなたがこれまで子どもや家庭に関わってこられた中で、どのような「困難を抱える状況」にある子どもがいましたか。主なものを選んでください。(5つ以内)



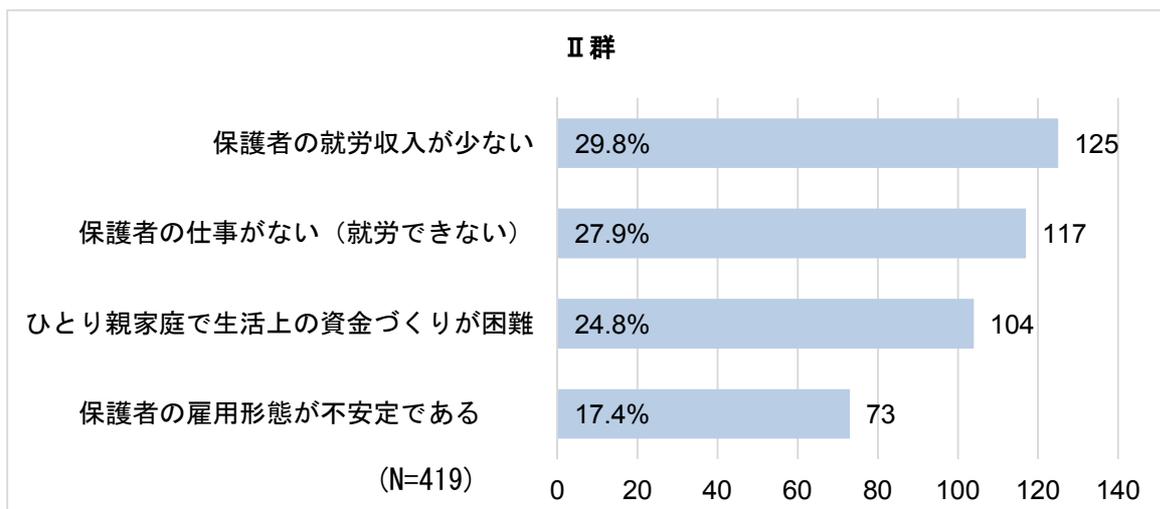
- ・「子どものいる世帯が生活保護を受給している」と回答した人が最も多く 313 人(66.2%)である。
- ・以下、「世帯が児童扶養手当を受給している」で 272 人(57.5%)、「子どもの住環境が劣悪である」が 263 人(55.6%)と続いている。

【問 5】

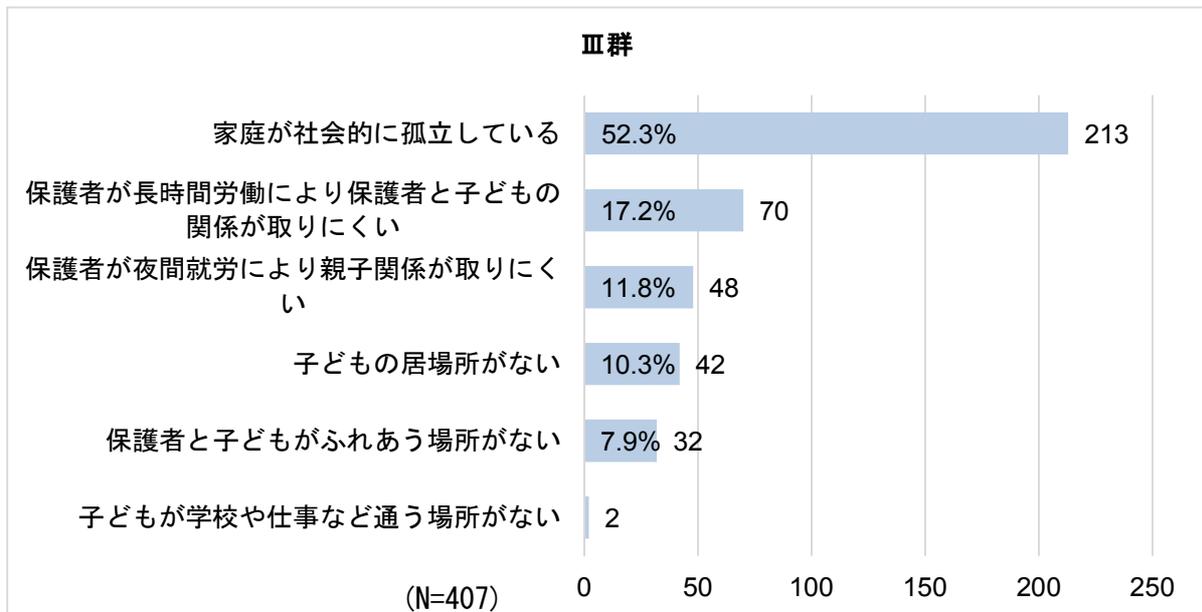
あなたがこれまで子どもや家庭に関わってこられた中で、**困難を抱える子ども**がそのような状況になる原因はどこにあると考えておられますか。I 群～IV 群からそれぞれ 1 つ選んでください。



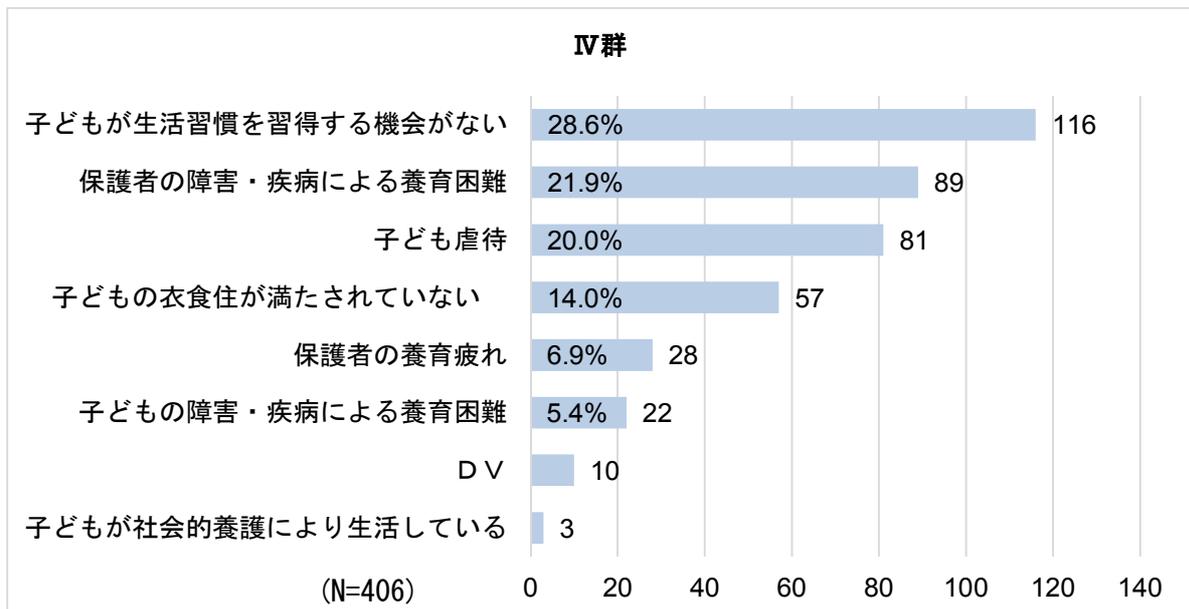
- ・「子どもが長期欠席・不登校である」と回答した人が最も多く 151 人(39.4%)である。
- ・以下、「子どもの学習習慣が身につかない」で 109 人(28.5%)、「子どもが低学力である」が 61 人(15.9%)と続いている。



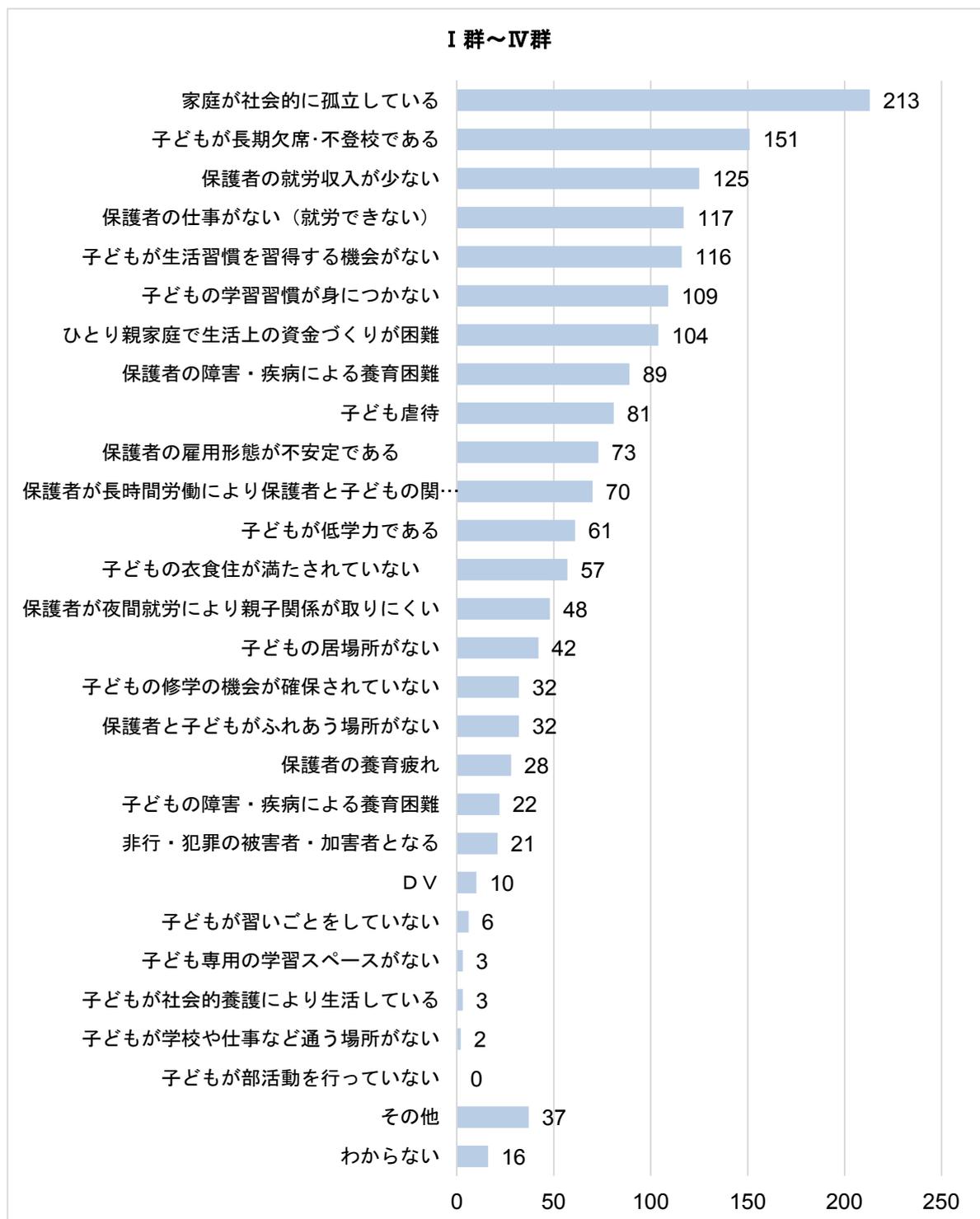
- ・「保護者の就労収入が少ない」と回答した人が最も多く 125 人(29.8%)である。
- ・以下、「保護者の仕事がない（就労できない）」で 117 人(27.9%)、「ひとり親家庭で生活上の資金づくりが困難」が 104 人(24.8%)と続いている。



- ・「家庭が社会的に孤立している」と回答した人が最も多く 213 人(52.3%)である。
- ・以下、「保護者が長時間労働により保護者と子どもの関係が取りにくい」で 70 人(17.2%)、「保護者が夜間就労により親子関係が取りにくい」が 48 人(11.8%)と続いている。

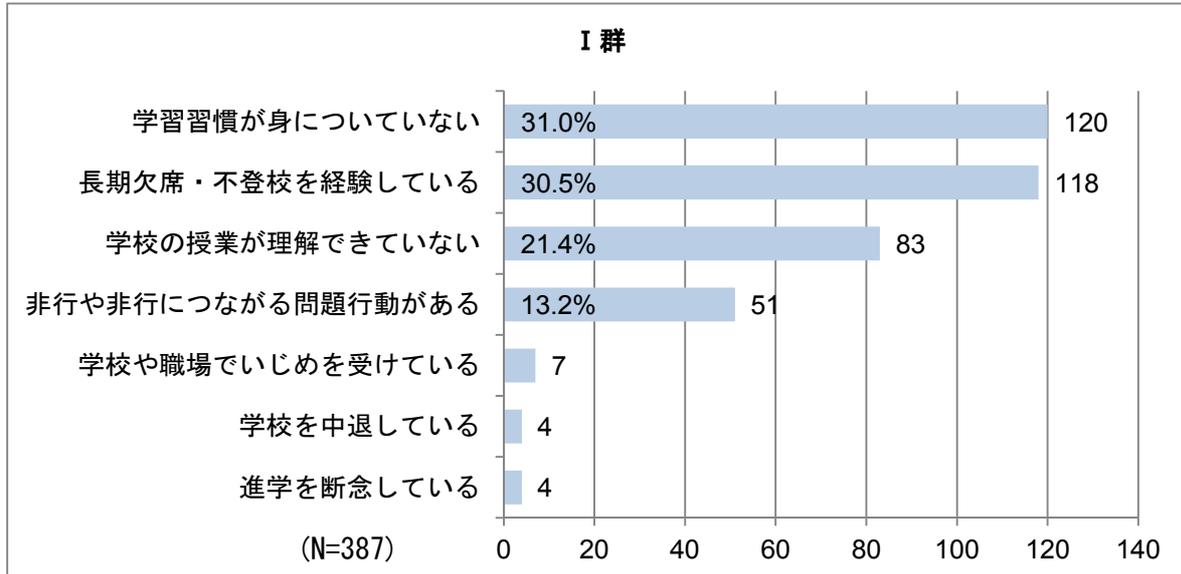


- ・「子どもが生活習慣を習得する機会がない」と回答した人が最も多く 116 人(28.6%)である。
- ・以下、「保護者の障害・疾病による養育困難」で 89 人(21.9%)、「子ども虐待」が 81 人(20.0%)と続いている。

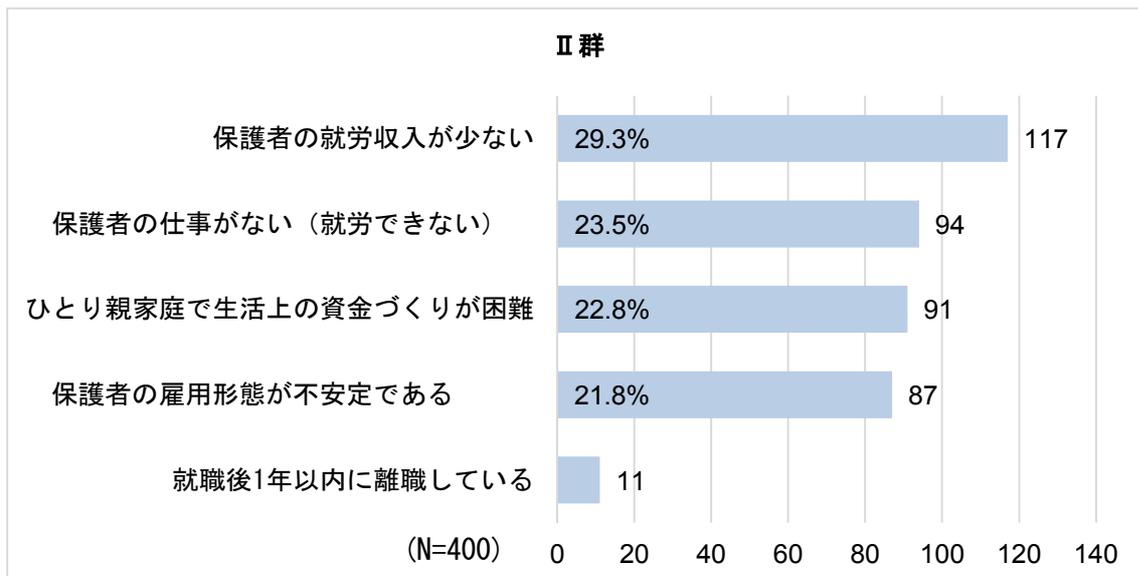


【問6】

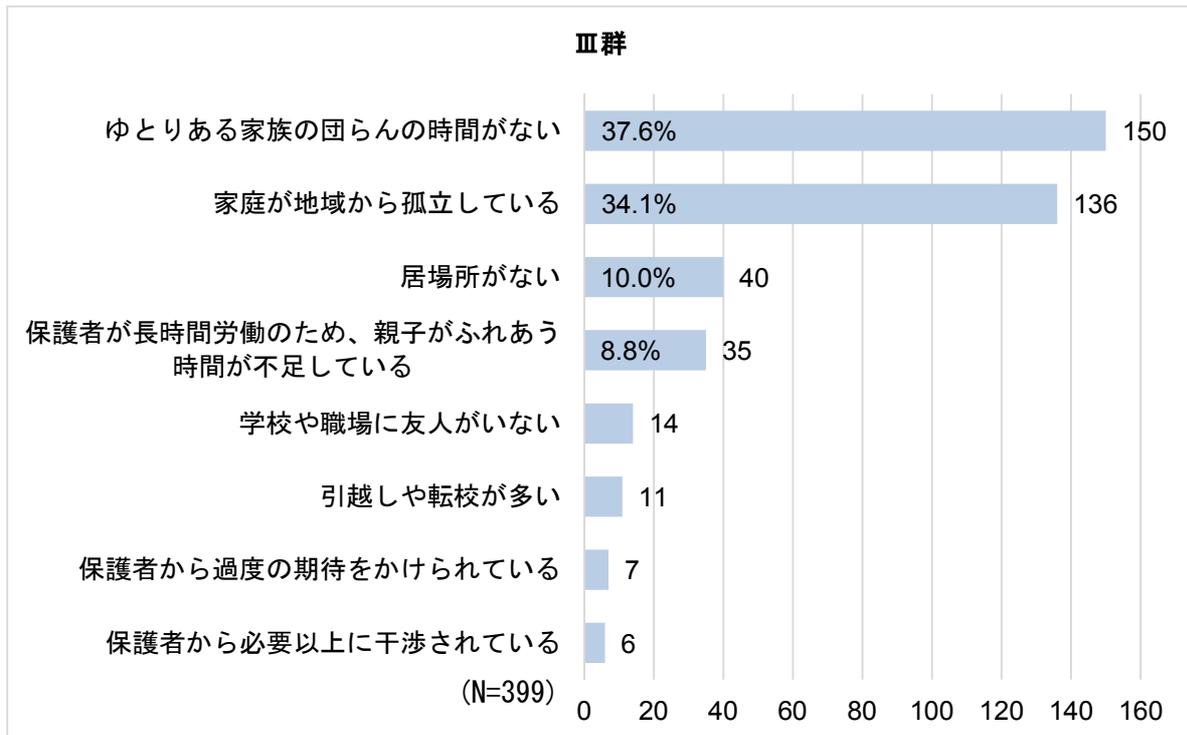
あなたがこれまで子どもや家庭に関わってこられた中で、困難を抱える子どもは併せてどのような状況にありましたか。I群～IV群からそれぞれ1つ選んでください。



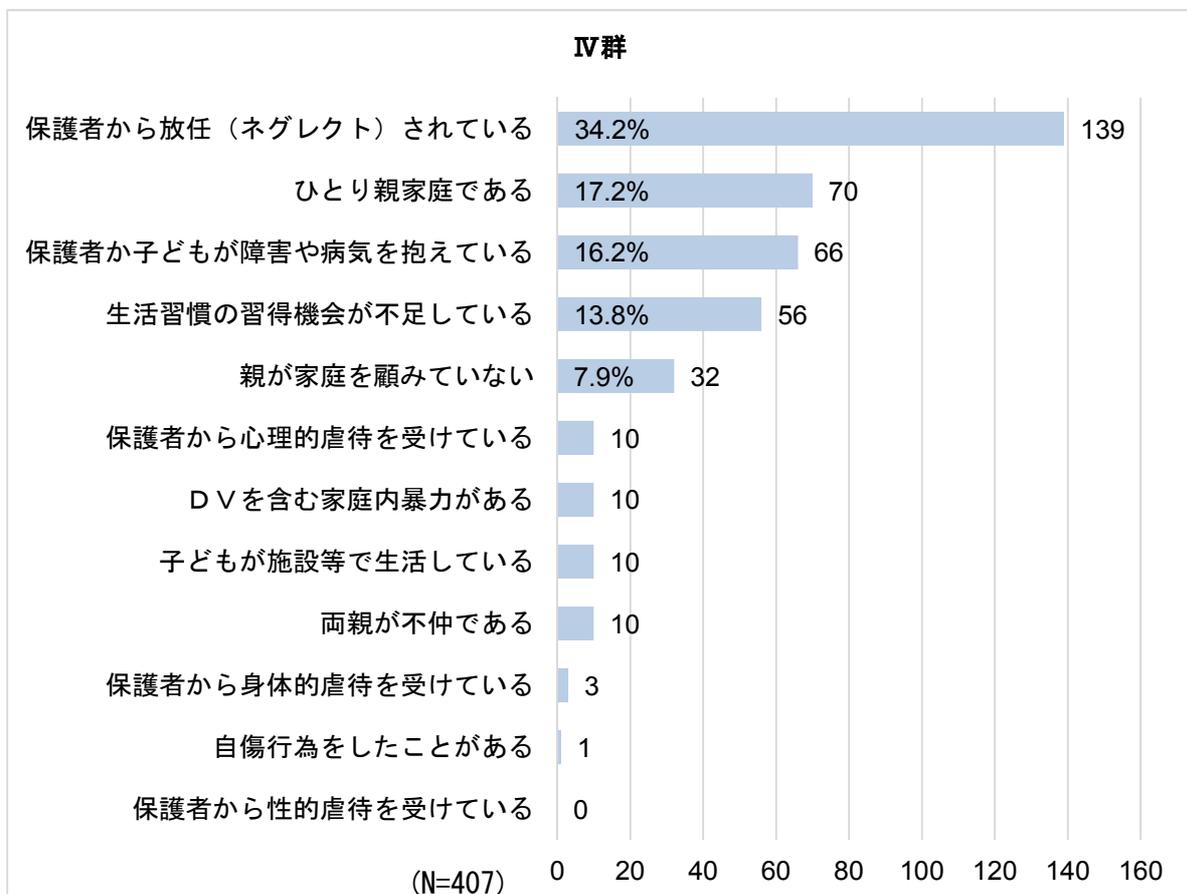
- ・「学習習慣が身につけていない」と回答した人が最も多く120人(31.0%)である。
- ・以下、「長期欠席・不登校を経験している」で118人(30.5%)、「学校の授業が理解できていない」が83人(21.4%)と続いている。



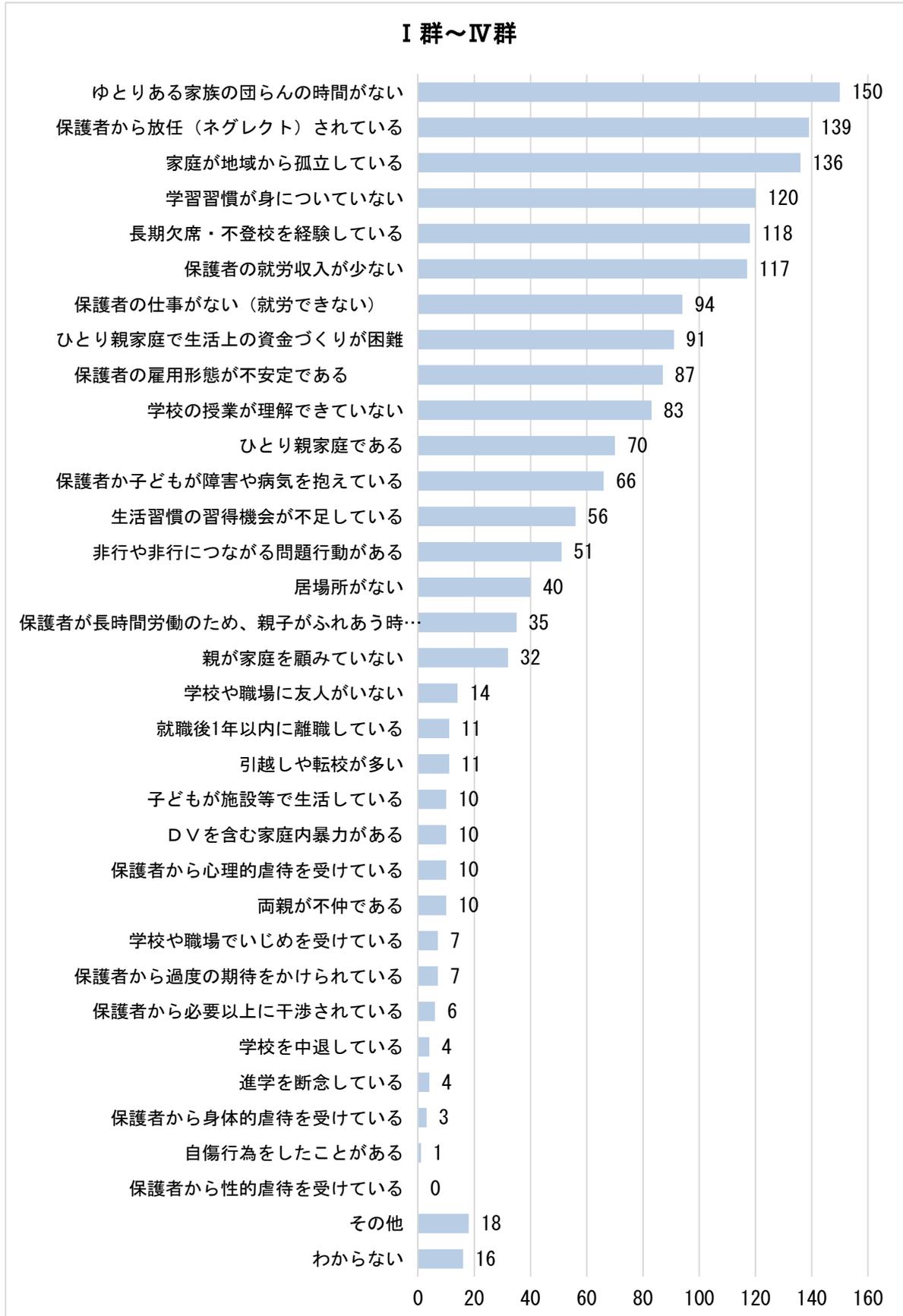
- ・「保護者の就労収入が少ない」と回答した人が最も多く117人(29.3%)である。
- ・以下、「保護者の仕事がない(就労できない)」で94人(23.5%)、「ひとり親家庭で生活上の資金づくりが困難」が91人(22.8%)と続いている。



- ・「ゆとりある家族の団らんの時間がない」と回答した人が最も多く150人(37.6%)である。
- ・以下、「家庭が地域から孤立している」で136人(34.1%)、「居場所がない」が40人(10.0%)と続いている。

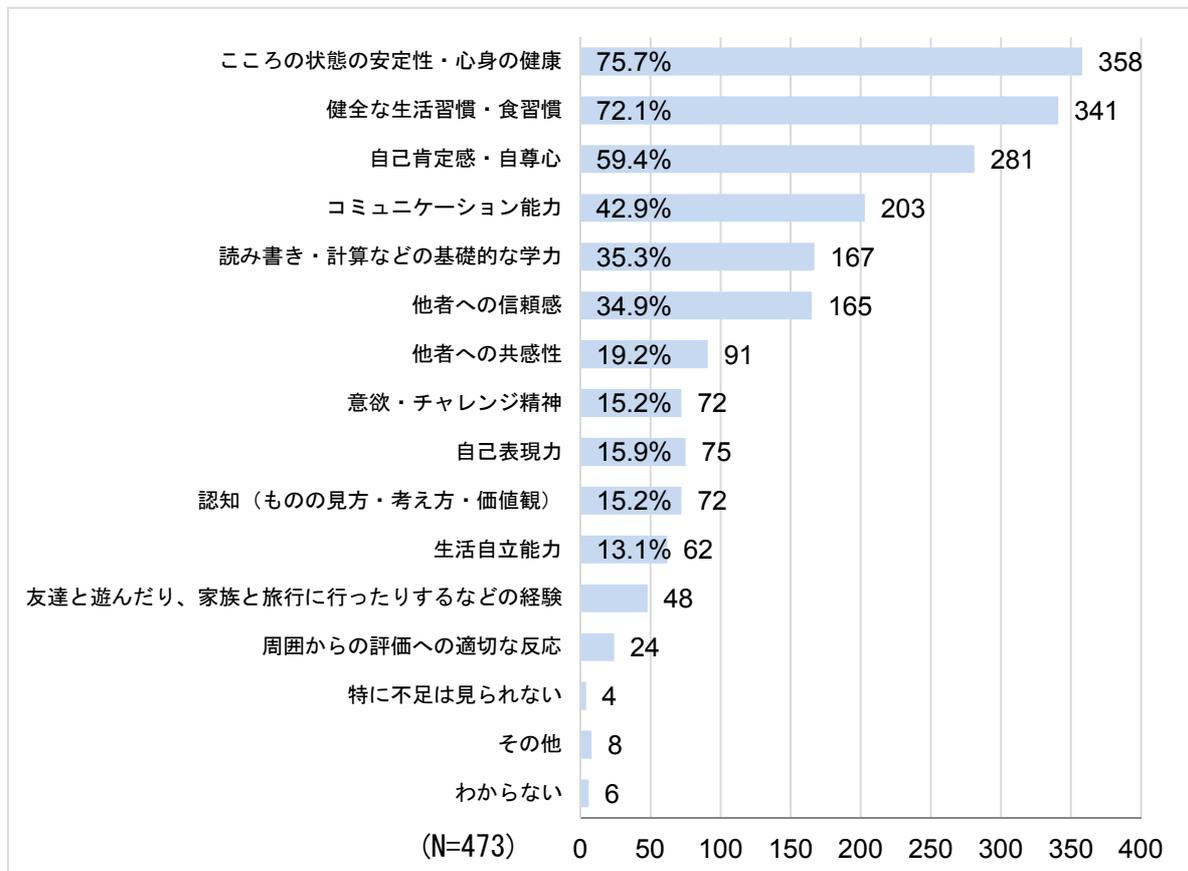


- ・「保護者から放任（ネグレクト）されている」と回答した人が最も多く139人(34.2%)である。
- ・以下、「ひとり親家庭である」で70人(17.2%)、「保護者か子どもが障害や病気を抱えている」が66人(16.2%)と続いている。



【問7】

あなたのこれまでのご経験から見て、困難を抱える子どもはどのような項目において不足していると思われますか。主なものを選んでください。(5つ以内)

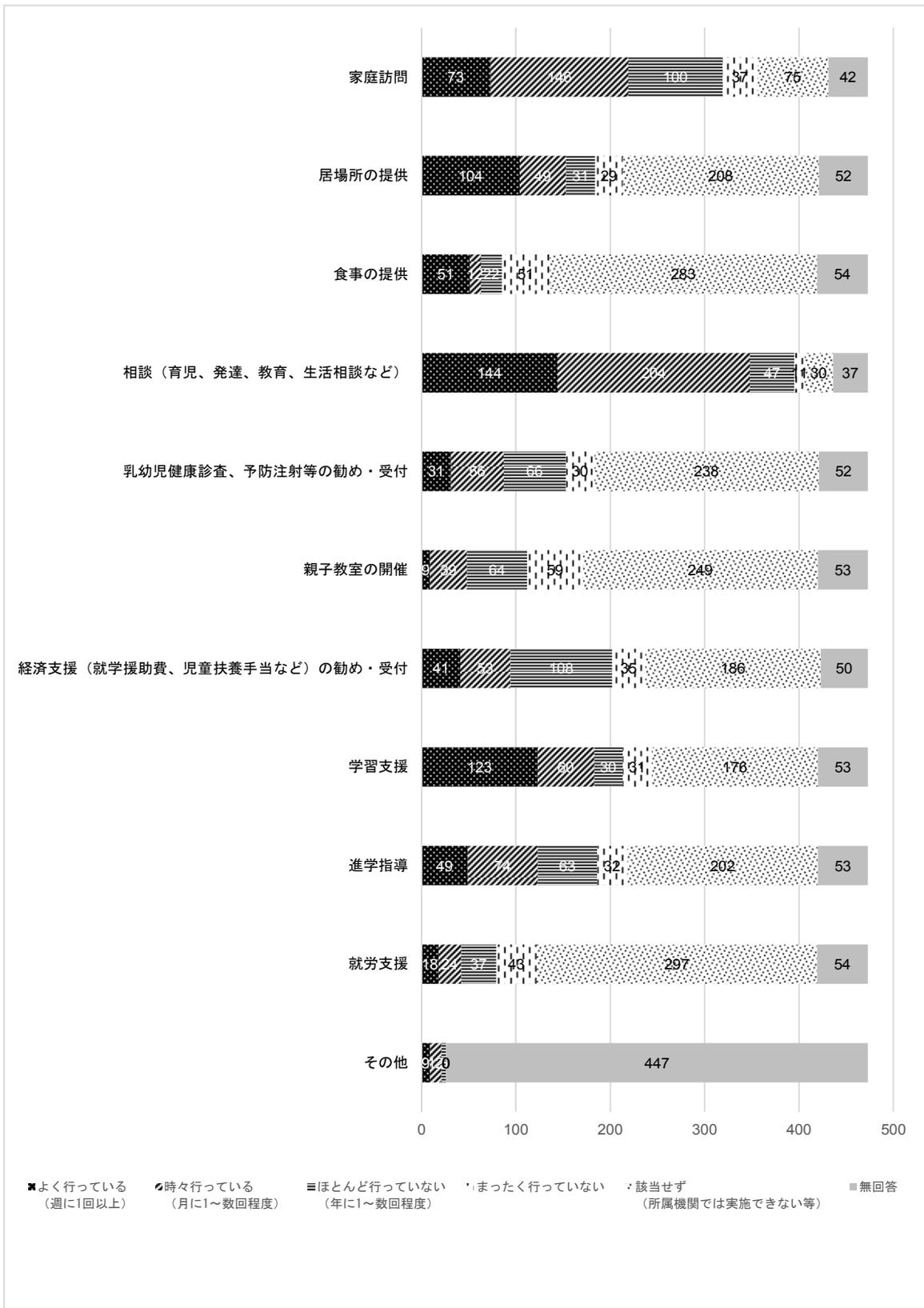


- ・「こころの状態の安定性・心身の健康」と回答した人が最も多く 358 人(75.7%)である。
- ・以下、「健全な生活習慣・食習慣」で 341 人(72.1%)、「自己肯定感・自尊心」が 281 人(59.4%)と続いている。

■あなたの所属する機関等の支援の取り組みについてうかがいます。

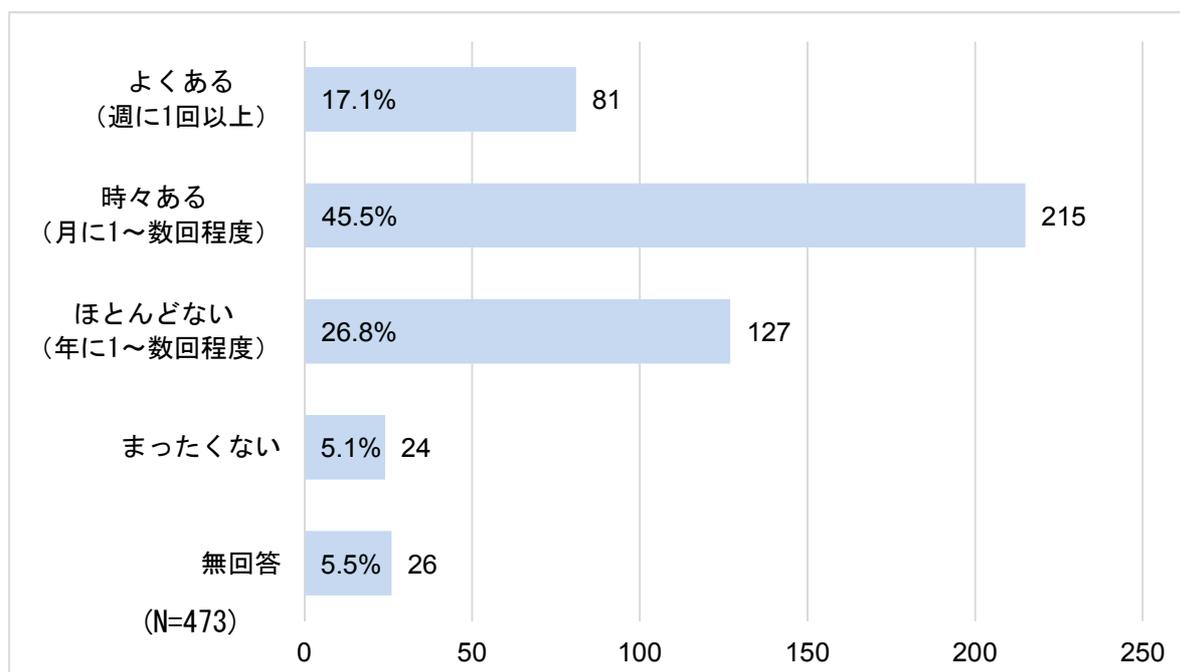
【問 8】

あなたの所属する機関では、困難を抱える子どもや保護者に対し、どのような支援を行っていますか。次の(a)から(k)について、あてはまる番号を選んでください。



【問 9】

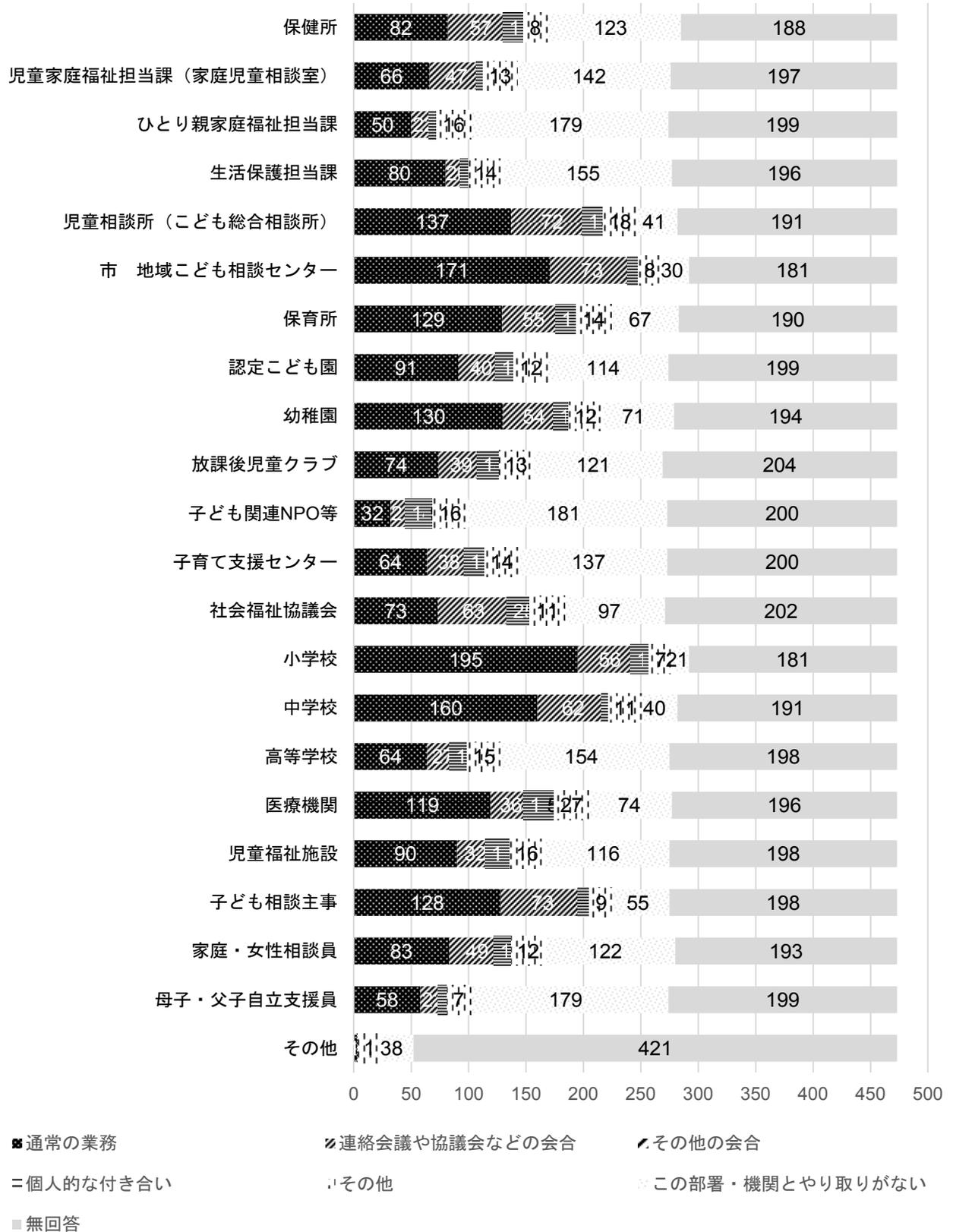
あなたは普段、他の部署・機関の人と、困難を抱える子どもについて情報をやり取りする機会がありますか。あてはまる番号を1つ選んでください。



- ・「時々ある（月に1～数回程度）」と回答した人が最も多く 215 人(45.5%)である。
- ・以下、「ほとんどない（年に1～数回程度）」が 127 人(26.8%)、「よくある(週に1回以上)」で 81 人(17.1%)と続いている。
- ・「時々ある（月に1～数回程度）」と「よくある(週に1回以上)」を合わせると、全体の 62.6%となる。

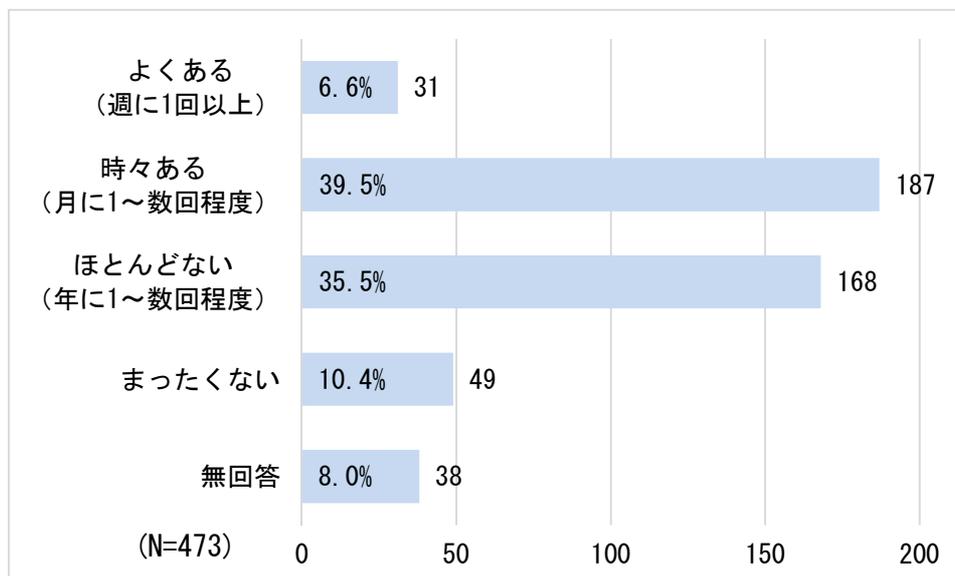
【問 9-1】

あなたは普段、他の部署・機関の人と、困難を抱える子どもについて情報をやり取りする機会がありますか。あてはまる番号を1つ選んでください。



【問 10】

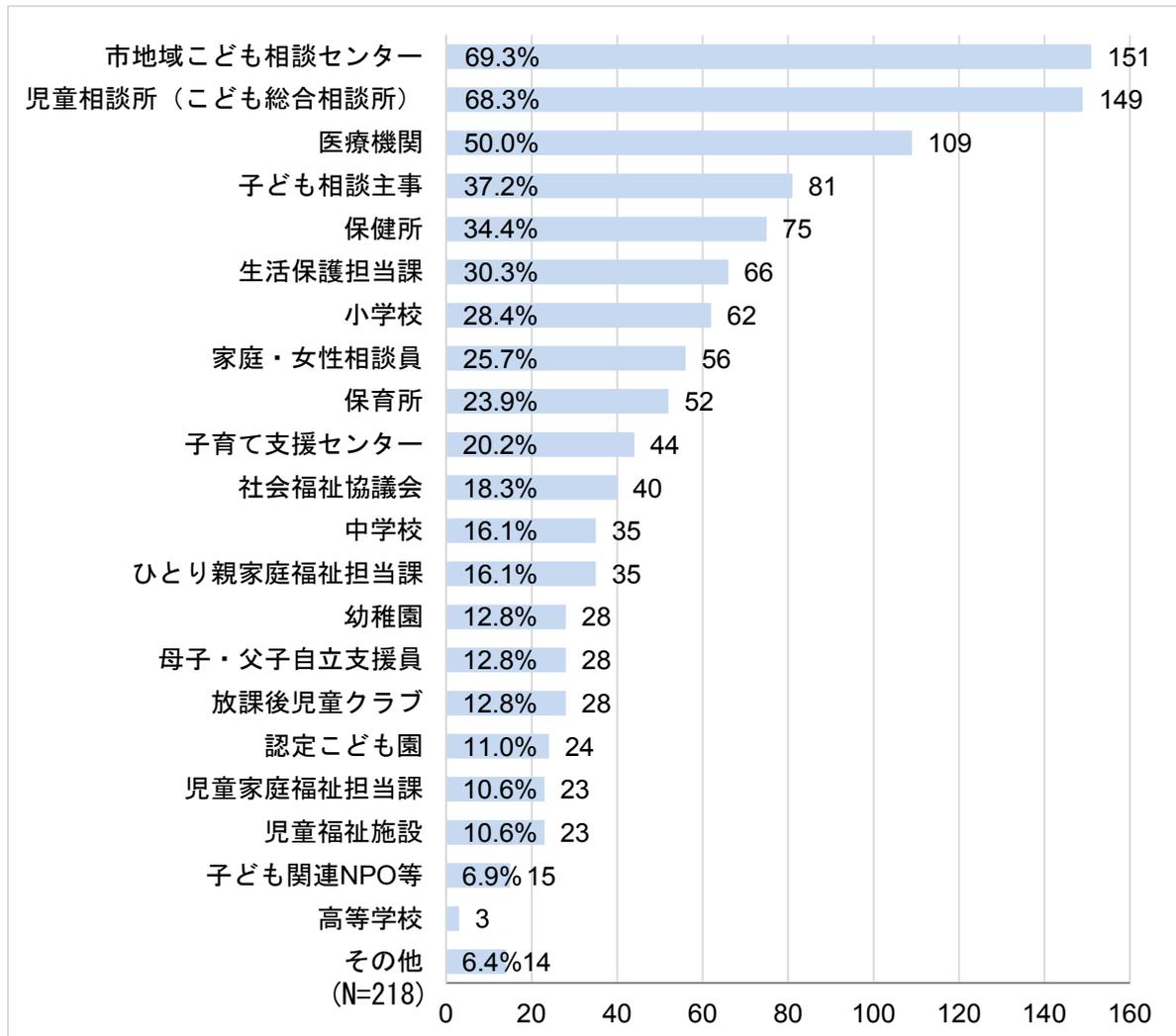
あなたは、困難を抱える子どもの家庭に対し、他の機関で受けられるサービスを紹介することがありますか。あてはまる番号を1つ選んでください。



- ・「時々ある（月に1～数回程度）」と回答した人が最も多く187人(39.5%)である。
- ・以下、「ほとんどない（年に1～数回程度）」で168人(35.5%)、「よくある(週に1回以上)」が31人(6.6%)、と続いている。
- ・「時々ある（月に1～数回程度）」と「よくある(週に1回以上)」を合わせると、全体の46.1%となる。

【問 10-1】

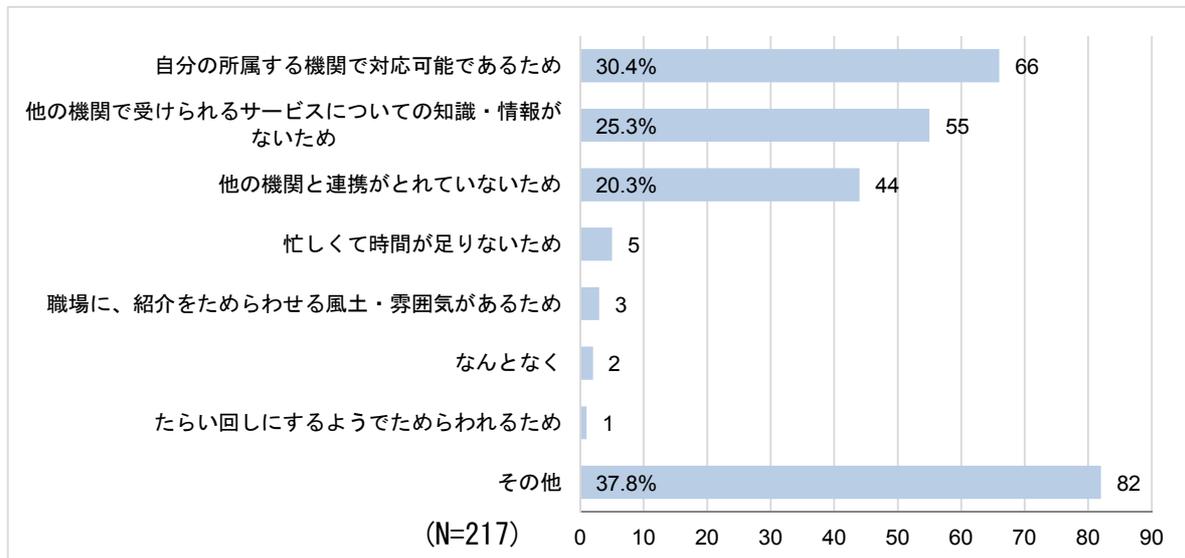
問 10 で「1 よくある」または「2 ときどきある」とお答えした方のみにおたずねします。どの機関で受けられるサービスを紹介することが多いですか。あてはまる番号すべてを選んでください。



- ・「市地域こども相談センター」と回答した人が最も多く 151 人(69.3%)である。
- ・以下、「児童相談所 (こども総合相談所)」で 149 人(68.3%)、「医療機関」が 109 人(50.0%)と続いている。

【問 10-2】

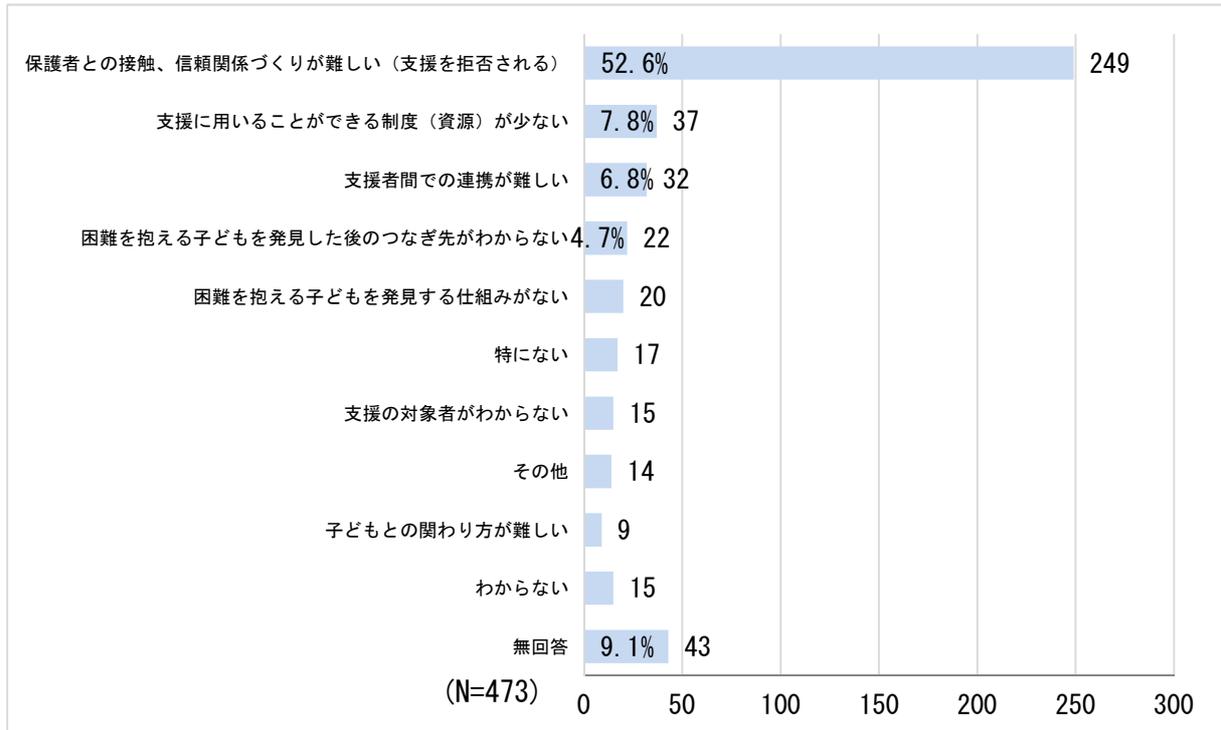
問 10 で「3 ほとんどない」または「4 まったくない」とお答えした方のみにおたずねします。他の機関で受けられるサービスを紹介しない理由について、あてはまる番号すべてを選んでください。



- ・「自分の所属する機関で対応可能であるため」と回答した人が最も多く 66 人(30.4%)である。
- ・以下、「他の機関で受けられるサービスについての知識・情報がないため」で 55 人(25.3%)、「他の機関と連携がとれていないため」が 44 人(20.3%)と続いている。

【問 11】

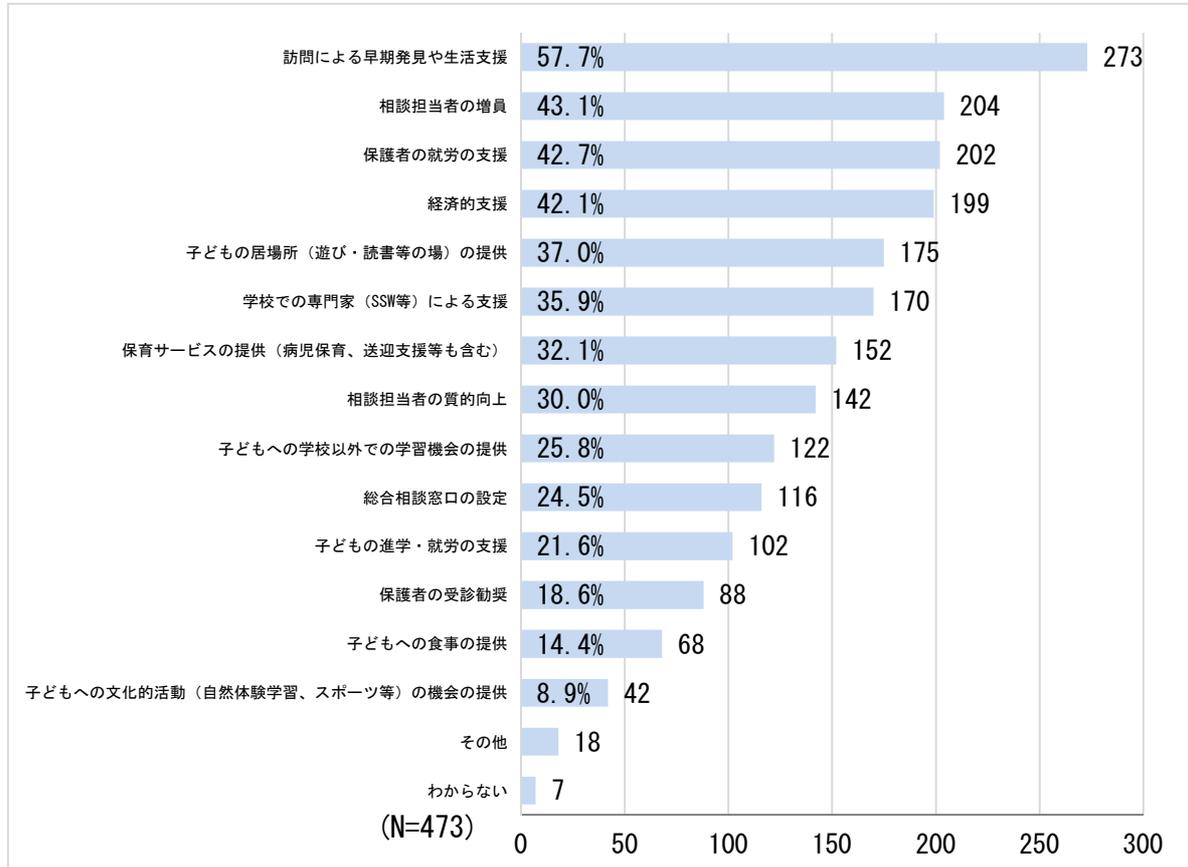
あなたは、困難を抱える子どもとその家庭への支援にあたって、どのような点が困難だと感じていますか。もっともあてはまる番号を1つだけ選んでください。



- ・「保護者との接触、信頼関係づくりが難しい（支援を拒否される）」と回答した人が最も多く249人(52.6%)である。
- ・以下、「支援に用いることができる制度（資源）が少ない」で37人(7.8%)、「支援者間での連携が難しい」が32人(6.8%)と続いている。

【問 12】

あなたは、(自分が所属する機関で実際に取り組まれている支援いかにかわらず)一般的に、困難を抱える子どもや保護者に対し、どのような支援がもっと必要だと思いますか。特に必要だと思う番号を5つ選んでください。

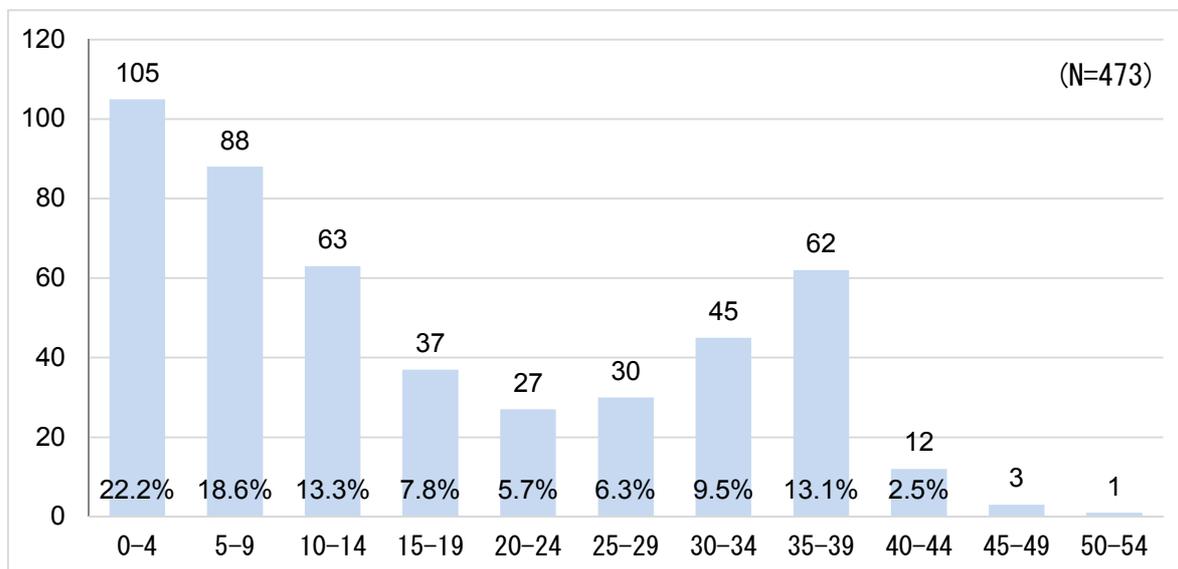


- ・「訪問による早期発見や生活支援」と回答した人が最も多く 273 人 (57.7%) である。
- ・以下、「相談担当者の増員」で 204 人 (43.1%)、「保護者の就労の支援」が 202 人 (42.7%) と続いている。

■あなたご自身の働き方や職場環境についてうかがいます。

【問 14】

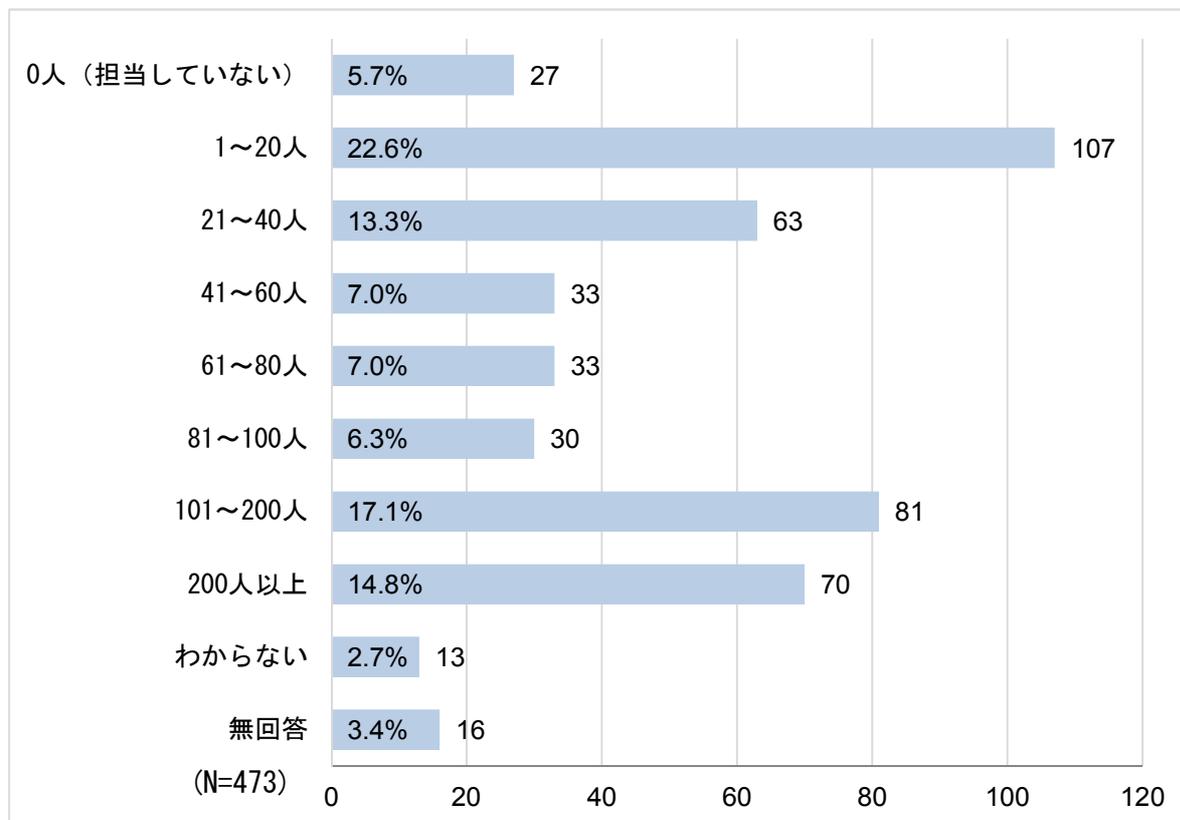
あなたは、(前の職場での経験も含めて) 現在従事している業務と同じような業務を満何年おこなっていますか。(1年未満の場合は「0年」とご記入ください。)



- ・「0～4年」と回答した人が最も多く105人(22.2%)である。
- ・以下、「5～9年」で88人(18.6%)、「10～14年」が63人(13.3%)、と続いている。

【問 15】

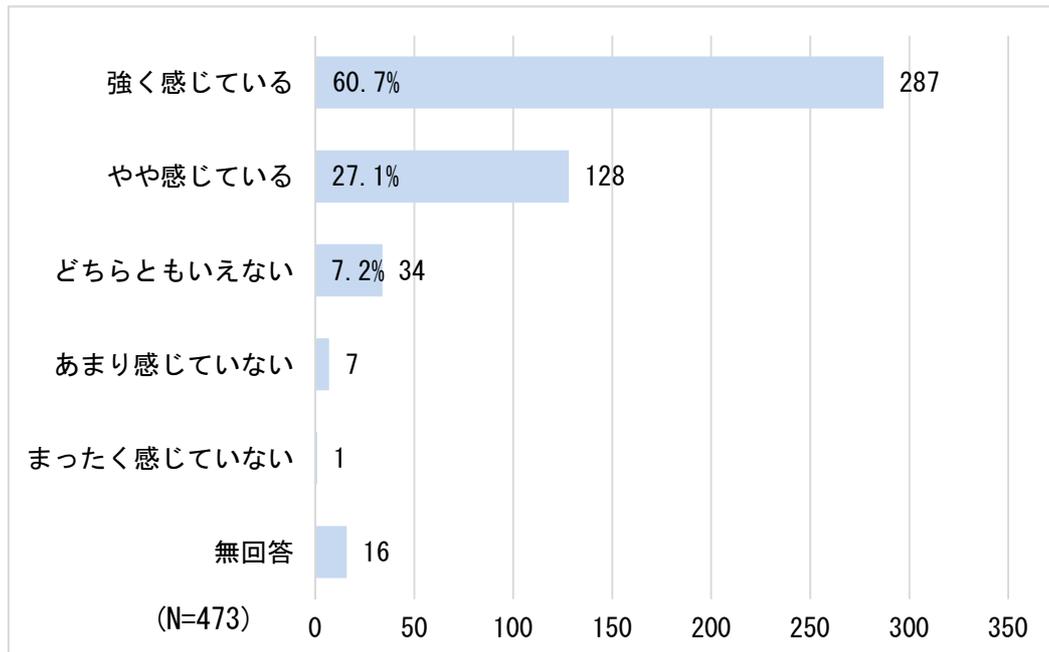
あなたが現在、業務として担当している子どもの人数はどのくらいですか。この設問では、子どもが困難を抱える状況にあるかどうかは問いません。



- ・「1~20人」と回答した人が最も多く107人(22.6%)である。
- ・以下、「101~200人」で81人(17.1%)、「200人以上」が70人(14.8%)、と続いている。

【問 16】

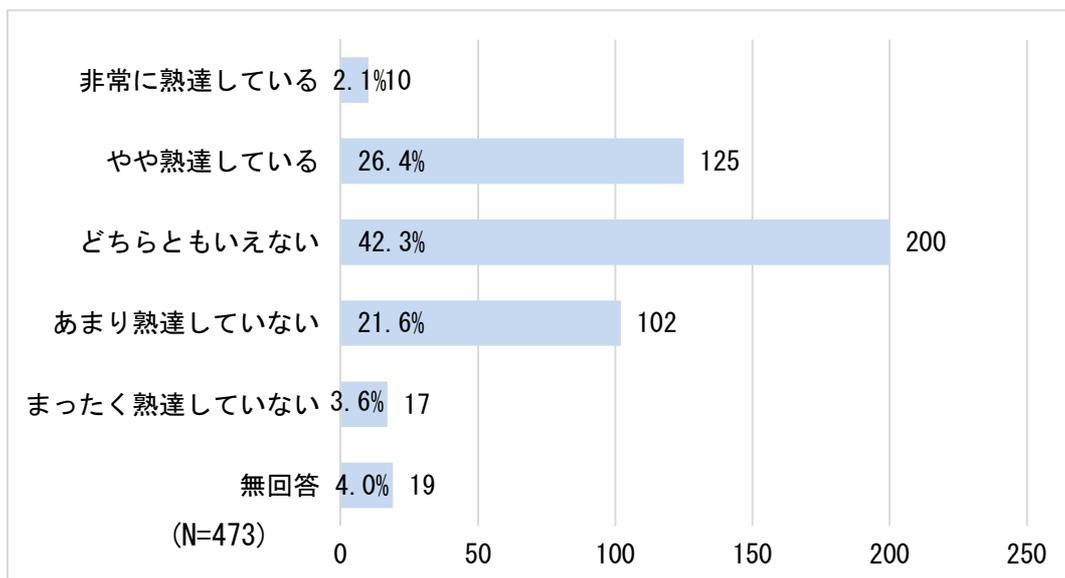
あなたは、困難を抱える子どもへの支援において、ご自身の業務が必要だと感じていますか。あてはまる番号を1つ選んでください。



- ・「強く感じている」と回答した人が最も多く 287 人(60.7%)である。
- ・以下、「やや感じている」で 128 人(27.1%)、「どちらともいえない」が 34 人(7.2%)、と続いている。

【問 17】

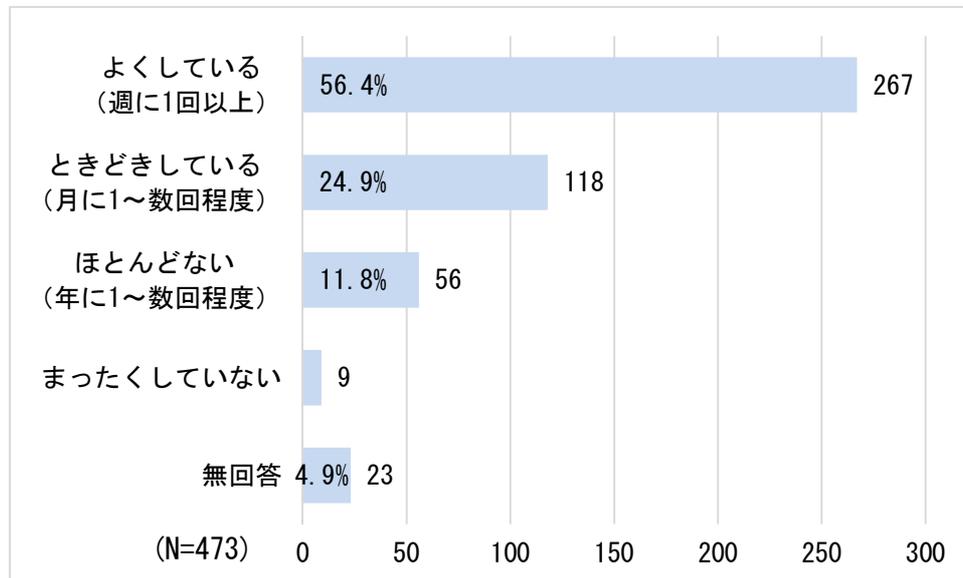
あなたは、困難を抱える子どもへの支援に対するご自身の熟達の程度をどのくらいだと思いますか。あてはまる番号を1つ選んでください。



- ・「どちらともいえない」と回答した人が最も多く 200 人(42.3%)である。
- ・以下、「やや熟達している」で 125 人(26.4%)、「あまり熟達していない」が 102 人(21.6%)、と続いている。

【問 18】

あなたは、困難を抱える子どもや家庭への支援における問題について、困ったり、悩んだりした場合、どれくらいの頻度で職場の人に相談をしていますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

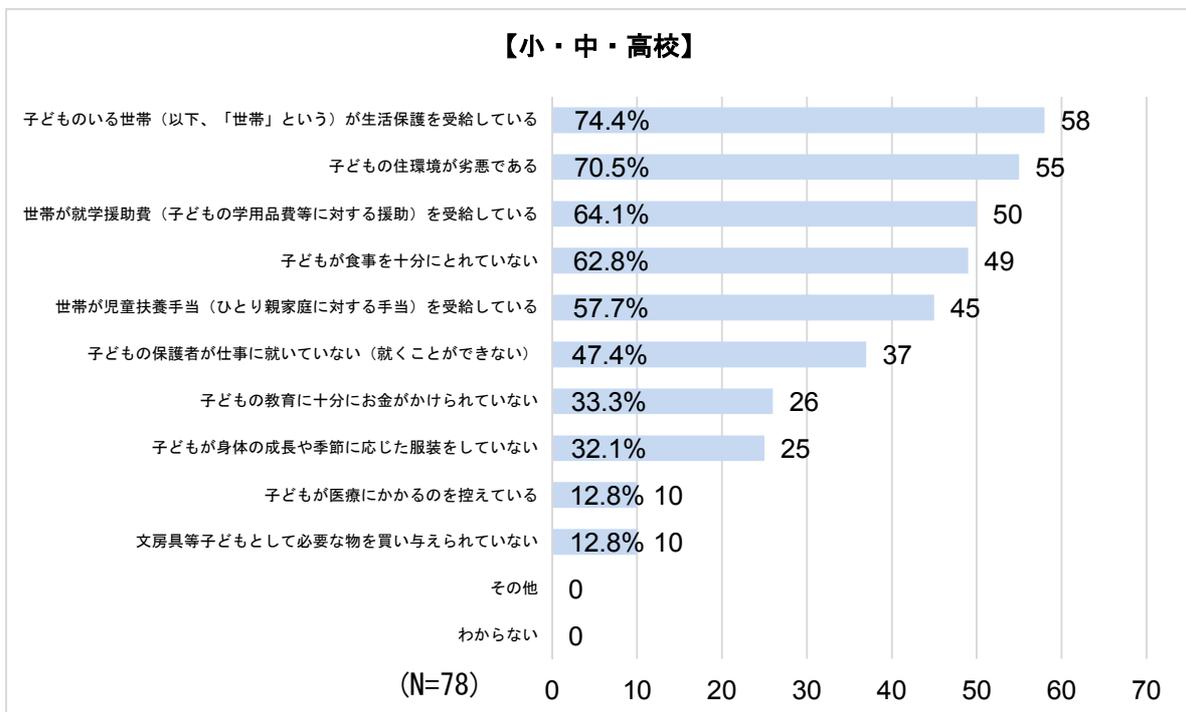
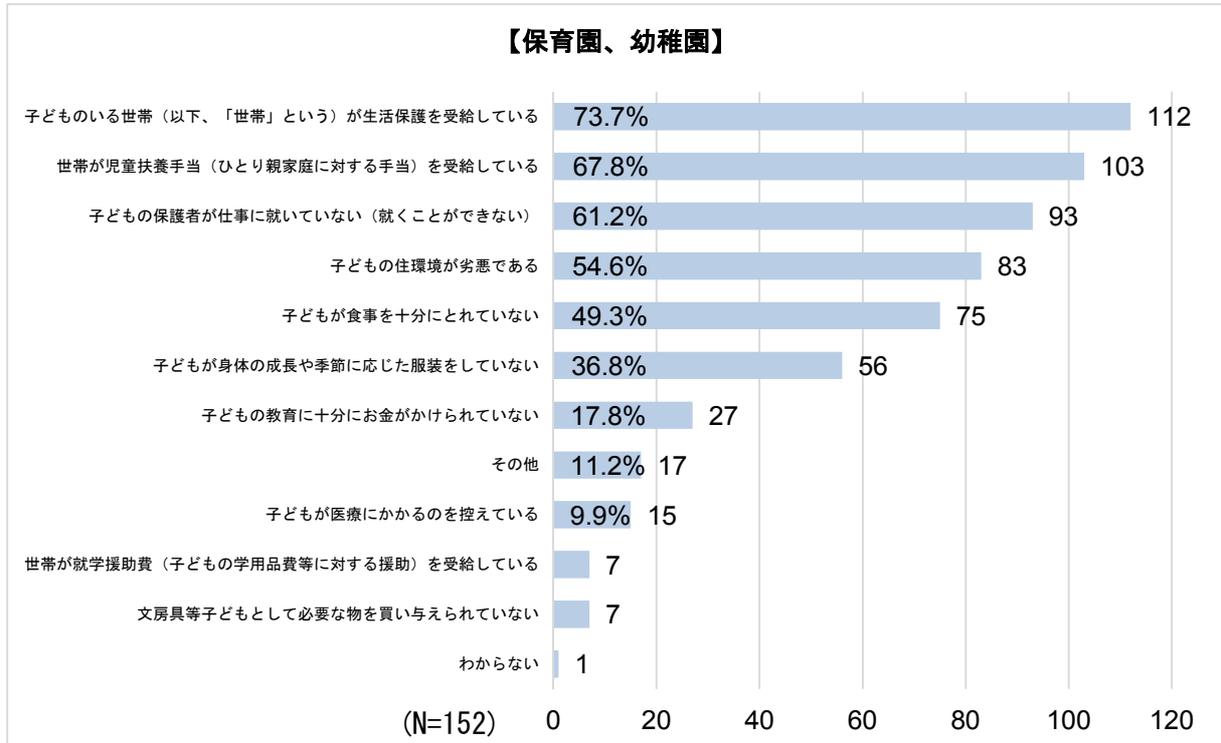


- ・「よくしている (週に1回以上)」と回答した人が最も多く 267 人 (56.4%) である。
- ・以下、「ときどきしている (月に1~数回程度)」で 118 人 (24.9%)、「ほとんどない (年に1~数回程度)」が 56 人 (11.8%)、と続いている。

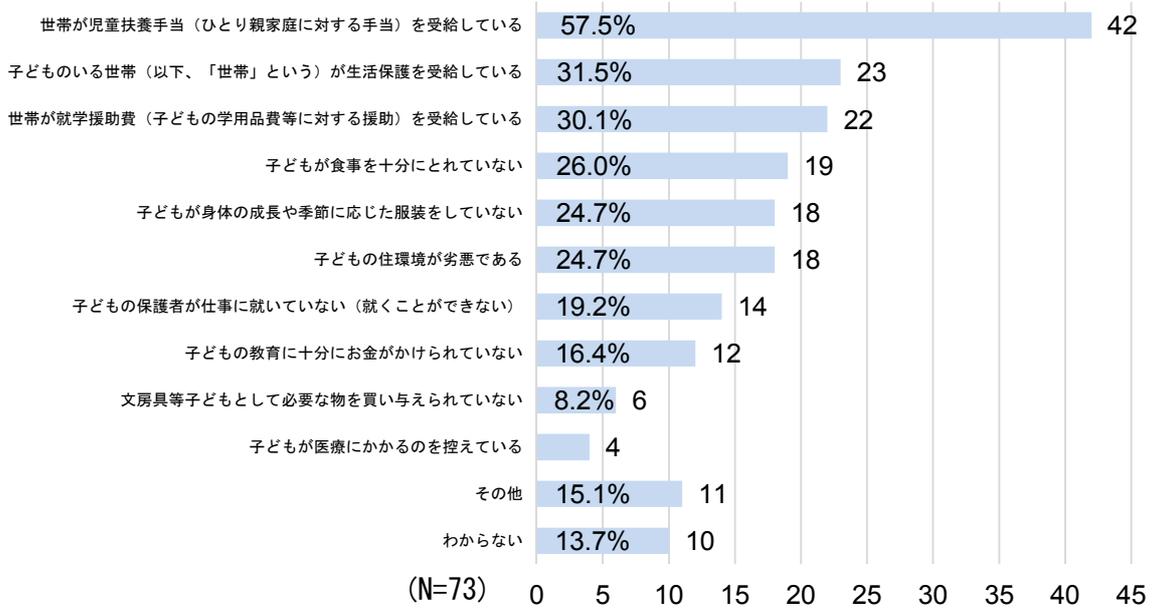
關係機關種類別回答結果

【問 4】

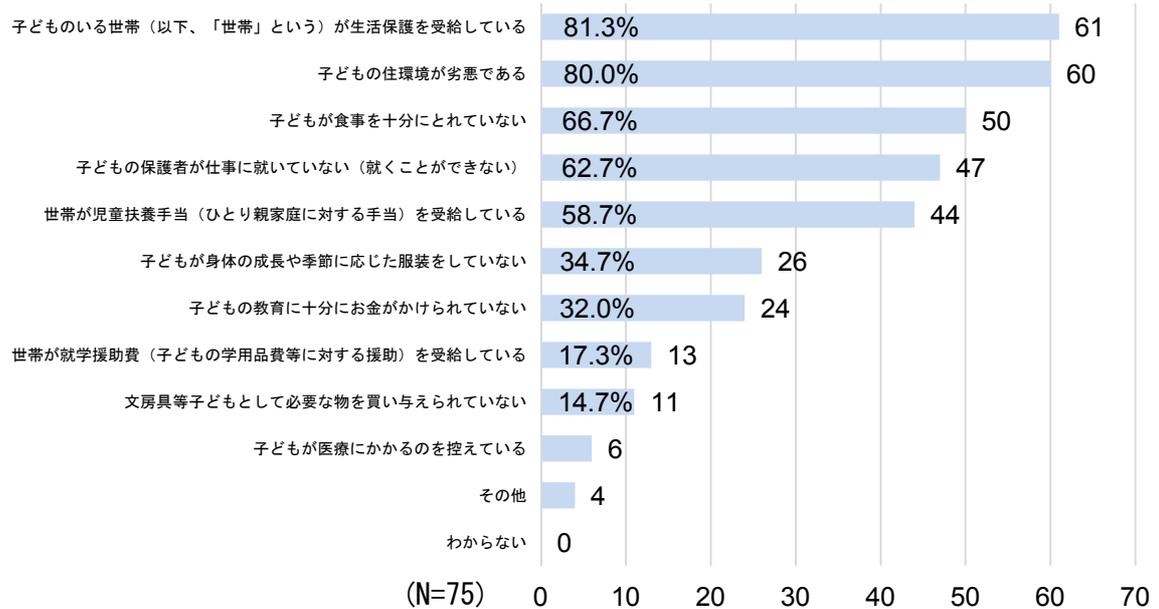
あなたがこれまで子どもや家庭に関わってこられた中で、どのような「困難を抱える状況」にある子どもがいましたか。主なものを選んでください。（5つ以内）



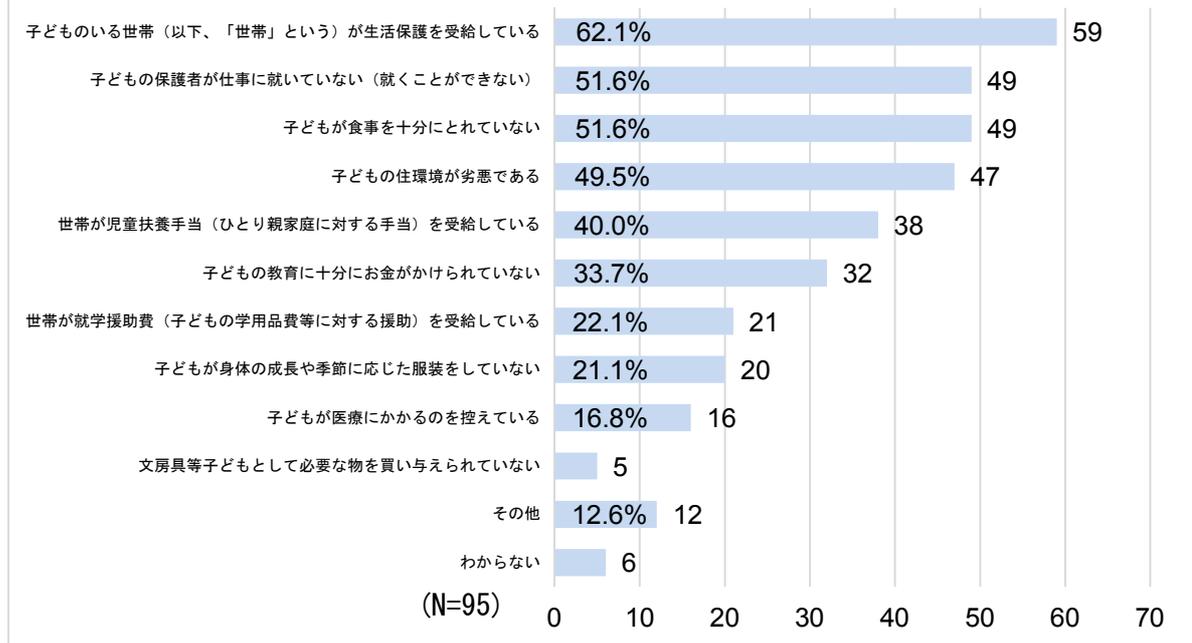
【放課後児童クラブ】



【児童相談所、地こ相、保健師、PT構成課（行政関係）】

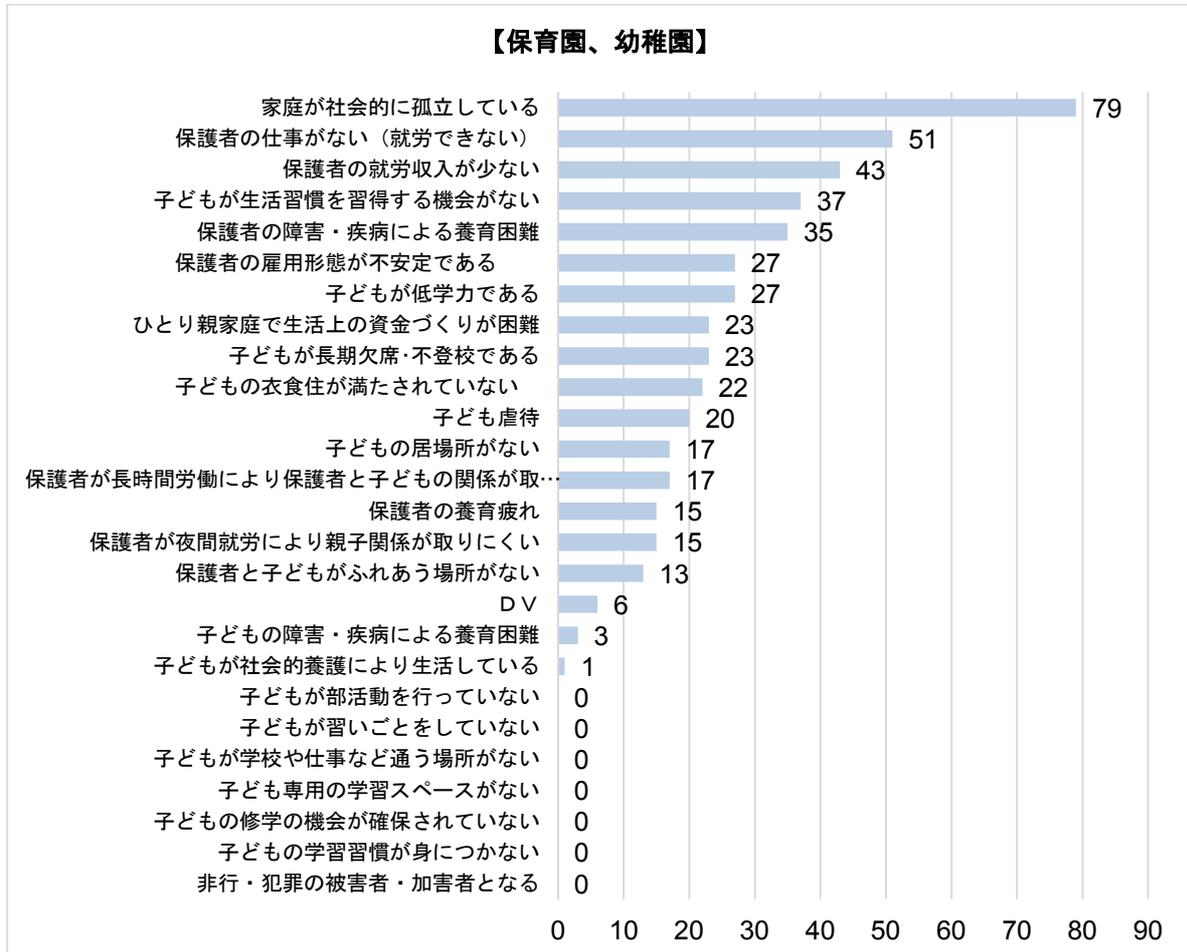


**【スクールカウンセラー、医療ソーシャルワーカー、民生委員・児童委員、
愛育委員（地域の支援者）、その他（適応指導教室、児童福祉施設、NPO
団体等、その他（社協、マザーズハローワーク））】**

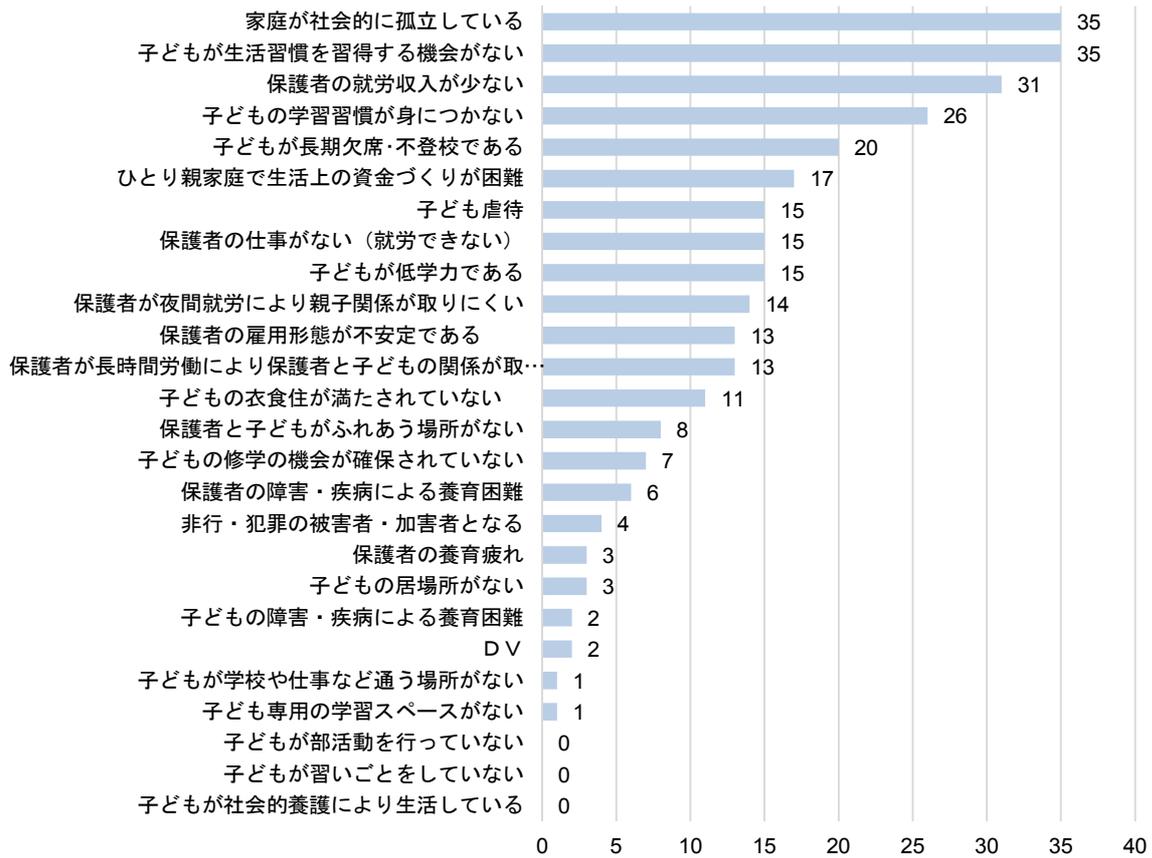


【問 5】

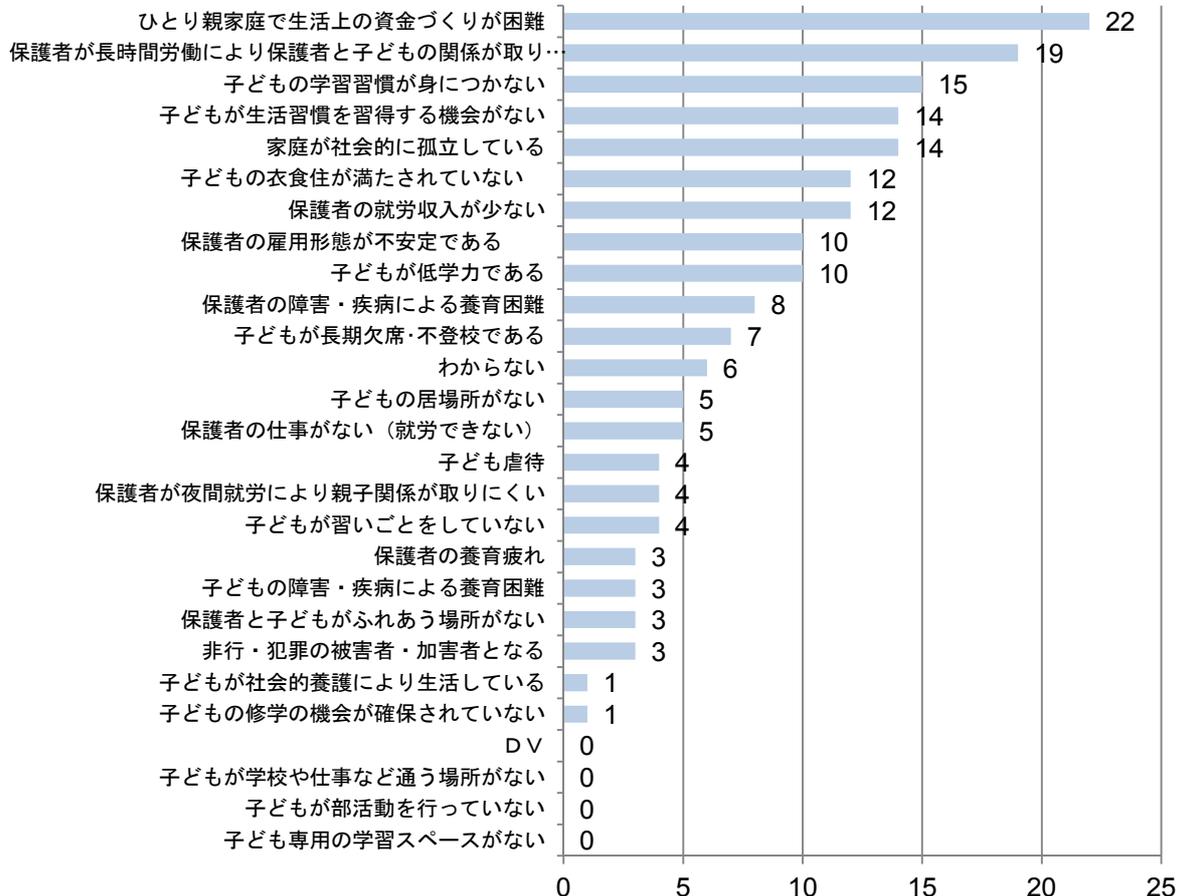
あなたがこれまで子どもや家庭に関わってこられた中で、困難を抱える子どもがそのような状況になる原因はどこにあると考えておられますか。I 群～IV 群からそれぞれ 1 つ選んでください。

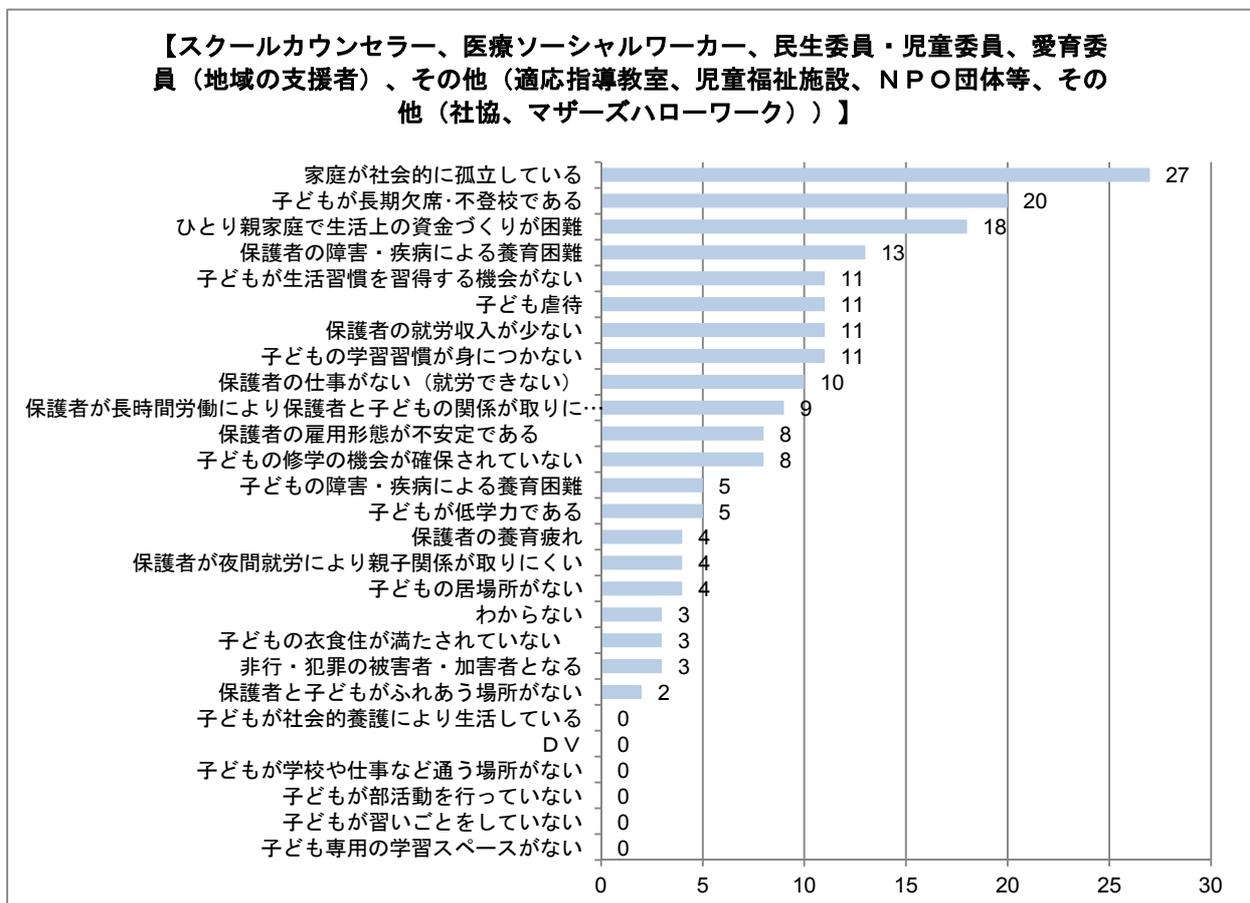
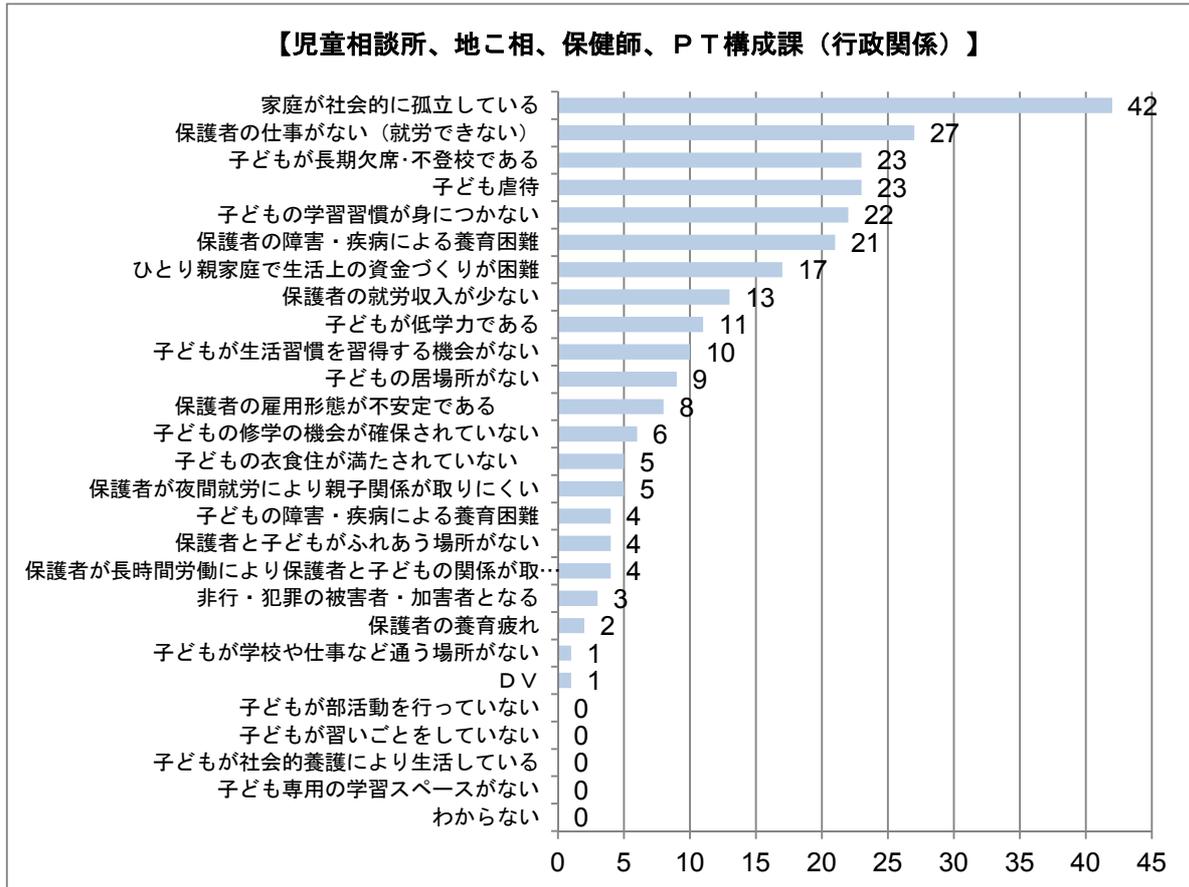


【小・中・高校】



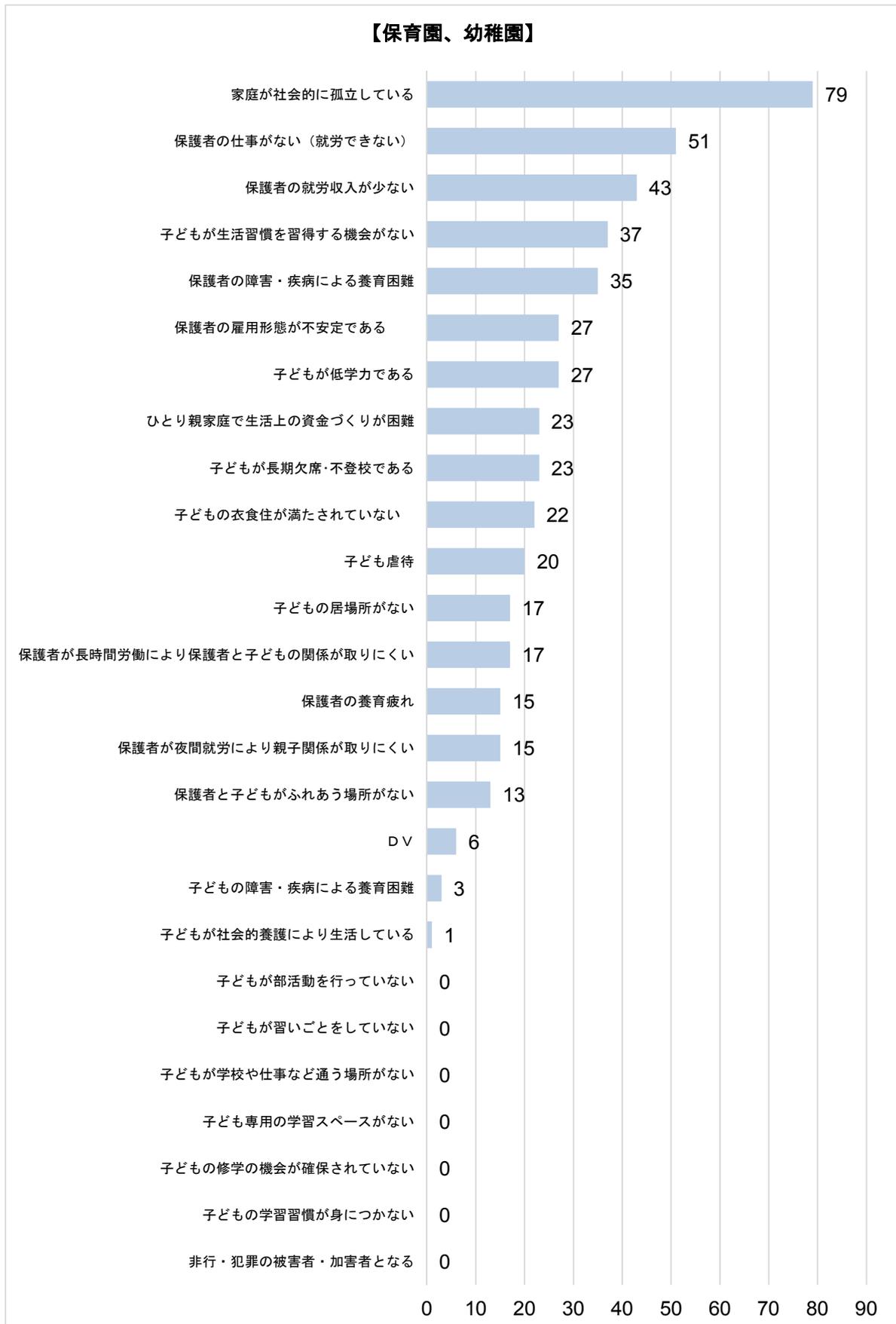
放課後児童クラブ



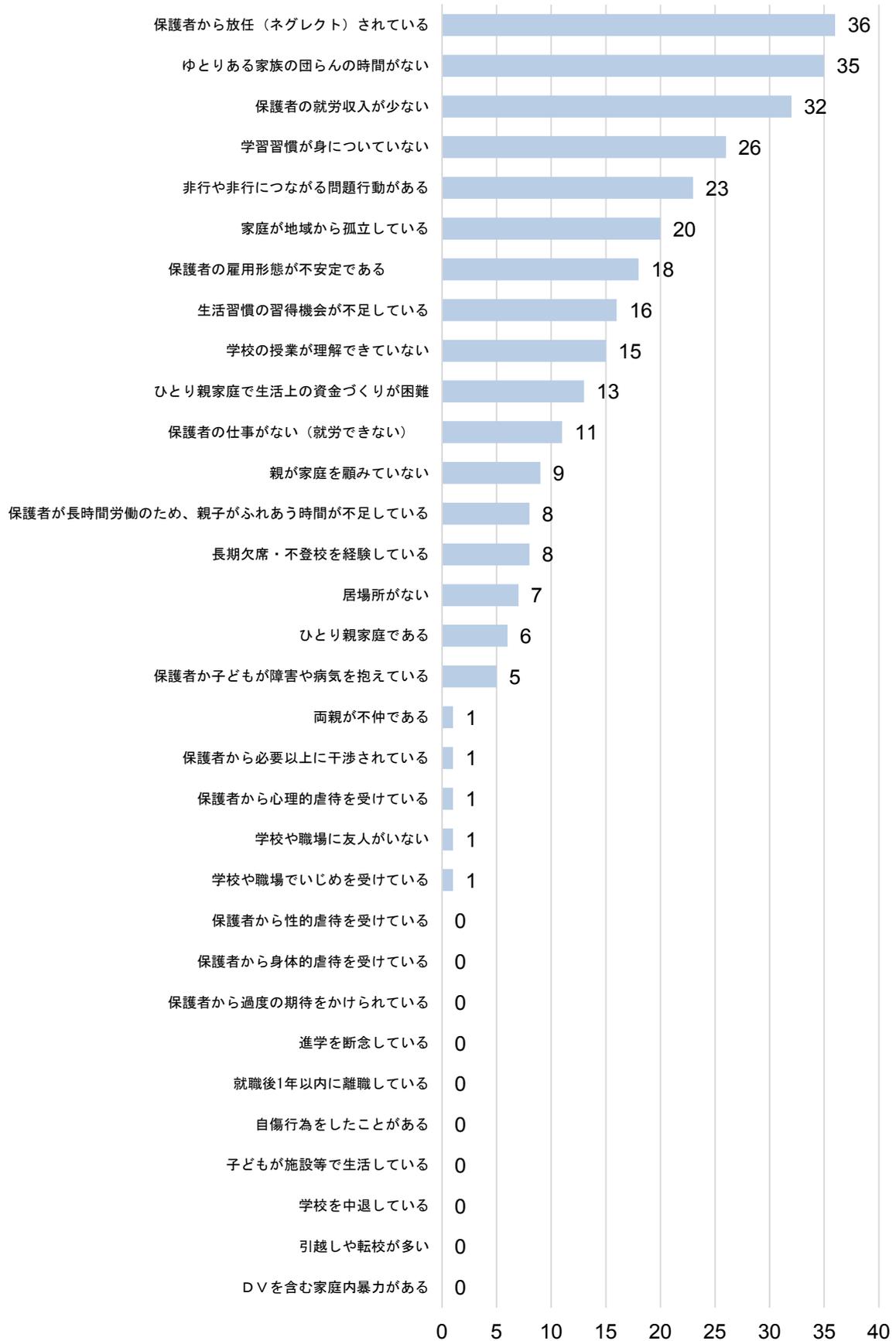


【問6】

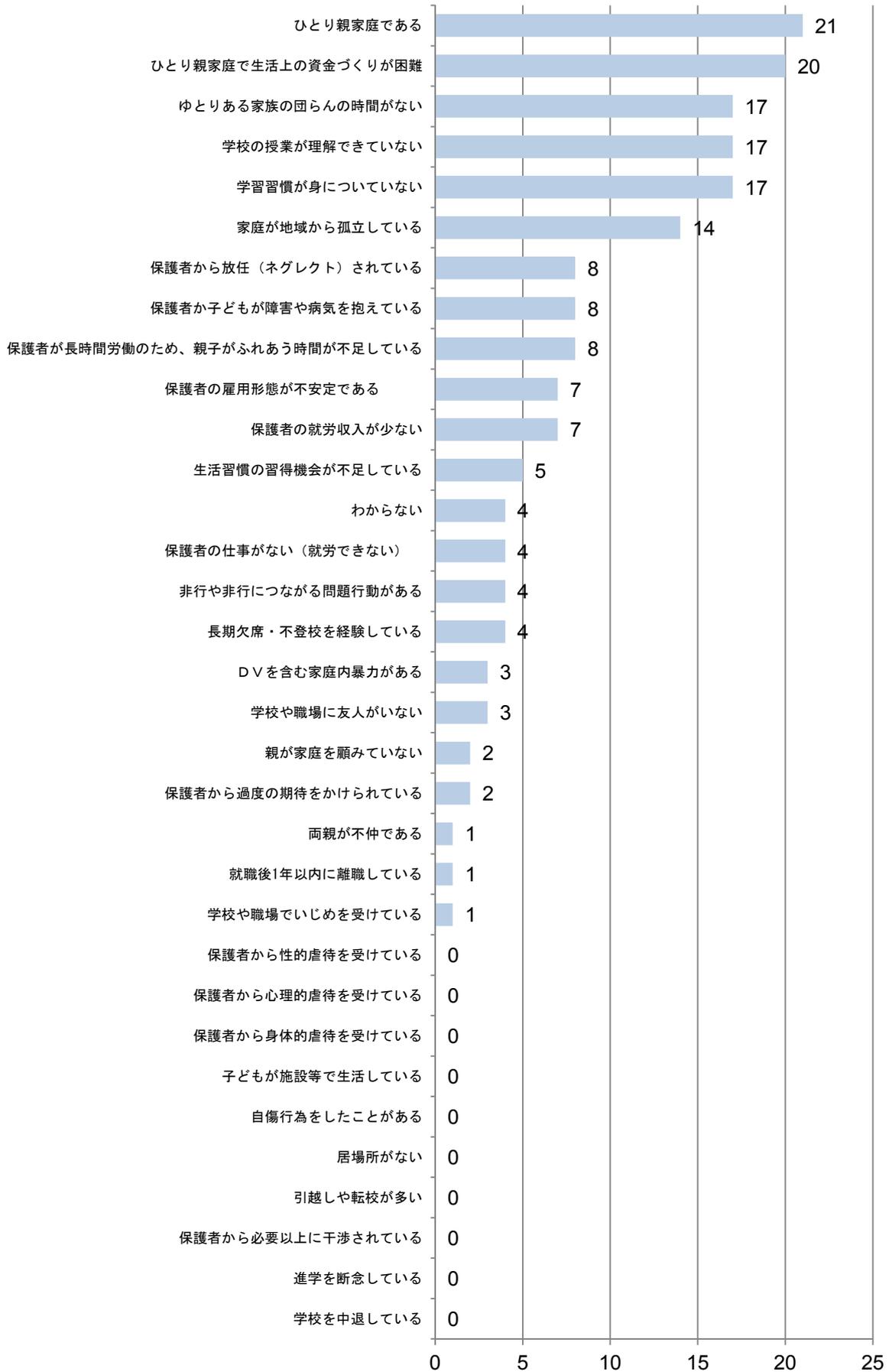
あなたがこれまで子どもや家庭に関わってこられた中で、困難を抱える子どもは併せてどのような状況にありましたか。I群～IV群からそれぞれ1つ選んでください。



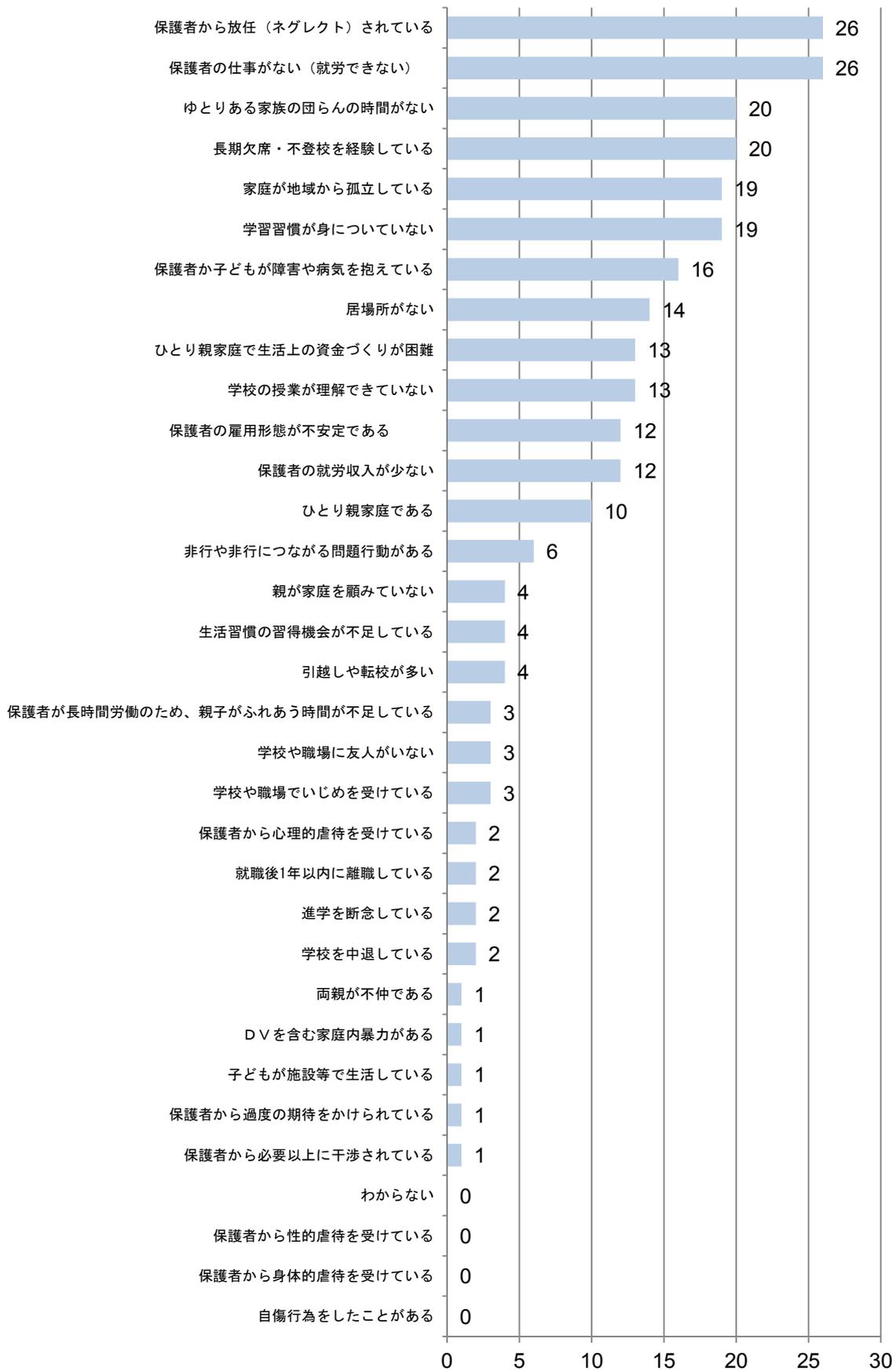
【小・中・高校】



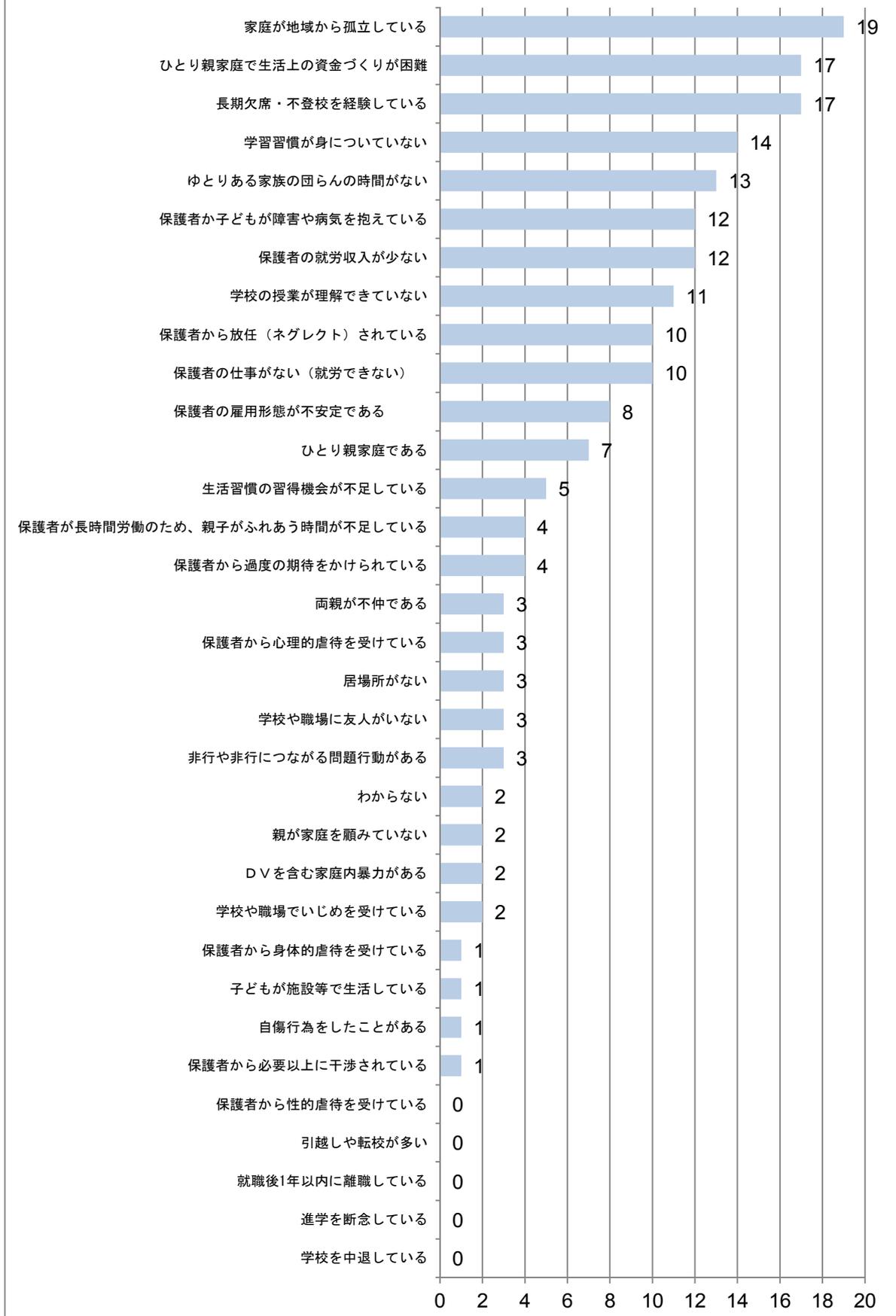
【放課後児童クラブ】



【児童相談所、地こ相、保健師、PT構成課（行政関係）】

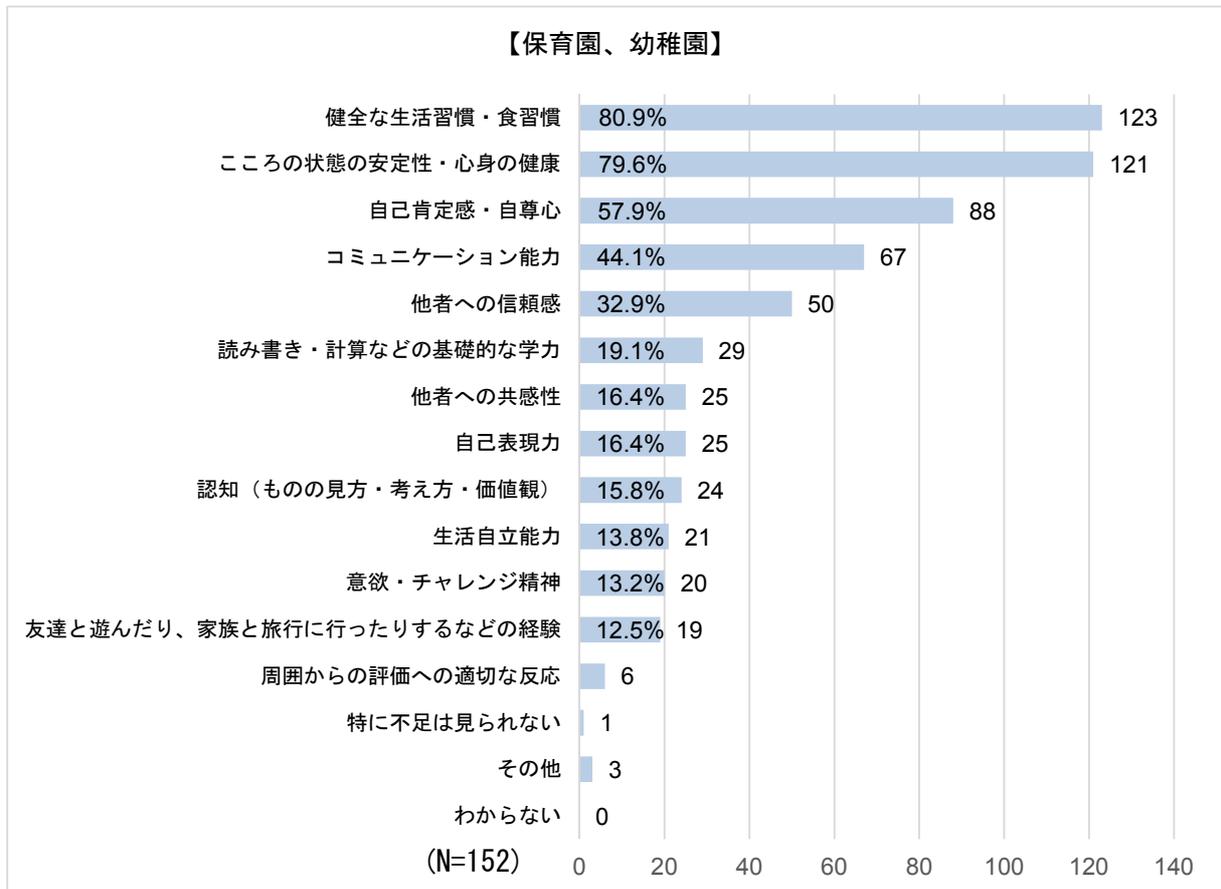


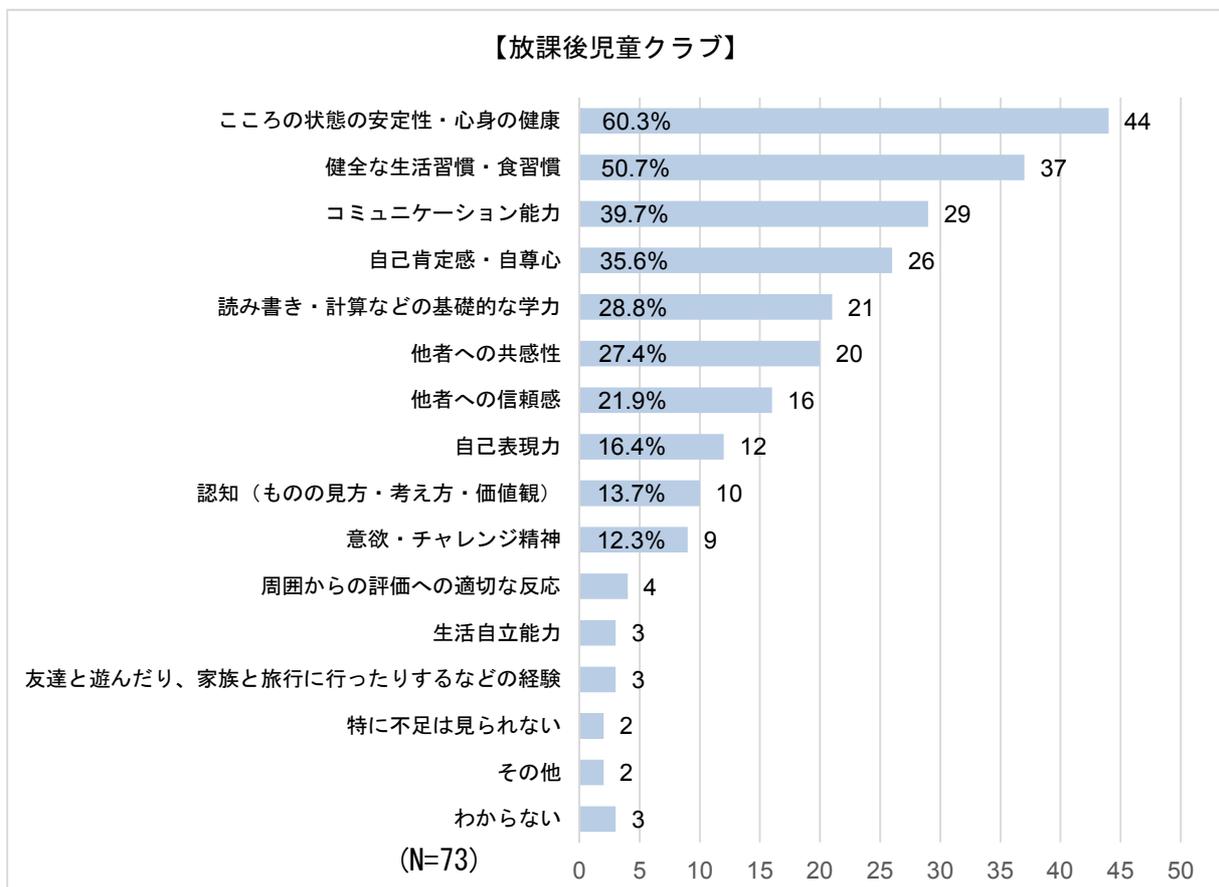
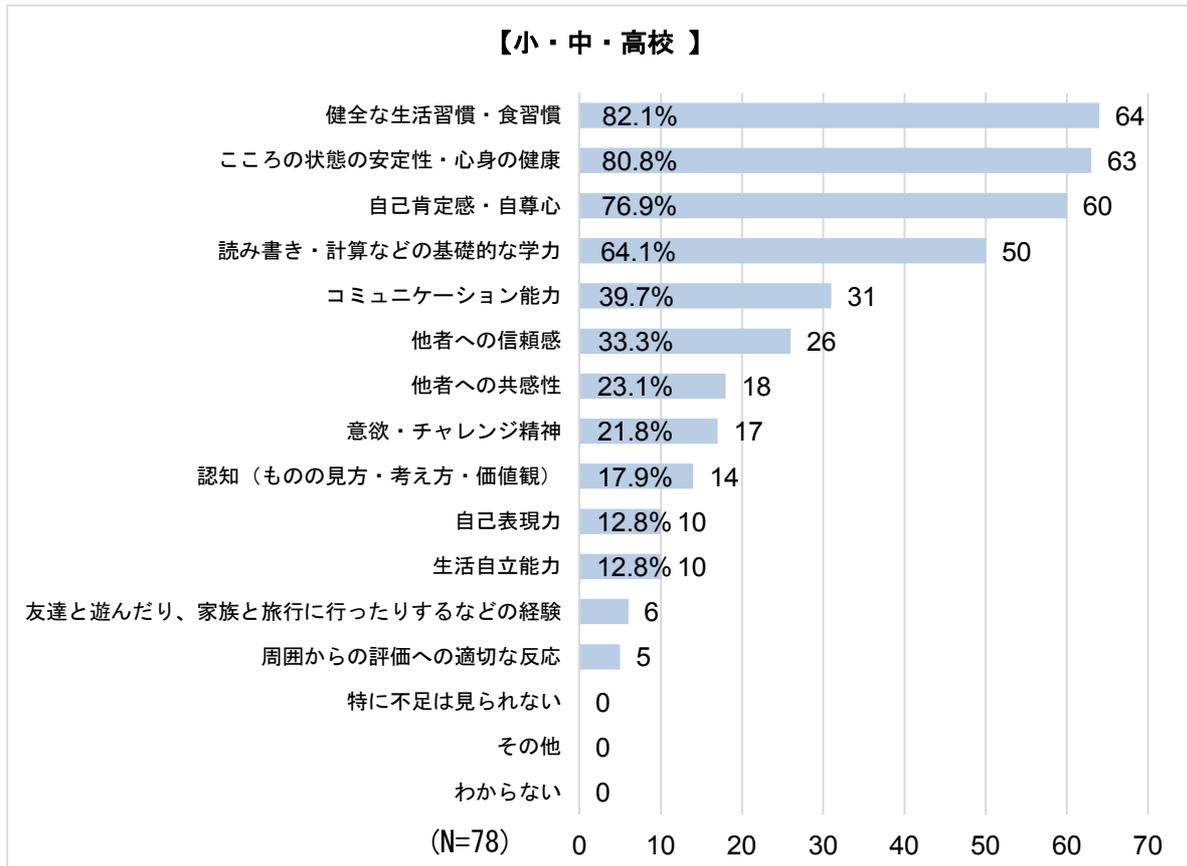
【スクールカウンセラー、医療ソーシャルワーカー、民生委員・児童委員、愛育委員（地域の支援者）、その他（適応指導教室、児童福祉施設、NPO 団体等、その他（社協、マザーズハローワーク））】



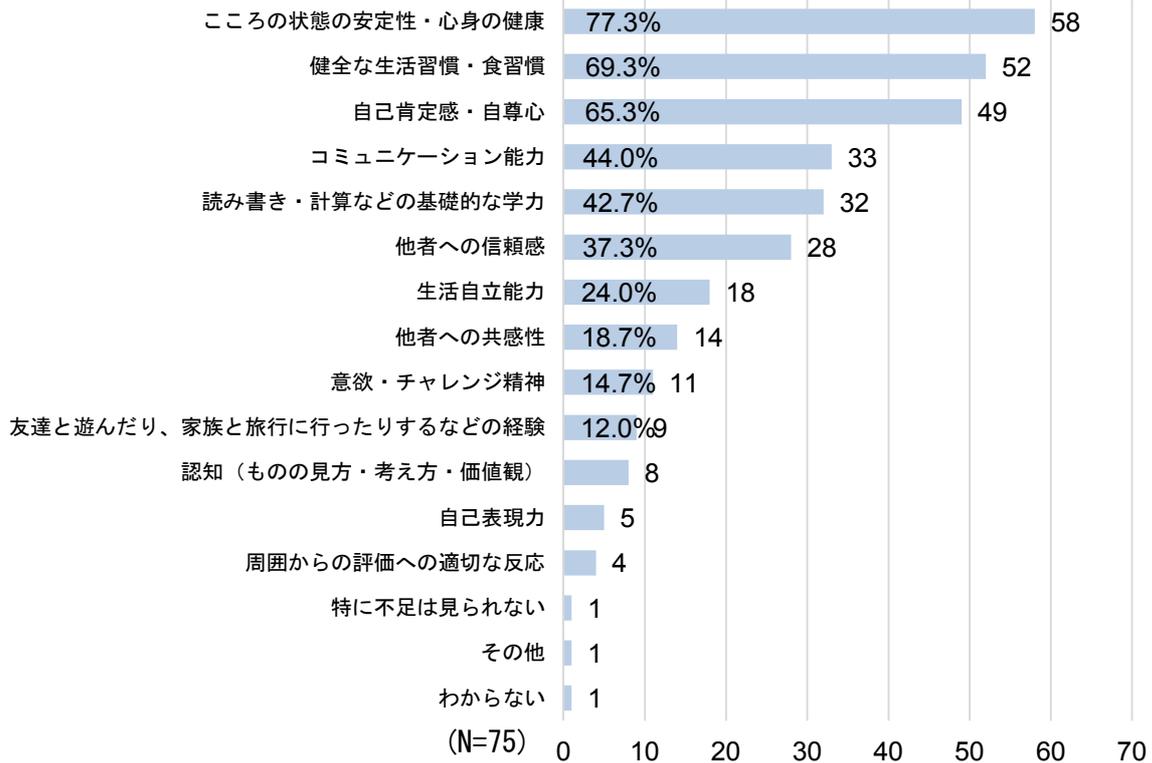
【問 7】

あなたのこれまでのご経験から見て、困難を抱える子どもはどのような項目において不足していると思われますか。主なものを選んでください。(5つ以内)

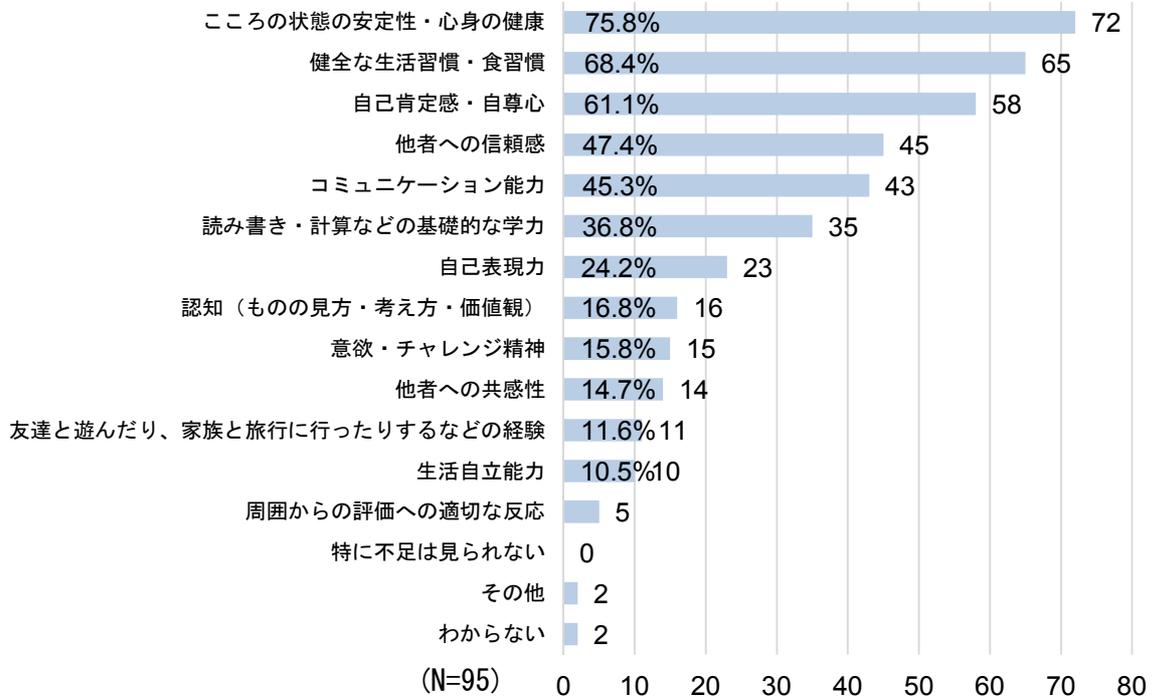




【児童相談所、地こ相、保健師、PT構成課（行政関係）】

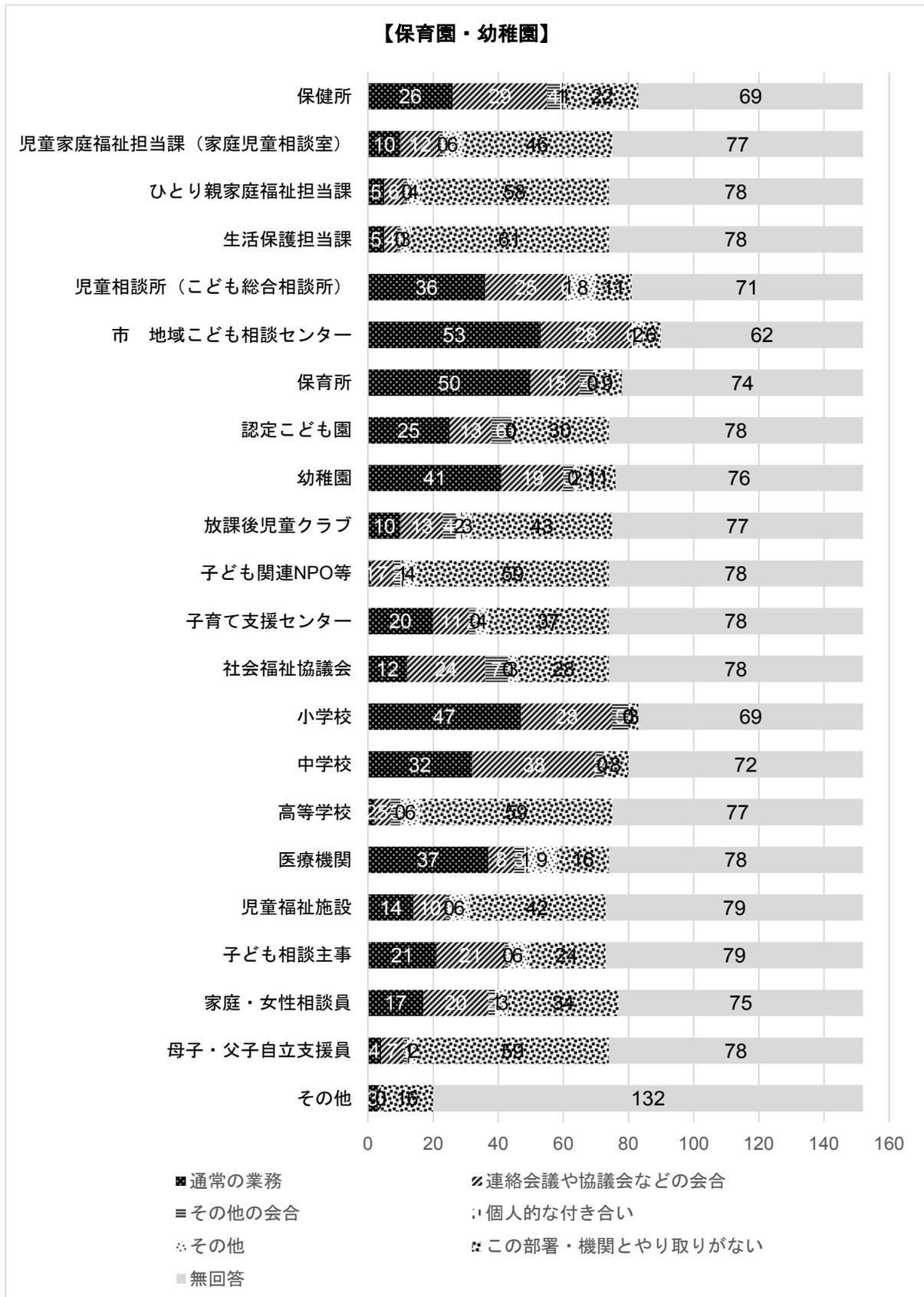


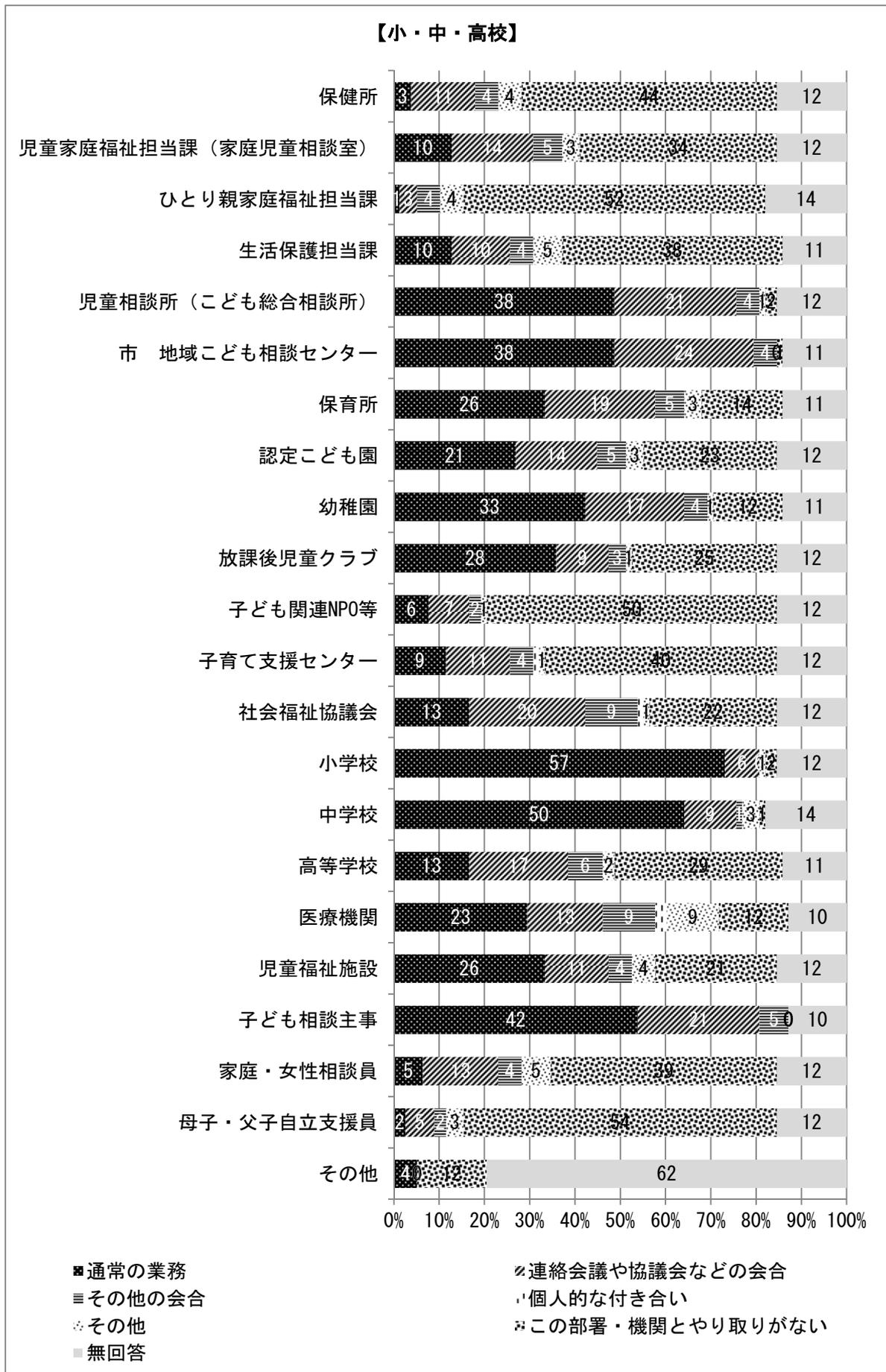
【スクールカウンセラー、医療ソーシャルワーカー、民生委員・児童委員、愛育委員（地域の支援者）、その他（適応指導教室、児童福祉施設、NPO団体等、その他（社協、マザーズハローワーク））】



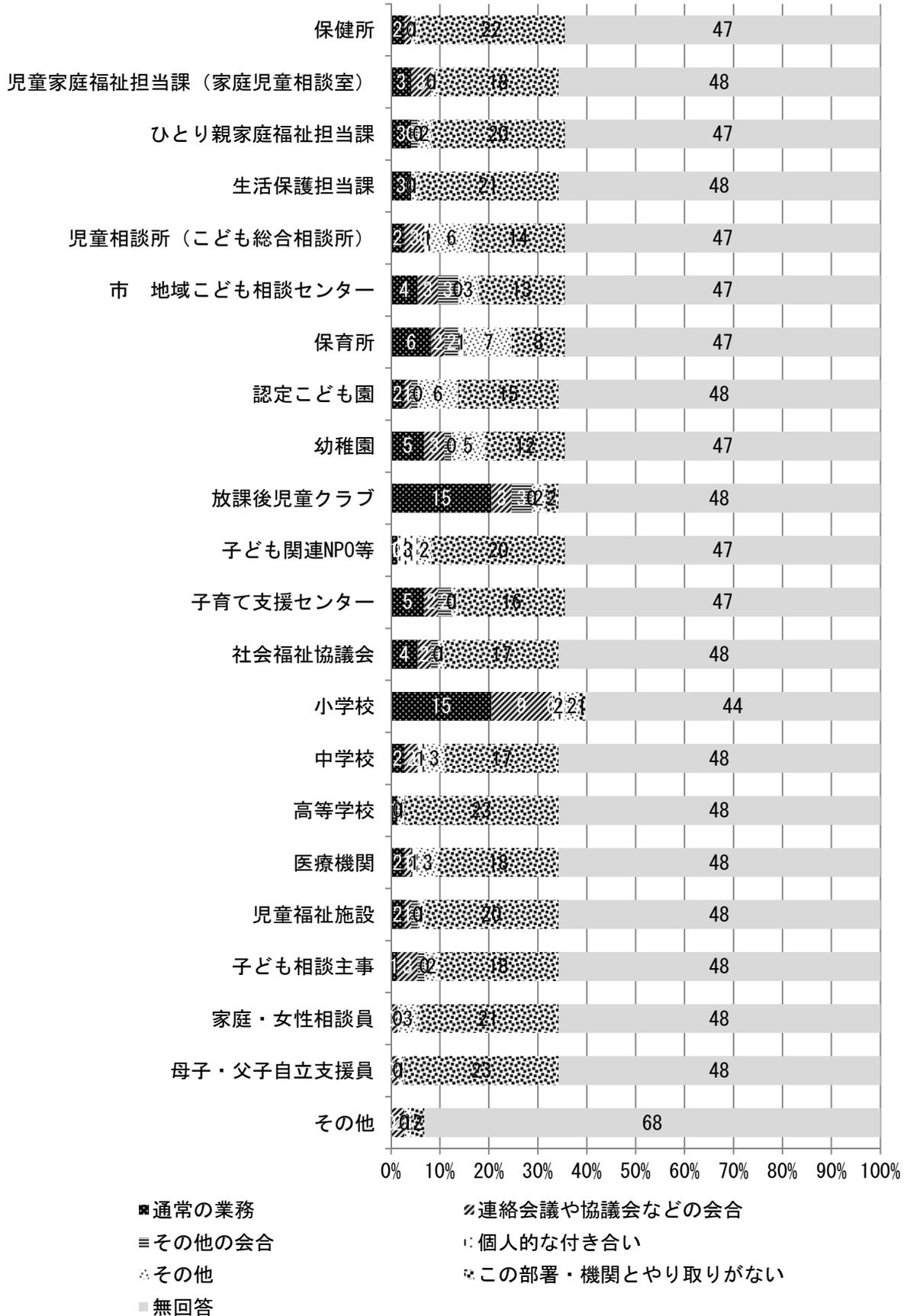
【問 9-1】

あなたは普段、他の部署・機関の人と、困難を抱える子どもについて情報をやり取りする機会がありますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

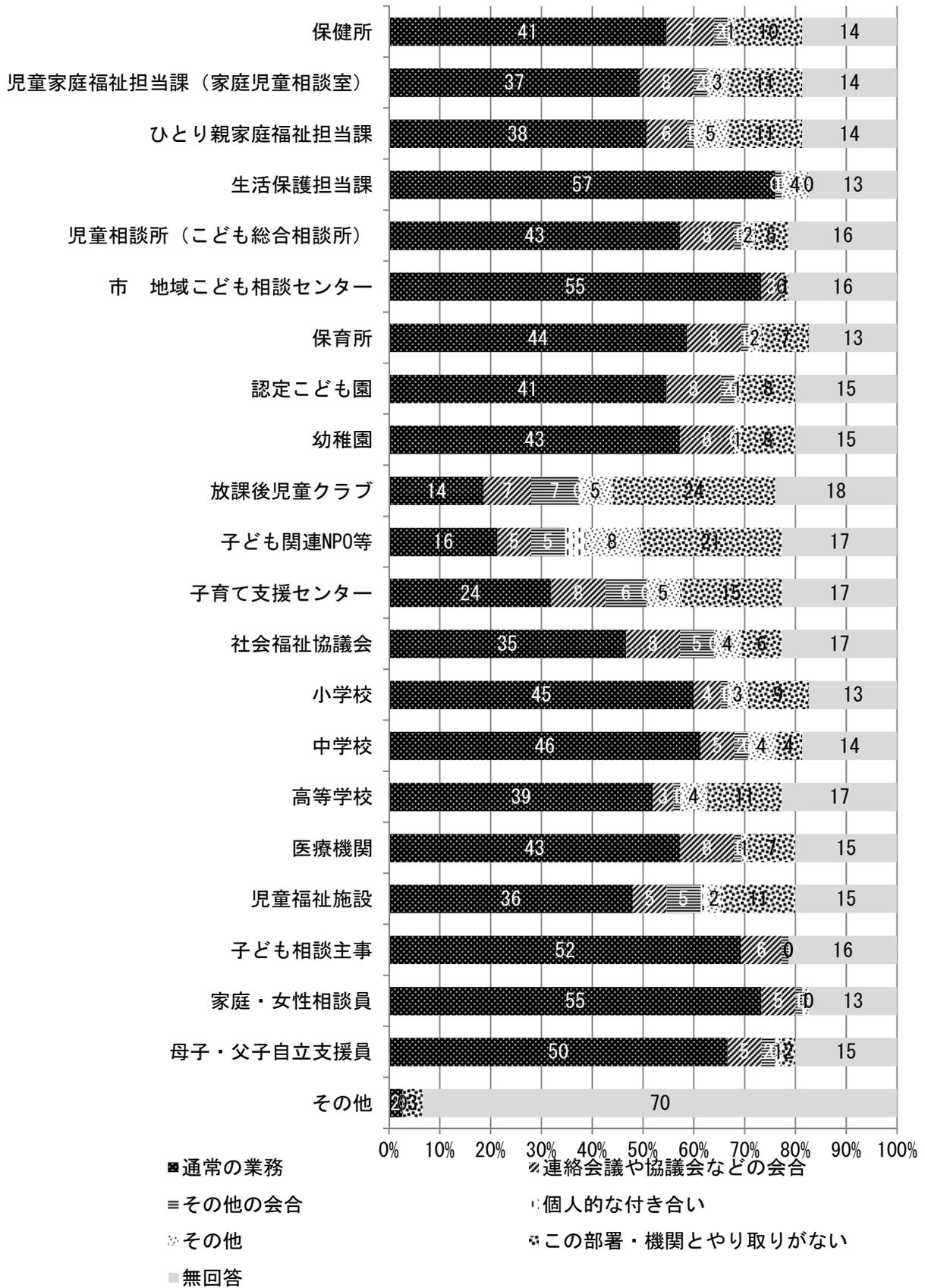




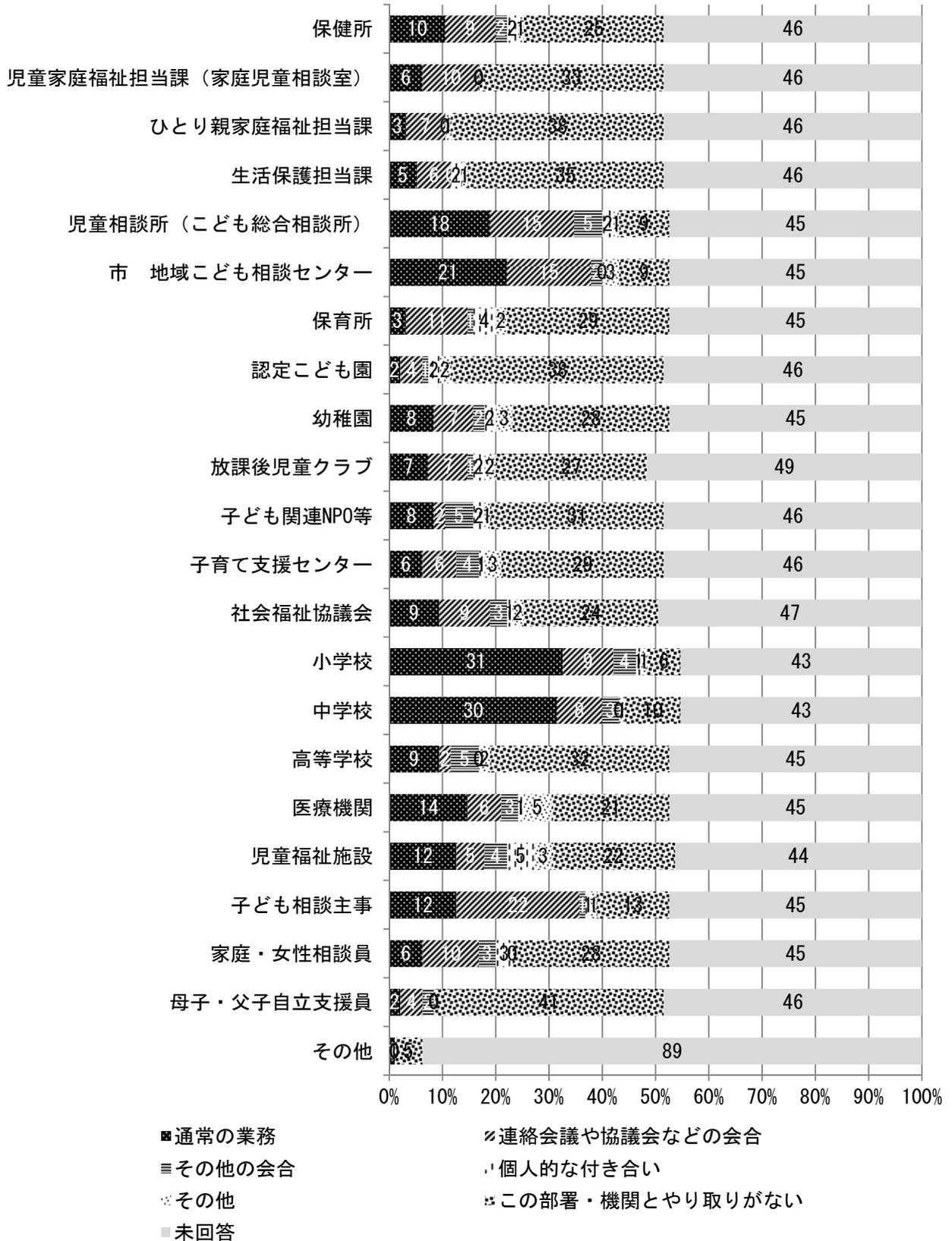
【放課後児童クラブ】



【児童相談所、地こ相、保健師、PT構成課（行政関係）】

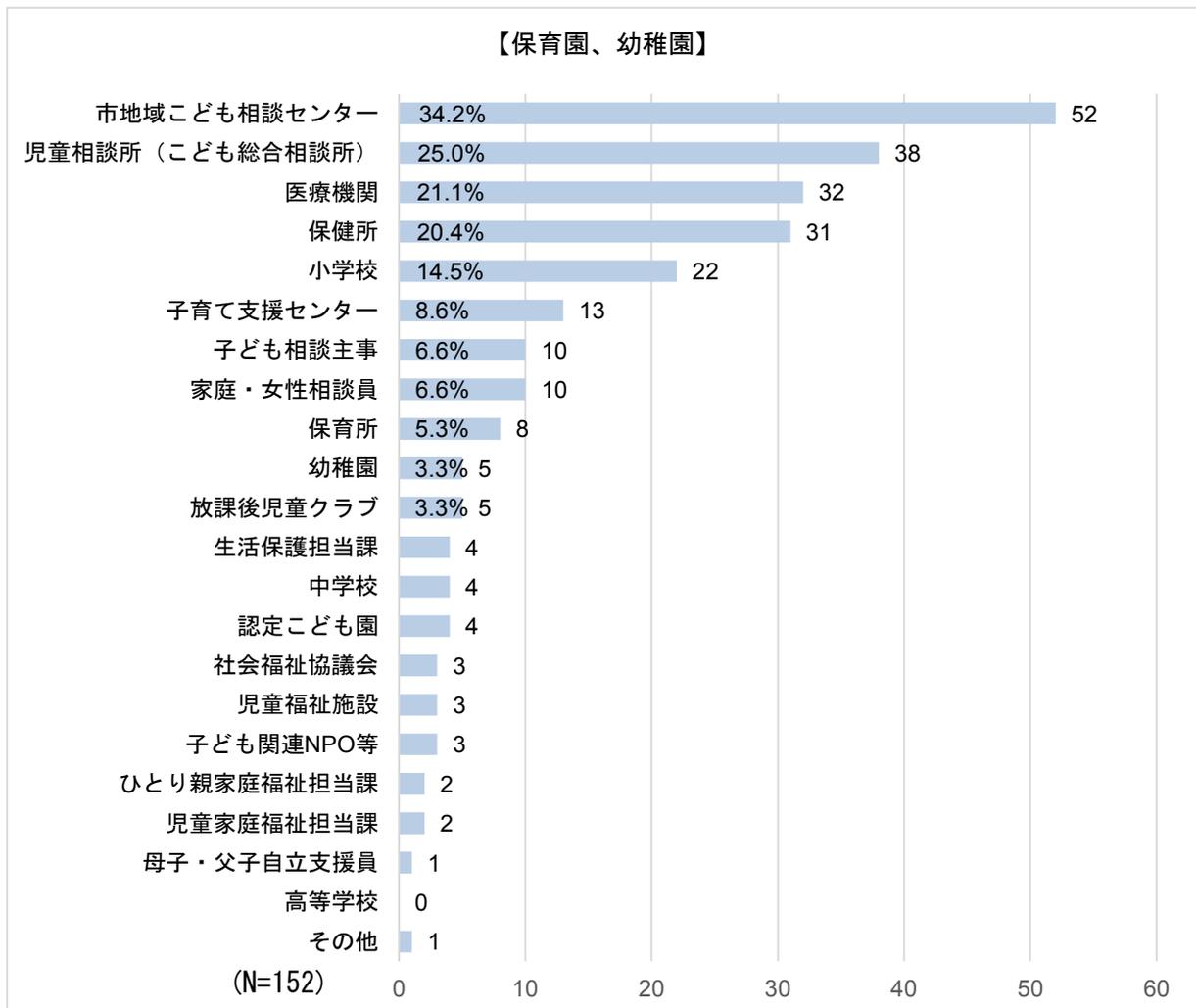


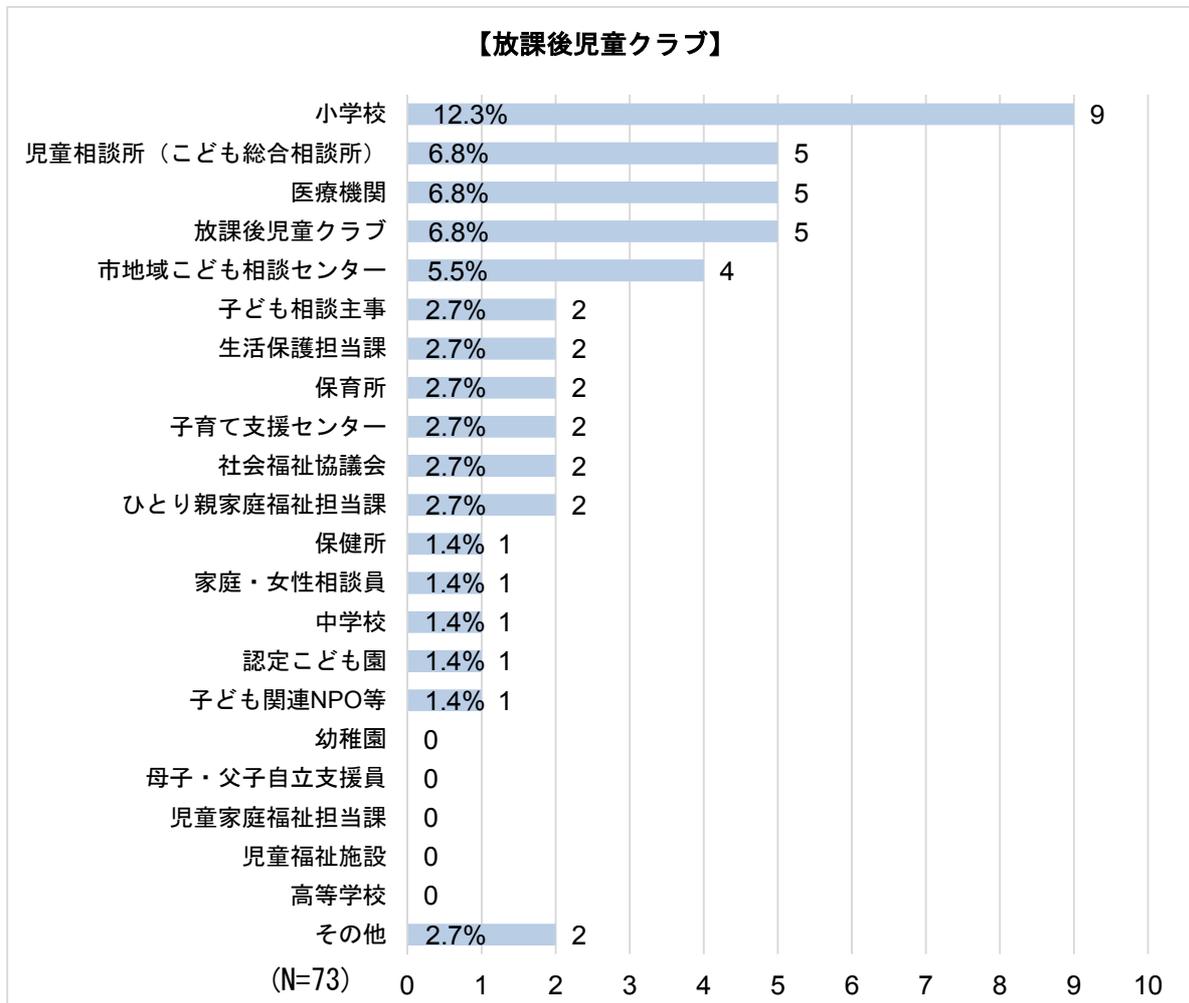
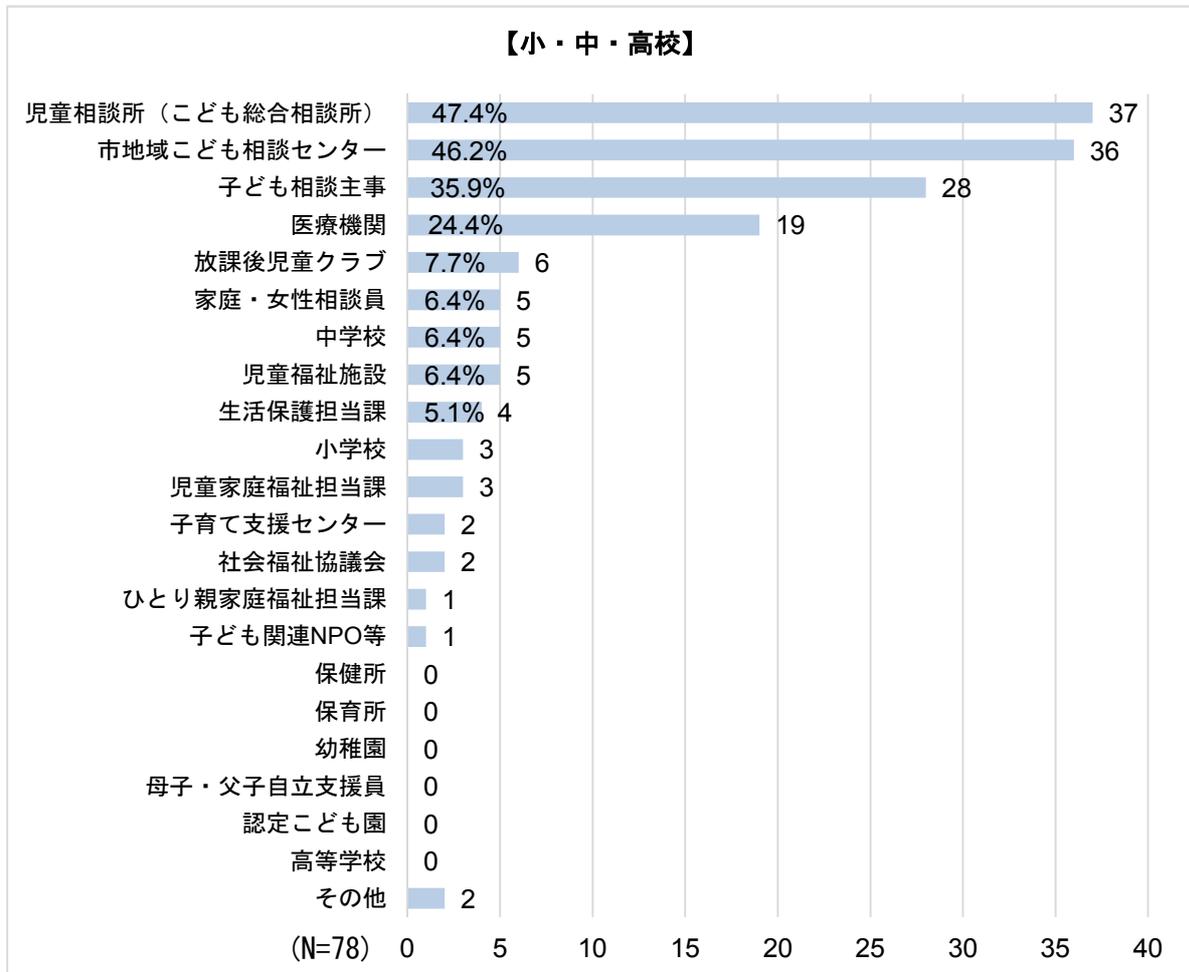
【スクールカウンセラー、医療ソーシャルワーカー、民生委員・児童委員、愛育委員（地域の支援者）、その他（適応指導教室、児童福祉施設、NPO団体等、その他（社協、マザーズハローワーク））】



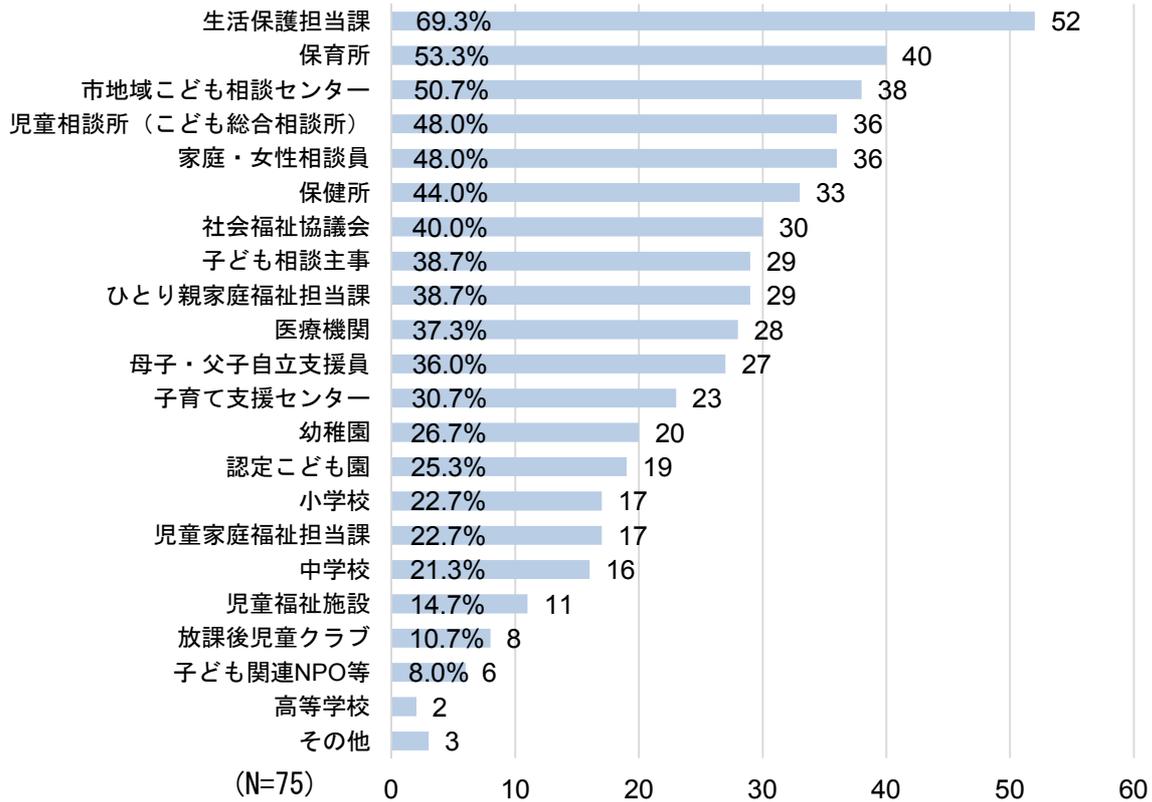
【問 10-1】

問 10 で「1 よくある」または「2 ときどきある」とお答えした方のみにおたずねします。どの機関で受けられるサービスを紹介することが多いですか。あてはまる番号すべてを選んでください。

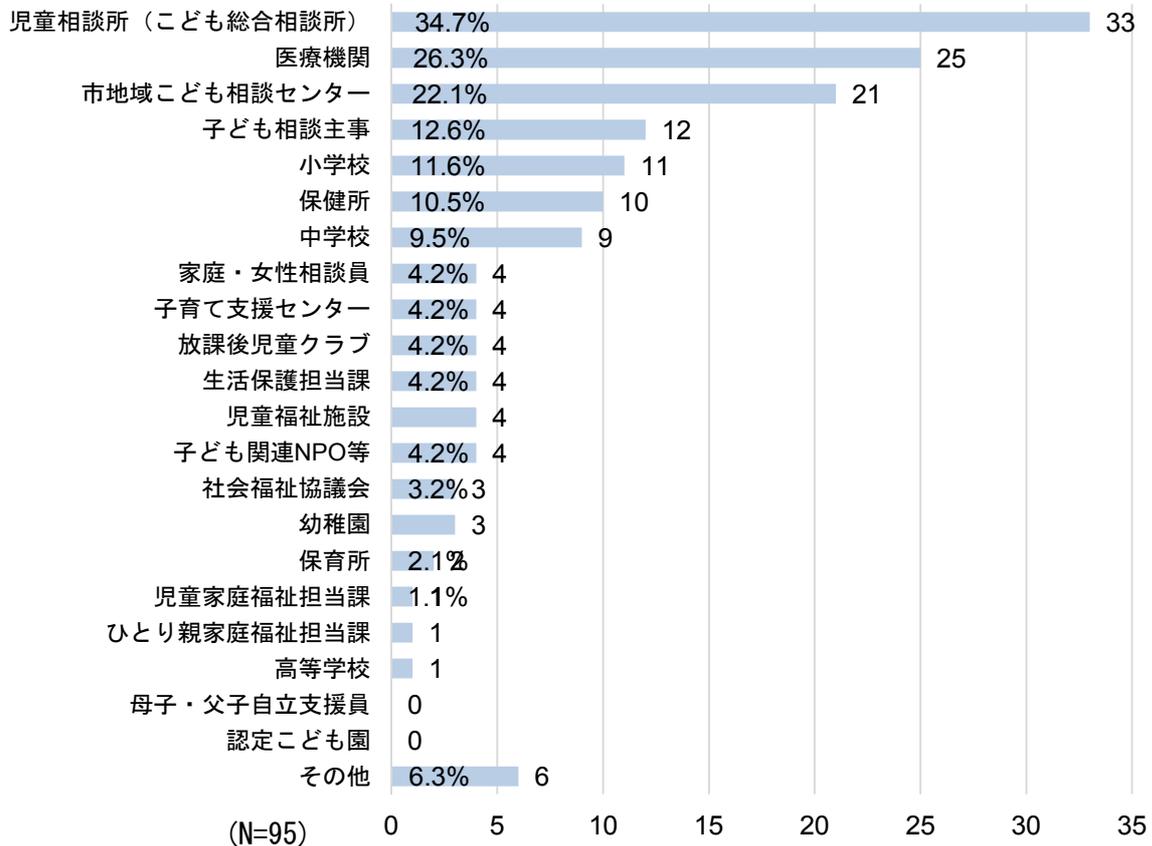




【児童相談所、地こ相、保健師、PT構成課（行政関係）】



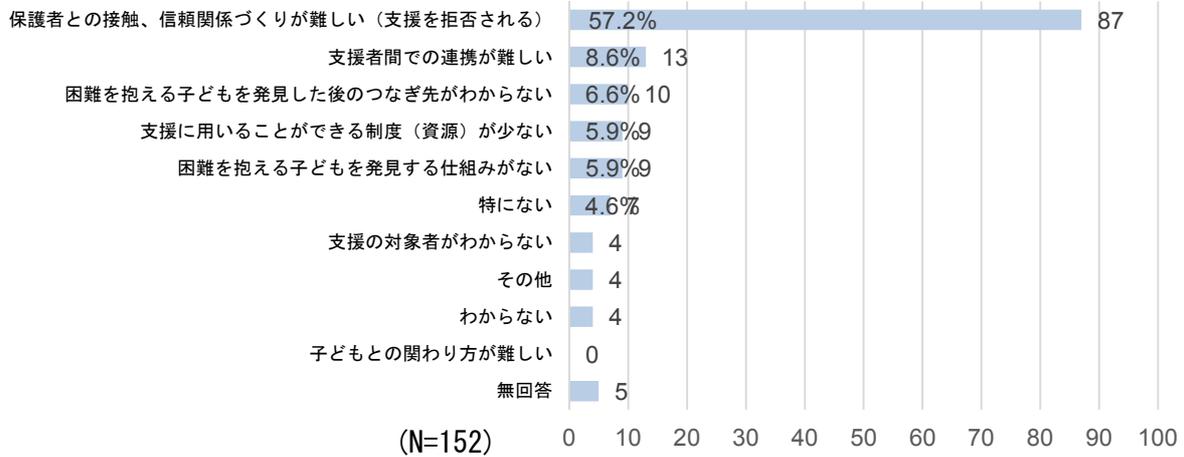
【スクールカウンセラー、医療ソーシャルワーカー、民生委員・児童委員、愛育委員（地域の支援者）、その他（適応指導教室、児童福祉施設、NPO 団体等、その他（社協、マザーズハローワーク））】



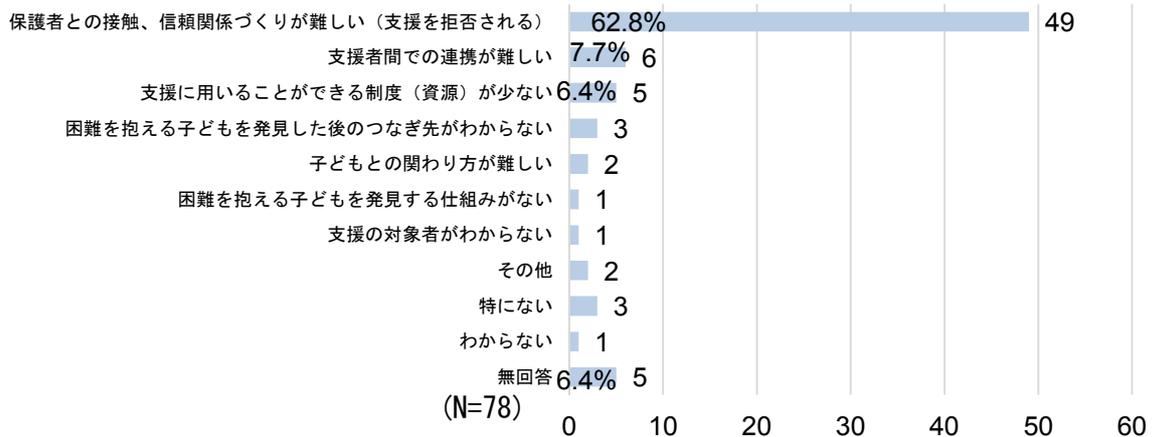
【問 11】

あなたは、困難を抱える子どもとその家庭への支援にあたって、どのような点が困難だと感じていますか。もっともあてはまる番号を1つだけ選んでください。

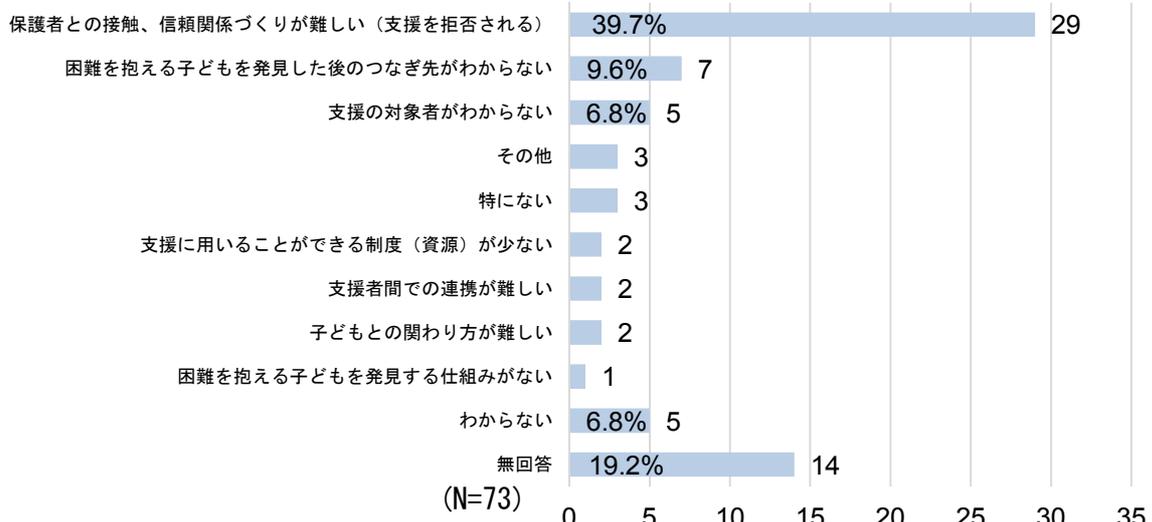
【保育園、幼稚園】



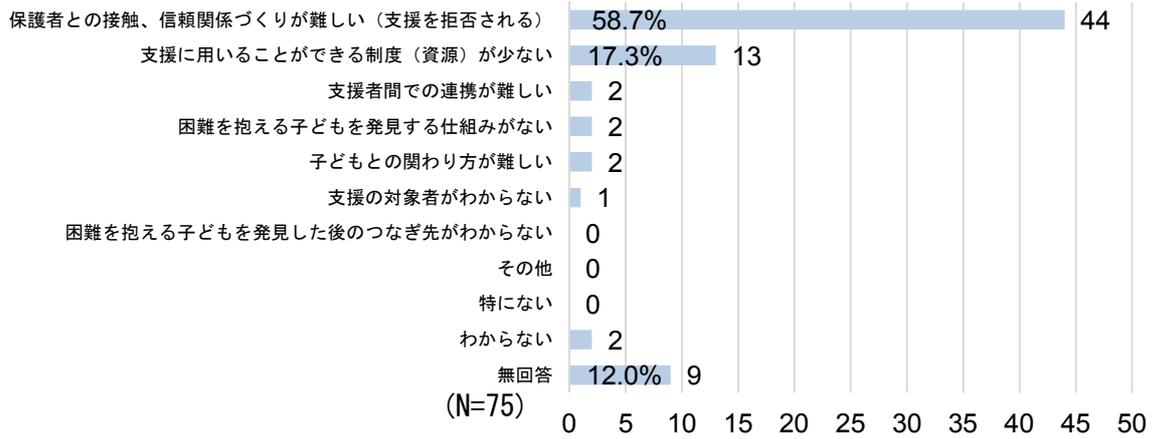
【小・中・高校】



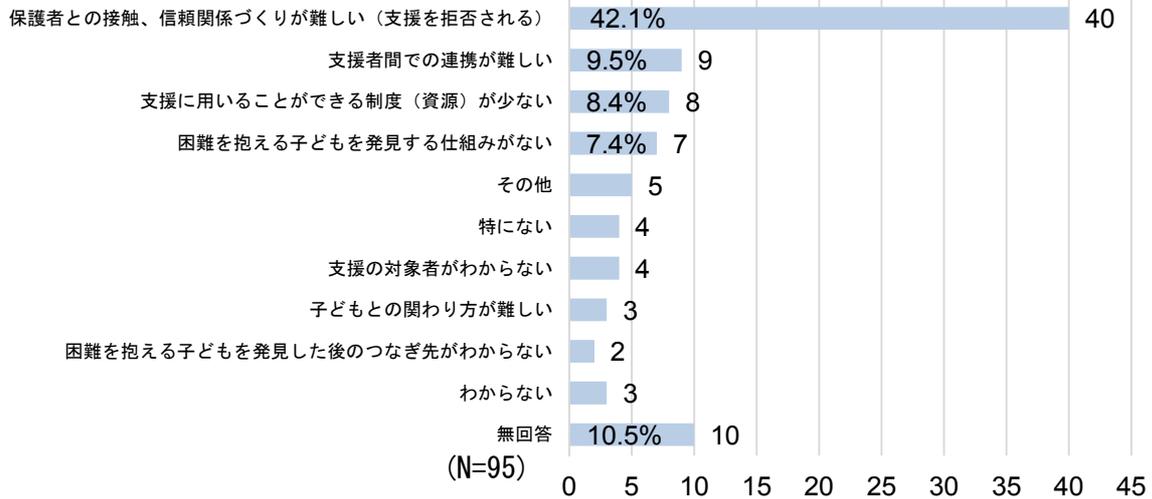
【放課後児童クラブ】



【児童相談所、地こ相、保健師、PT構成課（行政関係）】

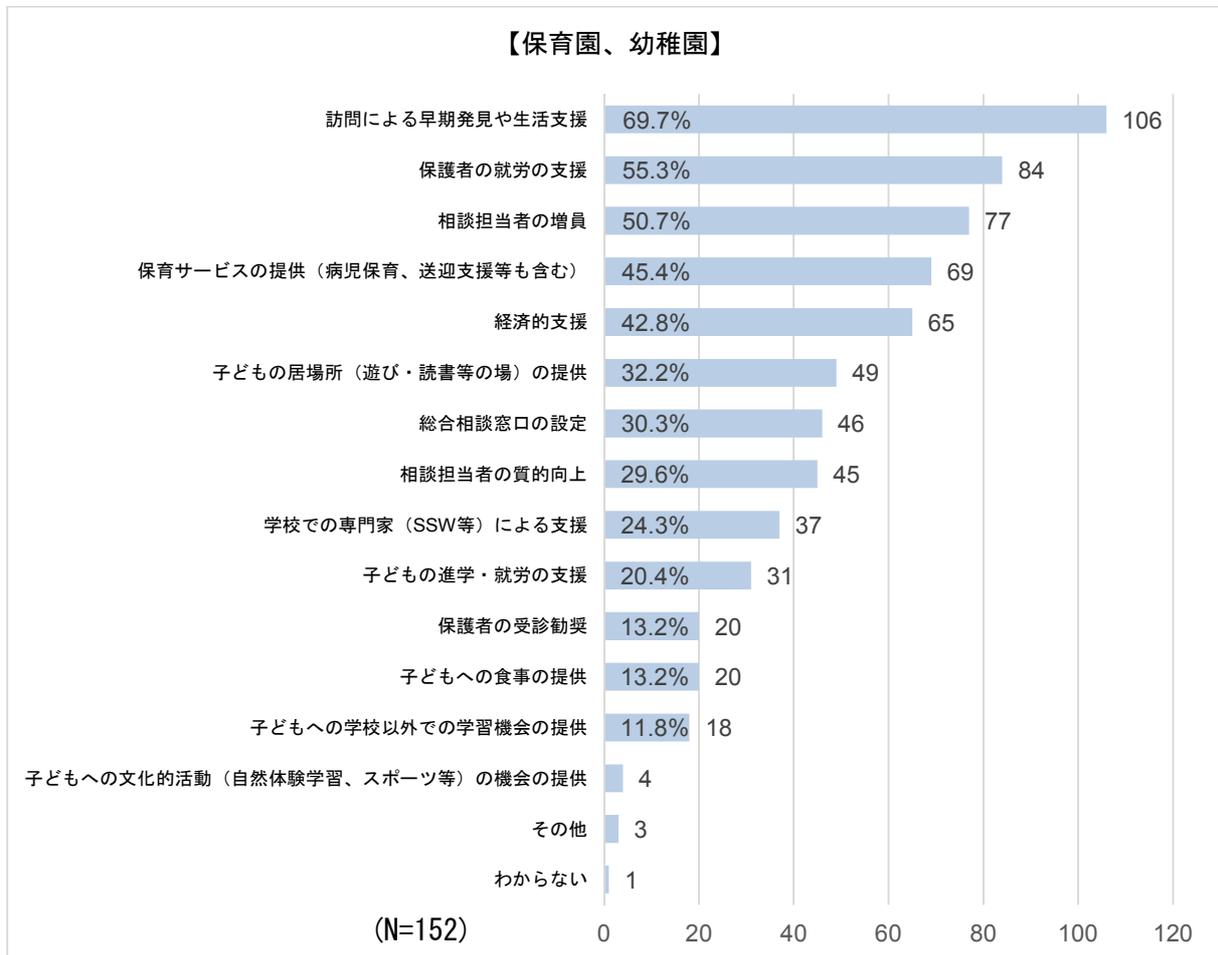


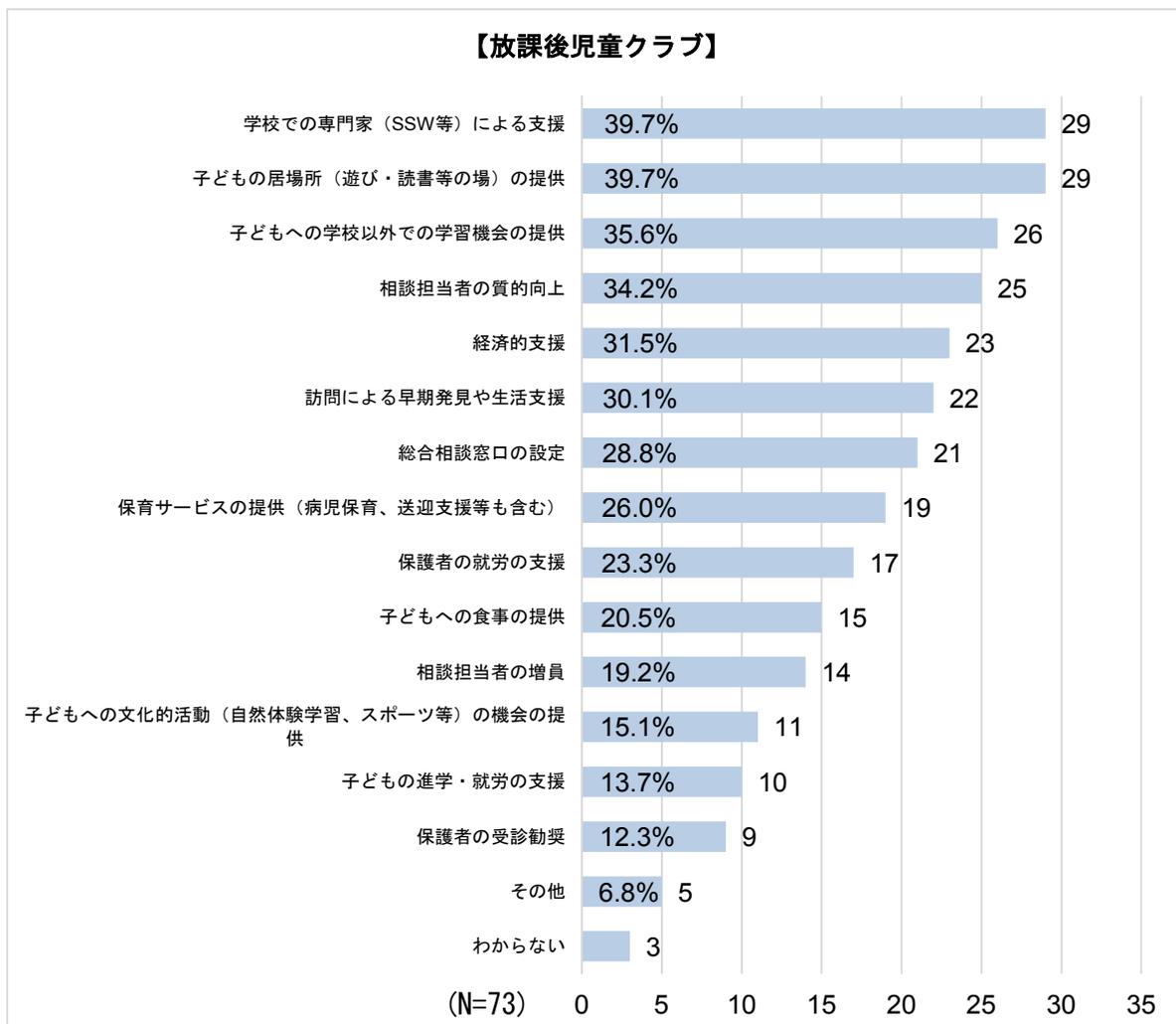
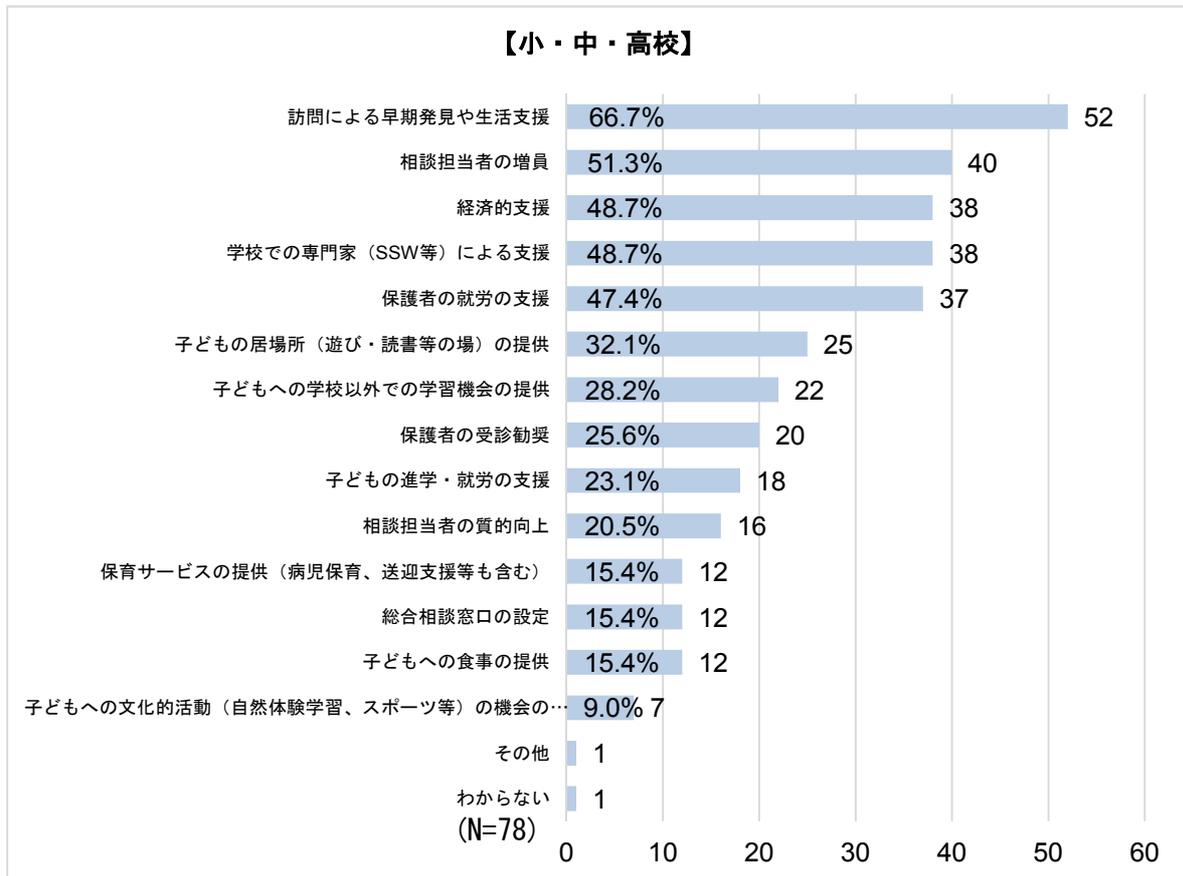
【スクールカウンセラー、医療ソーシャルワーカー、民生委員・児童委員、愛育委員（地域の支援者）、その他（適応指導教室、児童福祉施設、NPO団体等、その他（社協、マザーズハローワーク））】



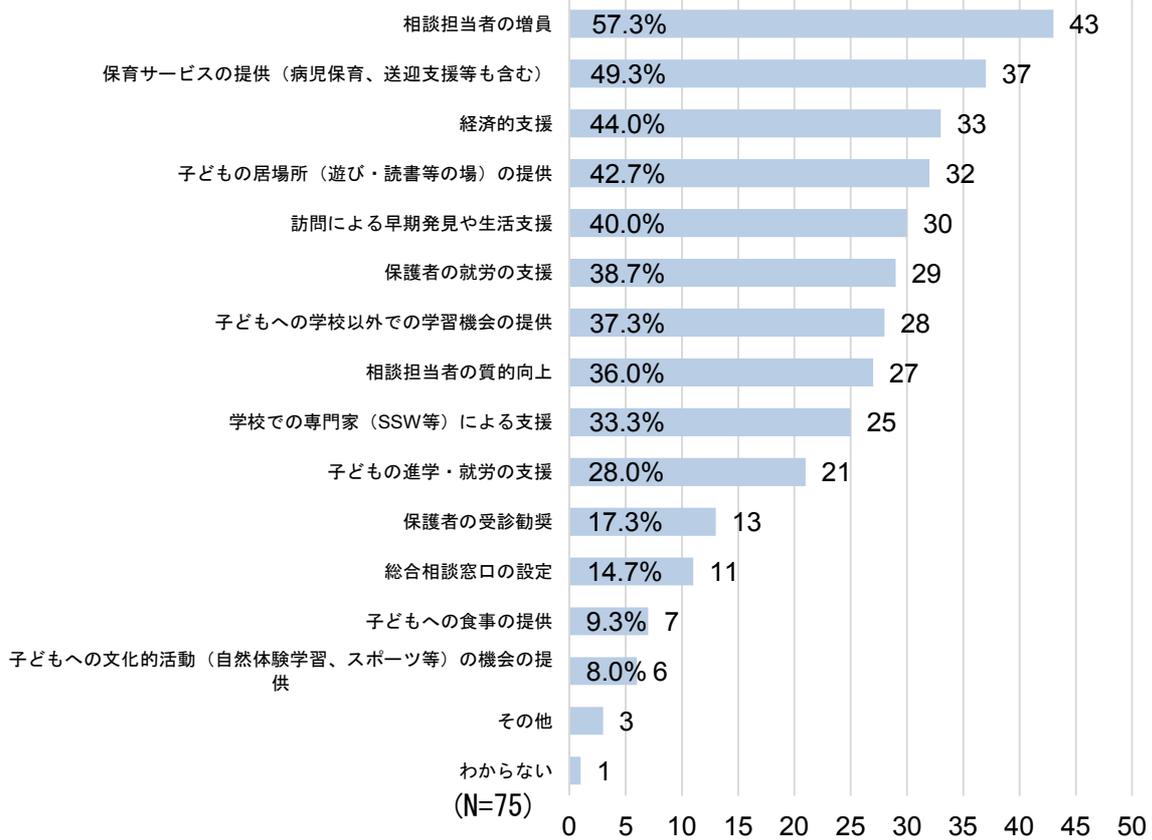
【問 12】

あなたは、(自分が所属する機関で実際に取り組まれている支援いかにかわらず)一般的に、困難を抱える子どもや保護者に対し、どのような支援がもっと必要だと思いますか。特に必要だと思う番号を5つ選んでください。

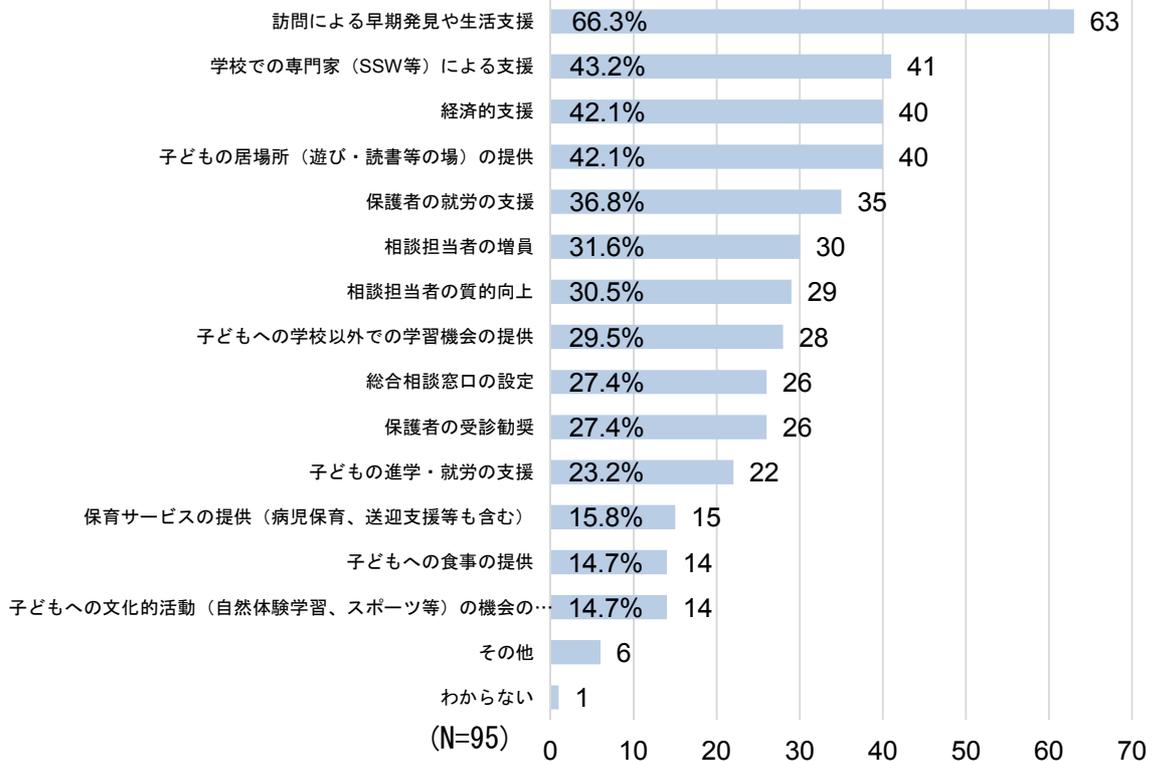




【児童相談所、地こ相、保健師、PT構成課（行政関係）】



【スクールカウンセラー、医療ソーシャルワーカー、民生委員・児童委員、愛育委員（地域の支援者）、その他（適応指導教室、児童福祉施設、NPO団体等、その他（社協、マザーズハローワーク））】



困難を抱える子どもに関する状況(岡山市)

(単位:%)

No	指 標	岡山市	頁
		数値	
1	就学援助認定率(小・中学校合計)	15.70	2
2	就学援助認定率(小学校)	14.61	2
3	就学援助認定率(中学校)	17.97	3
4	生活保護世帯の子どもの割合	1.65	3
5	生活保護世帯の子どもの高校進学率	90.30	3
6	小学生のう歯被患率	21.67	4
7	全児童数に対する児童虐待対応件数の割合 (児童相談所分)	0.26	4
8	全児童数に対する児童虐待対応件数の割合 (市町村分)	0.31	5
9	全児童数に対する養護相談受付件数の割合 (児童相談所分)	0.67	5
10	全児童数に対する養護相談受付件数の割合 (市町村分)	0.86	6
11	社会的養護を必要とする児童の割合	0.20	6
12	児童扶養手当受給世帯の児童の割合	7.90	7
13	児童扶養手当受給世帯のうち全部支給の世帯の割合	56.74	7
14	児童扶養手当受給世帯の割合	1.96	8

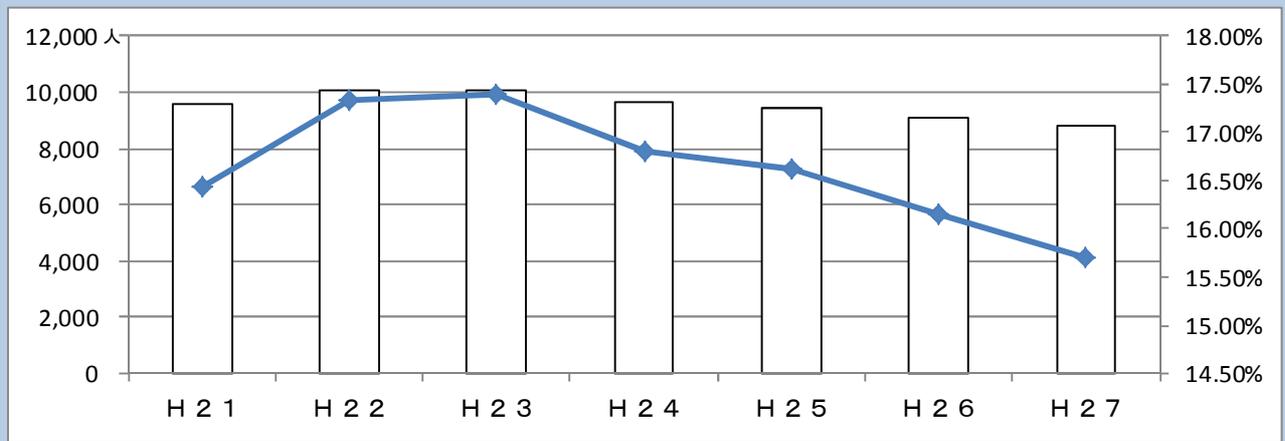
○グラフの見方○

- ・折れ線グラフは表中の「指標」の推移を表しています。
- ・棒グラフは表中の「(A)」の推移を表しています。

1	指標名	算出式
	就学援助認定率 (小・中学校合計)	$\frac{(B)のうち就学援助認定者数 \cdot (A)}{\text{小・中学校の児童・生徒数} \cdot (B)} \times 100\%$

■岡山市の推移■

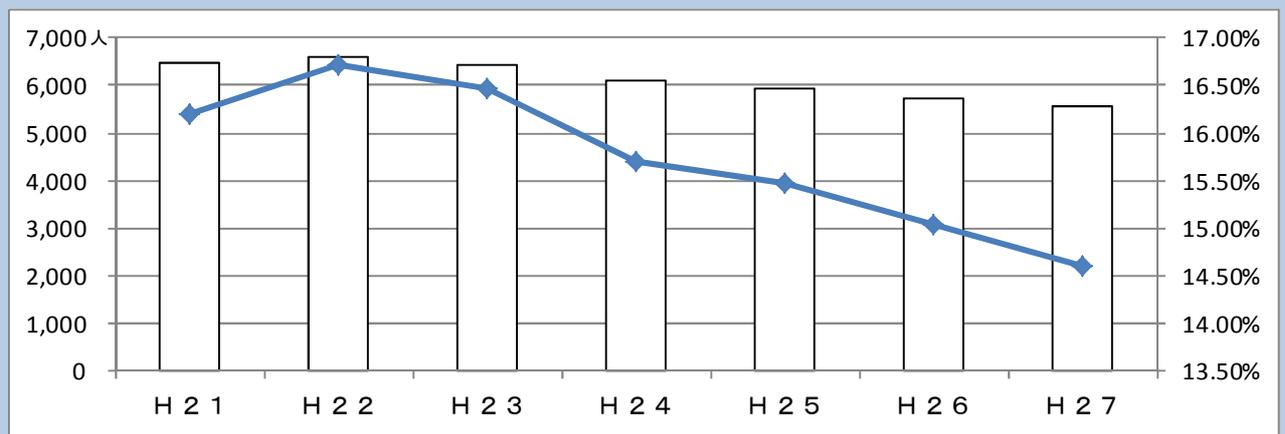
年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
指標	16.43%	17.34%	17.39%	16.80%	16.61%	16.15%	15.70%
(A)	9,602	10,081	10,041	9,634	9,447	9,120	8,828
(B)	58,430	58,151	57,752	57,353	56,867	56,460	56,221



2	指標名	算出式
	就学援助認定率 (小学校)	$\frac{(B)のうち就学援助認定者数 \cdot (A)}{\text{小学校の児童数} \cdot (B)} \times 100\%$

■岡山市の推移■

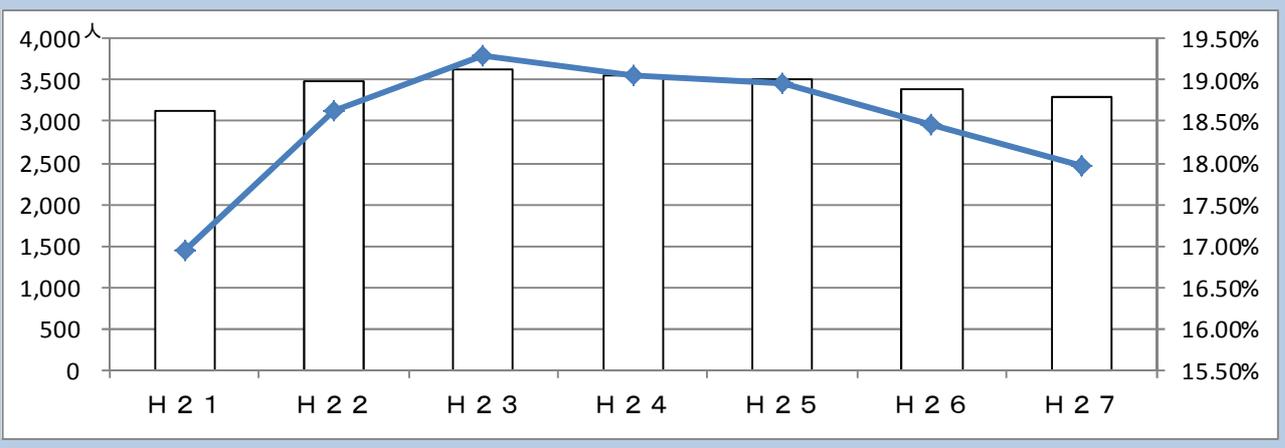
年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
指標	16.20%	16.72%	16.47%	15.71%	15.48%	15.04%	14.61%
(A)	6,471	6,606	6,419	6,083	5,941	5,729	5,541
(B)	39,953	39,505	38,971	38,724	38,384	38,090	37,925



3	指 標 名	算 出 式
	就学援助認定率 (中学校)	$\frac{(B) \text{のうち就学援助認定者数} \cdot (A)}{\text{中学校の生徒数} \cdot (B)} \times 100\%$

■岡山市の推移■

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
指標	16.95%	18.64%	19.29%	19.06%	18.97%	18.46%	17.97%
(A)	3,131	3,475	3,622	3,551	3,506	3,391	3,287
(B)	18,477	18,646	18,781	18,629	18,483	18,370	18,296



4	指 標 名	算 出 式
	生活保護世帯の 子どもの割合	$\frac{\text{生活保護を受けている子どもの数} \cdot (A)}{\text{全児童数 (0~17歳)} \cdot (B)} \times 100\%$

■岡山市の推移■

年度	H26	H27
指標	1.73	1.65
(A)	2,080	1,971
(B)	120,426	119,538

5	指 標 名	算 出 式
	生活保護世帯の 子どもの高校進学率	$\frac{(B) \text{のうち高校に進学した子どもの数} \cdot (A)}{\text{生活保護世帯の中学3年生の数} \cdot (B)} \times 100\%$

■岡山市の推移■

年度	H26	H27
指標	86.75	90.30
(A)	131	149
(B)	151	165

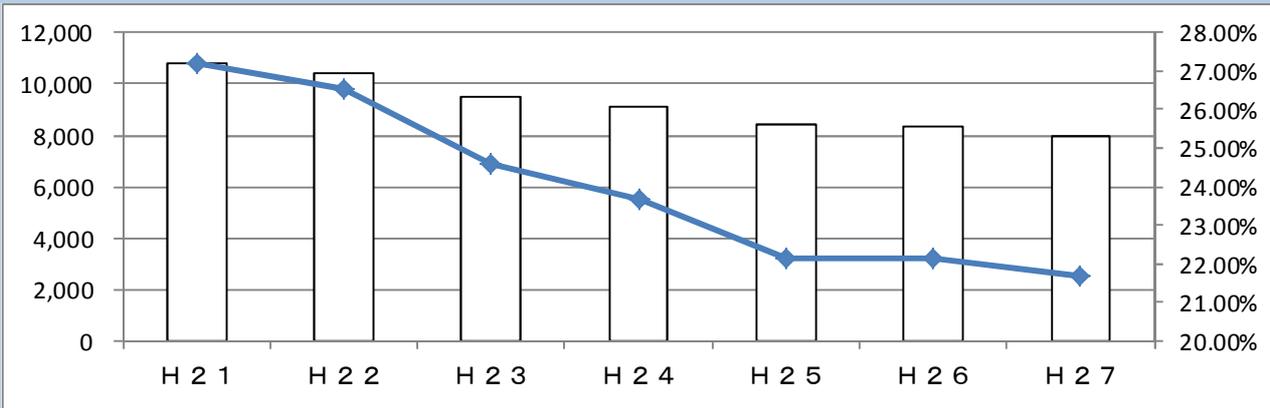
6

指 標 名	算 出 式
小学生のう歯被患率	$\frac{(B)のうち う歯のある小学生の数 \cdot (A)}{\text{定期健康診断(歯科)を受診した小学生の数} \cdot (B)} \times 100\%$

※小学生のう歯被患率には、治療済みの児童は含まれない。

■岡山市の推移■

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
指標	27.21%	26.51%	24.58%	23.67%	22.17%	22.16%	21.67%
(A)	10,792	10,399	9,526	9,112	8,445	8,384	7,979
(B)	39,667	39,221	38,749	38,502	38,098	37,827	36,816

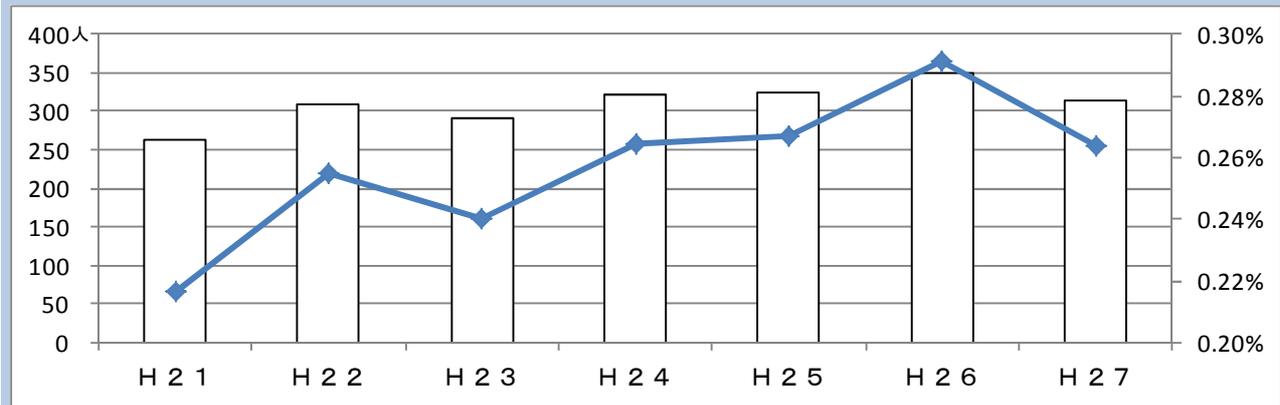


7

指 標 名	算 出 式
全児童数に対する児童虐待対応件数の割合 (児童相談所分)	$\frac{\text{児童虐待対応件数} \cdot (A)}{\text{全児童数(0~17歳)} \cdot (B)} \times 100\%$

■岡山市の推移■

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
指標	0.22%	0.25%	0.24%	0.26%	0.27%	0.29%	0.26%
(A)	262	308	291	321	323	351	315
(B)	121,003	120,869	121,170	121,255	120,911	120,426	119,538

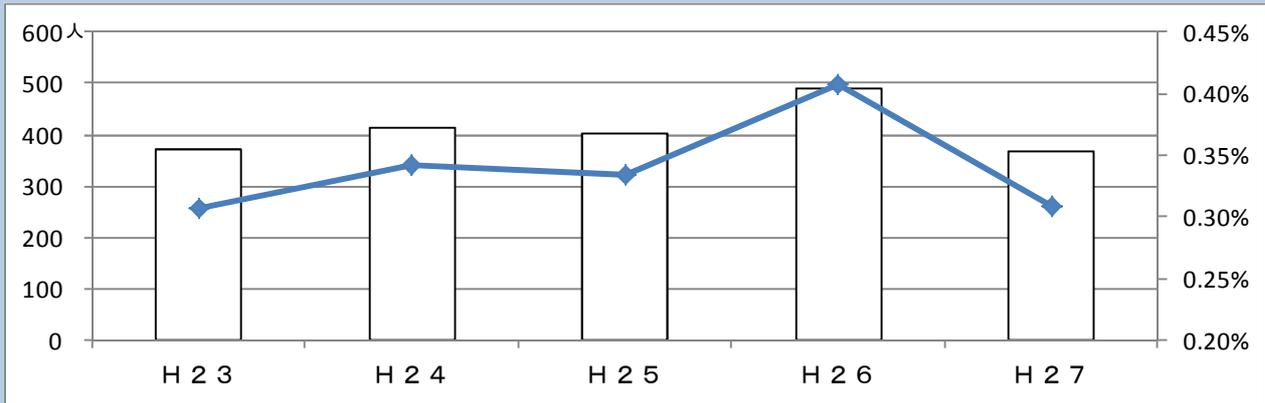


8

指 標 名	算 出 式
全児童数に対する児童虐待対応件数の割合 (市町村分)	$\frac{\text{児童虐待対応件数} \cdot (A)}{\text{全児童数 (0 \sim 17 \text{歳})} \cdot (B)} \times 100\%$

■岡山市の推移■

年度	H23	H24	H25	H26	H27
指標	0.31%	0.34%	0.33%	0.41%	0.31%
(A)	371	415	404	491	368
(B)	121,170	121,255	120,911	120,426	119,538

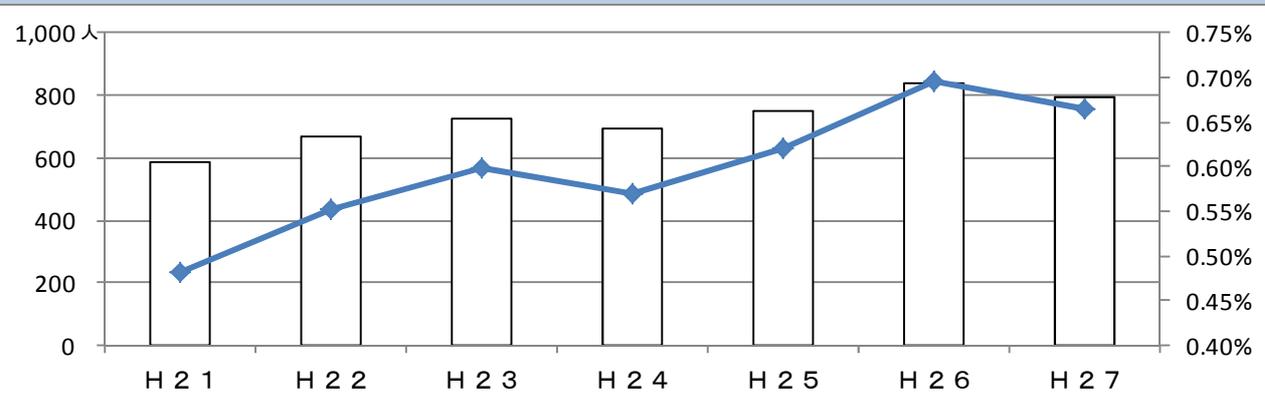


9

指 標 名	算 出 式
全児童数に対する養護相談受付件数の割合 (児童相談所分)	$\frac{\text{養護相談受付件数} \cdot (A)}{\text{全児童数 (0 \sim 17 \text{歳})} \cdot (B)} \times 100\%$

■岡山市の推移■

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
指標	0.48%	0.55%	0.60%	0.57%	0.62%	0.70%	0.67%
(A)	583	667	726	691	750	838	795
(B)	121,003	120,869	121,170	121,255	120,911	120,426	119,538

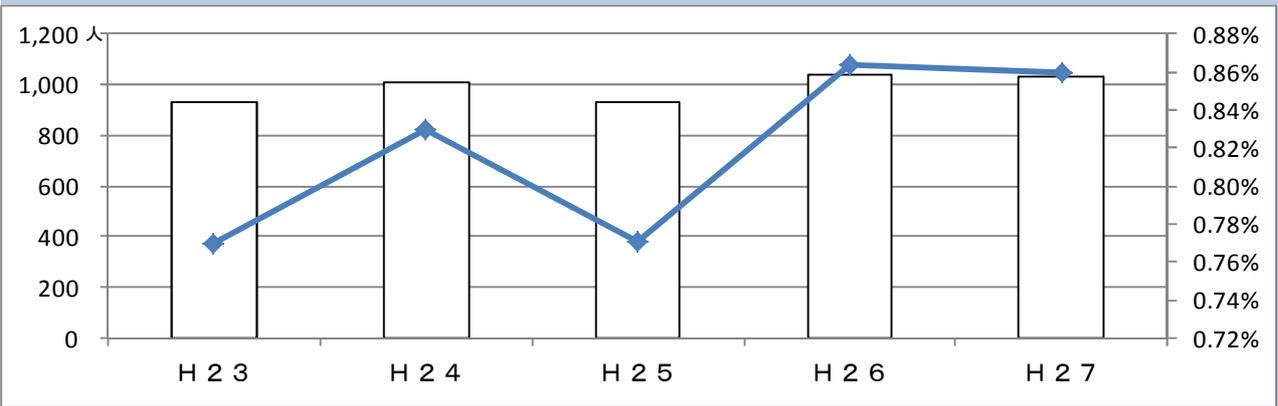


10

指 標 名	算 出 式
全児童数に対する養護 相談受付件数の割合 (市町村分)	$\frac{\text{養護相談受付件数} \cdot (A)}{\text{全児童数 (0 \sim 17 \text{歳})} \cdot (B)} \times 100\%$

■岡山市の推移■

年度	H23	H24	H25	H26	H27
指標	0.77%	0.83%	0.77%	0.86%	0.86%
(A)	933	1,006	932	1,040	1,028
(B)	121,170	121,255	120,911	120,426	119,538

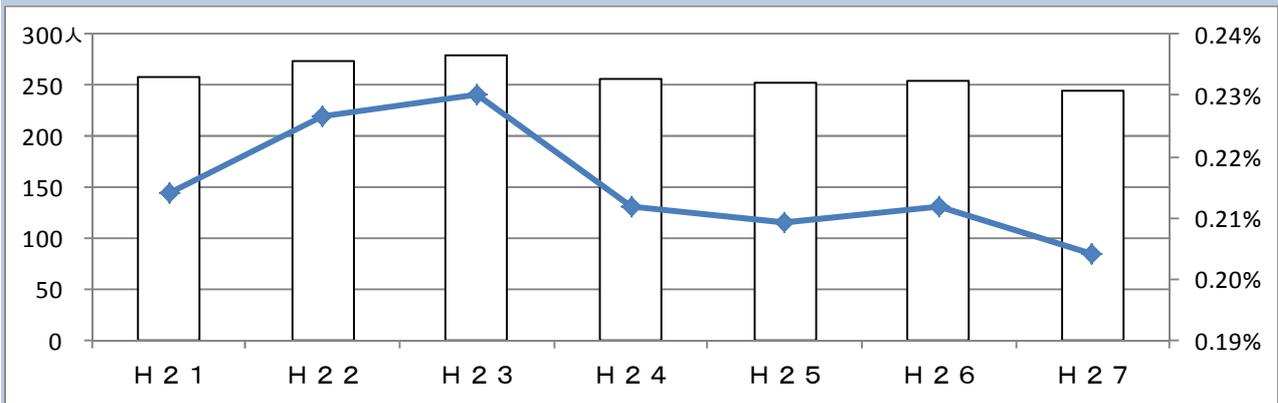


11

指 標 名	算 出 式
社会的養護を必要とする 児童の割合	$\frac{\text{児童福祉施設措置入所児童数} \cdot (A)}{\text{全児童数 (0 \sim 17 \text{歳})} \cdot (B)} \times 100\%$

■岡山市の推移■

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
指標	0.21%	0.23%	0.23%	0.21%	0.21%	0.21%	0.20%
(A)	259	274	279	257	253	255	244
(B)	121,003	120,869	121,170	121,255	120,911	120,426	119,538

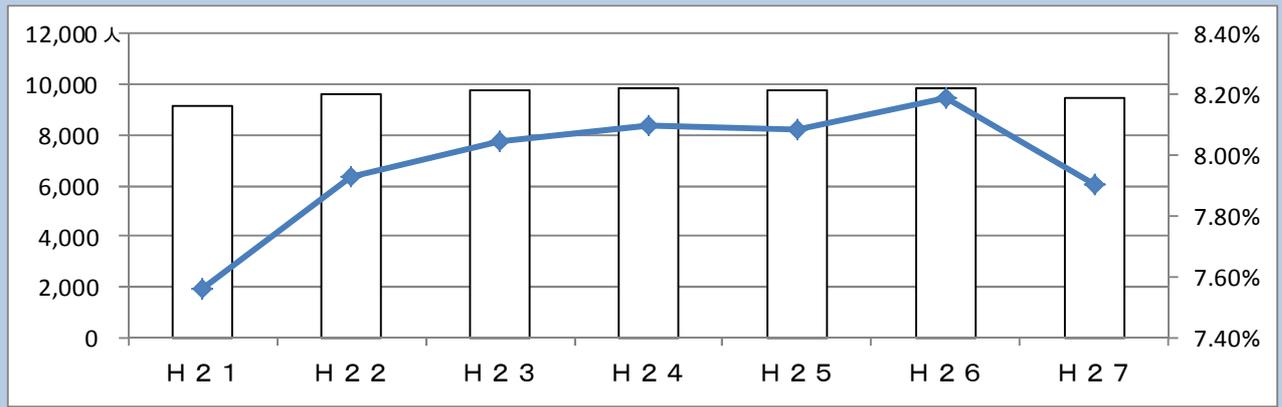


12

指 標 名	算 出 式
児童扶養手当受給世帯の児童の割合	$\frac{\text{児童扶養手当受給世帯の児童数} \cdot (A)}{\text{全児童数 (0 \sim 17 歳)} \cdot (B)} \times 100\%$

■岡山市の推移■

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
指標	7.56%	7.93%	8.04%	8.10%	8.09%	8.19%	7.90%
(A)	9,147	9,584	9,748	9,822	9,777	9,862	9,448
(B)	121,003	120,869	121,170	121,255	120,911	120,426	119,538

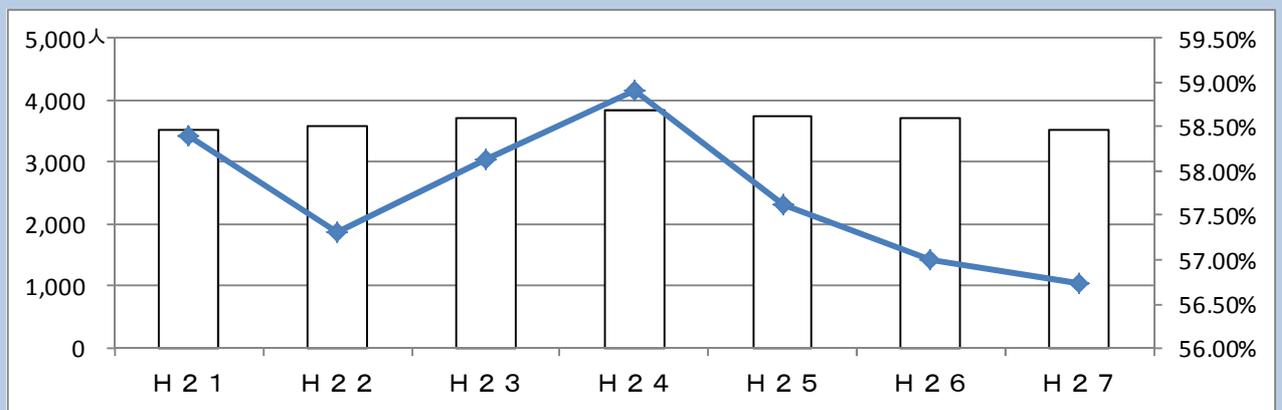


13

指 標 名	算 出 式
児童扶養手当全部支給世帯割合	$\frac{\text{児童扶養手当全部支給世帯数} \cdot (A)}{\text{全児童扶養手当受給世帯数 (全部+一部)} \cdot (B)} \times 100\%$

■岡山市の推移■

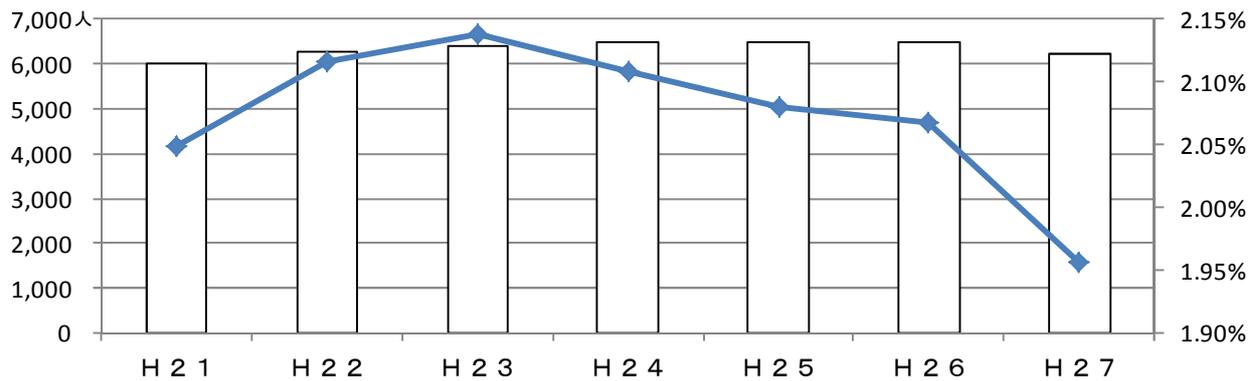
年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
指標	58.39%	57.32%	58.14%	58.91%	57.63%	56.99%	56.74%
(A)	3,512	3,594	3,724	3,827	3,729	3,709	3,532
(B)	6,015	6,270	6,405	6,496	6,471	6,508	6,225



指 標 名	算 出 式
児童扶養手当受給世帯割合	$\frac{\text{児童扶養手当を受けている世帯数（全部+一部）} \cdot (A)}{\text{全世帯数} \cdot (B)} \times 100\%$

■岡山市の推移■

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
指標	2.05%	2.12%	2.14%	2.11%	2.08%	2.07%	1.96%
(A)	6,015	6,270	6,405	6,496	6,471	6,508	6,225
(B)	293,649	296,389	299,686	308,035	311,173	314,719	318,188



平成28年度のあゆみ

平成29年度の取組

既存事業の集約

「困難を抱える子ども・家庭」への対策の集約
(庁内関係部署が所管)

集約した事業を
4つの支援に取りまとめ
教育・生活・就労・経済

- 集約した事業を体系的に取りまとめ
- リーフレットの作成
(関係窓口に配付、相談時に活用)
- 既存事業の収集は、より幅広に継続

4
5月

現状の把握

アンケート調査

「困難を抱える子ども・家庭」の支援者へのアンケート調査
(関係機関、NPO団体、地域の支援者等)

アンケート調査の回答を踏まえ
更に掘り下げた聞き取り調査

4月

指標

「困難を抱える子ども・家庭」の状態
(庁内関係部署が所管)

- データのグラフ化
- 他都市(政令市)との比較

指標の集約

本市の指標を設定
本市の状況を把握

見えてきた岡山市の現状

既存事業見直し・事業拡充

新たな事業の検討

平成30年度
予算に向けて

有識者からの聞き取り・関係団体との連携

プロジェクトチーム会議(H28.11.8)
○大学講師から現状の聞き取り

「子どもの居場所づくり」の現場調査
(倉敷トワイライトホーム)

関係団体等との連携

○支援者のネットワークづくり

通
年

周知啓発

○フォーラムの開催

8
月頃